

# FD活動報告書

2021年度

第一薬科大学

FD委員会

Published by Daiichi University of Pharmacy  
22-1 Tamagawa-cho, Minami-ku, Fukuoka 815-8511, Japan

# 目 次

<b>薬学部 学生授業評価アンケート報告</b> .....	<b>1</b>
1. 授業評価アンケート実施要領 .....	3
2. アンケート集計結果 .....	9
3. 学生コメント総括 .....	34
<b>看護学部 学生授業評価アンケート報告</b> .....	<b>37</b>
1. アンケート集計結果 .....	39
<b>薬学部 教員相互授業参観報告</b> .....	<b>47</b>
1. 令和3年度「教員相互授業参観」実施要領（薬学部） .....	49
2. 令和3年度「教員相互授業参観」感想 .....	52
<b>看護学部 教員相互授業参観報告</b> .....	<b>63</b>
1. 令和3年度「教員相互授業参観」実施要領（看護学部） .....	65
2. 令和3年度「教員相互授業参観」感想 .....	68
<b>薬学部 教員による授業の自己評価報告</b> .....	<b>75</b>
<b>看護学部 教員による授業の自己評価報告</b> .....	<b>79</b>
<b>薬学部 FD 講習会報告</b> .....	<b>87</b>
1. 令和3年度 FD講習会一覧 .....	89
2. 令和3年度 FD講習会 報告書 .....	91
3. FD研修会参加報告 .....	108
<b>看護学部 FD 講習会報告</b> .....	<b>111</b>
1. 令和3年度 第1回FD学内研修会 .....	113
2. 令和3年度 第2回FD学内研修会 .....	114
3. 令和3年度 第3回FD学内研修会 .....	116



**薬学部**  
**学生授業評価アンケート報告**

**令和 3 年度**



## 1.授業評価アンケート実施要領

【目的】このアンケートは授業及び実習に関し学生の率直な意見を収集し、その結果を授業及び実習の質向上を図るために実施するものである。

### 【実施要領】

- (1) 回答対象者：1～6年次学生全員。
- (2) 評価対象科目：すべての授業及び実習科目（実務実習と演習科目を除く）
- (3) 実施方法：
  - ①マークシート用紙を用いて行う。
  - ②無記名とする。
  - ③集計作業にはFD委員があたる。
  - ④授業及び実習に対する学生の意見・要望は自由記述とした。
- (4) 実施時期：講義または実習の後半とし、科目担当教員が行った。
- (5) アンケート項目：講義については、教員評価に関する質問（8項目）、学生自己評価に関する質問（4項目）及び自由記載欄を設けた。実習に関しては、教員評価に関する質問（9項目）、学生自己評価に関する質問（5項目）及び自由記載欄を設けた。
- (6) アンケート結果の集計：解析ソフト「丸ごと授業評価 for Windows」とMicrosoft Excelを用いた。
- (7) アンケート集計結果の表記：学年ごとに前期、後期に分けて、全科目の平均評定値を、グラフと表にして示した。
- (8) 調査結果の取り扱い
  - ①各教員へ結果資料を配布する。
  - ②授業及び実習に対するコメントは、当該教員が確認し、FD委員が総括する。
  - ③各教員は調査結果を授業及び実習に反映させる。
  - ④学生へは、「令和3年度FD活動報告書」として図書館、国試情報センター及び第一薬科大学ホームページにて公開する。

(資料 1) 授業アンケート調査項目と実際に使用されたアンケート用紙

< 教員評価 >

- ①授業中に到達目標 (SBOs) がきちんと示されていた。
- ②シラバスとの整合性がとれていた。
- ③授業内容に興味がわくような工夫がされていた。
- ④授業内容を理解させる工夫がされていた。
- ⑤学生の理解度に応じた対策がされていた。
- ⑥説明は明瞭で聞きとりやすかった。
- ⑦黒板の文字やスライドの映像が見やすかった。
- ⑧授業に集中できる (私語をしない) 環境作りに努めていた。

< 学生自己評価 >

- ⑨事前にシラバスを読んでこの授業に臨んだ。(頻度、程度を 5 段階で評価)
- ⑩予習をしてこの授業に臨んだ。(頻度、程度を 5 段階で評価)
- ⑪この授業の復習をした。(頻度、程度を 5 段階で評価)
- ⑫この授業の内容を理解できた。

## 第一薬科大学 授業評価アンケート

この授業アンケート調査は、学生の皆さんの貴重な意見を聞かせて頂くことで、皆さんの授業への取組みと向上心を高め、今後さらにより良い授業を行うためのものです。無記名で実施しますので、有りのままの正直な気持ち・意見を書いて下さい。皆さんの成績・評価とは全く関係ありませんので、ご協力をお願いします。

講義名		教員名	( )先生
アンケート実施日	年 月 日		

※ 下記の設問について、最も当てはまると思う番号を右の5段階により1つ選び、それをマークシートに転記して下さい。  
わからない場合は、③を選んで下さい。

①	②	③	④	⑤
全くそう思わない	←	普通	→	強くそう思う

### I この授業について意見を聞かせて下さい。

問1	① ② ③ ④ ⑤	授業中に到達目標 (SBOs) がきちんと示されていた。
問2	① ② ③ ④ ⑤	シラバスとの整合性がとれていた。
問3	① ② ③ ④ ⑤	授業内容に興味がわくような工夫がされていた。
問4	① ② ③ ④ ⑤	授業内容を理解させる工夫がされていた。
問5	① ② ③ ④ ⑤	学生の理解度に応じた対策がされていた。
問6	① ② ③ ④ ⑤	説明は明瞭で聞きとりやすかった。
問7	① ② ③ ④ ⑤	黒板の文字やスライドの映像が見やすかった。
問8	① ② ③ ④ ⑤	授業に集中できる (私語をしない) 環境作りに努めていた。

### II あなた自身のこの授業への取組みと成果について意見を聞かせて下さい。

問9	① ② ③ ④ ⑤	事前にシラバスを読んでこの授業に臨んだ。 (頻度、程度を5段階で評価)
問10	① ② ③ ④ ⑤	予習をしてこの授業に臨んだ。 (頻度、程度を5段階で評価)
問11	① ② ③ ④ ⑤	この授業の復習をした。 (頻度、程度を5段階で評価)
問12	① ② ③ ④ ⑤	この授業の内容を理解できた。

### III-1 この授業に関して、良かった点をお聞かせ下さい。


### III-2 この授業に関して、改善して欲しい点をお聞かせ下さい。




(資料 2) 実習アンケート調査項目と実際に使用されたアンケート用紙

< 教員評価 >

- ① 実習中に到達目標 (SBOs) がきちんと示されていた。
- ② シラバスとの整合性がとれていた。
- ③ 実習内容に興味がわくような工夫がされていた。
- ④ 実習内容を理解させる工夫がされていた。
- ⑤ 技能 (手技・態度) を習得させる工夫がされていた。
- ⑥ 説明は明瞭で聞きとりやすかった。
- ⑦ 黒板の文字やスライドの映像が見やすかった。
- ⑧ 実習に集中できる (私語、居眠りなどをしない) 環境作りに努めていた。
- ⑨ 実習のための設備や器具は十分に備わっており準備されていた。

< 学生自己評価 >

- ⑩ 事前にシラバスを読んでこの実習に臨んだ。(頻度、程度を 5 段階で評価)
- ⑪ 予習をしてこの実習に臨んだ。(頻度、程度を 5 段階で評価)
- ⑫ この実習の復習をした。(頻度、程度を 5 段階で評価)
- ⑬ この実習の内容を理解できた。
- ⑭ この実習で学べる技能 (手技・態度) を習得できた。

第一薬科大学 実習評価アンケート

この実習アンケート調査は、学生の皆さんの貴重な意見を聞かせて頂くことで、皆さんの実習への取組みと向上心を高め、今後さらにより良い実習を行うためのものです。無記名で実施しますので、有りのままの正直な気持ち・意見を書いて下さい。皆さんの成績・評価とは全く関係ありませんので、ご協力をお願いします。

実 習 名		担当分野	( ) 先生
アンケート実施日	年 月 日		

※ 下記の設問について、最も当てはまると思う番号を右の5段階により1つ選びそれをマークシートに転記して下さい。  
わからない場合は、③を選んで下さい。

①	②	③	④	⑤
全くそう思わない	←	普通	→	強くそう思う

I この実習について意見を聞かせて下さい。

問 1	① ② ③ ④ ⑤	実習中に到達目標 (SBOs) がきちんと示されていた。
問 2	① ② ③ ④ ⑤	シラバスとの整合性がとれていた。
問 3	① ② ③ ④ ⑤	実習内容に興味がわくような工夫がされていた。
問 4	① ② ③ ④ ⑤	実習内容を理解させる工夫がされていた。
問 5	① ② ③ ④ ⑤	技能 (手技・態度) を習得させる工夫がされていた。
問 6	① ② ③ ④ ⑤	説明は明瞭で聞きとりやすかった。
問 7	① ② ③ ④ ⑤	黒板の文字やスライドの映像が見やすかった。
問 8	① ② ③ ④ ⑤	実習に集中できる (私語、居眠りなどをしない) 環境作りに努めていた。
問 9	① ② ③ ④ ⑤	実習のための設備や器具は十分に備わっており準備されていた。

II あなた自身のこの実習への取組みと成果について意見を聞かせて下さい

問 10	① ② ③ ④ ⑤	事前にシラバスを読んでこの実習に臨んだ。 (頻度、程度を5段階で評価)
問 11	① ② ③ ④ ⑤	予習をしてこの実習に臨んだ。 (頻度、程度を5段階で評価)
問 12	① ② ③ ④ ⑤	この実習の復習をした。 (頻度、程度を5段階で評価)
問 13	① ② ③ ④ ⑤	この実習の内容を理解できた。
問 14	① ② ③ ④ ⑤	この実習で学べる技能 (手技・態度) を習得できた。

III-1 この実習に関して、良かった点をお聞かせ下さい。


III-2 この実習に関して、改善して欲しい点をお聞かせ下さい。


(資料 3) 実際に使用されたマークシート

回答用紙

1. 記入は、必ず黒の鉛筆で、○の中を正確に塗りつぶして下さい。
2. 書き損じた場合には、プラスチック製消しゴムできれいに消して下さい。
3. 用紙を、折り曲げたり汚さないで下さい。



	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ
問 1	①	②	③	④	⑤
問 2	①	②	③	④	⑤
問 3	①	②	③	④	⑤
問 4	①	②	③	④	⑤
問 5	①	②	③	④	⑤
問 6	①	②	③	④	⑤
問 7	①	②	③	④	⑤
問 8	①	②	③	④	⑤
問 9	①	②	③	④	⑤
問10	①	②	③	④	⑤
問11	①	②	③	④	⑤
問12	①	②	③	④	⑤
問13	①	②	③	④	⑤
問14	①	②	③	④	⑤
問15	①	②	③	④	⑤
問16	①	②	③	④	⑤
問17	①	②	③	④	⑤
問18	①	②	③	④	⑤
問19	①	②	③	④	⑤
問20	①	②	③	④	⑤
問21	①	②	③	④	⑤
問22	①	②	③	④	⑤
問23	①	②	③	④	⑤
問24	①	②	③	④	⑤
問25	①	②	③	④	⑤
問26	①	②	③	④	⑤
問27	①	②	③	④	⑤
問28	①	②	③	④	⑤
問29	①	②	③	④	⑤
問30	①	②	③	④	⑤
問31	①	②	③	④	⑤
問32	①	②	③	④	⑤
問33	①	②	③	④	⑤
問34	①	②	③	④	⑤
問35	①	②	③	④	⑤
問36	①	②	③	④	⑤
問37	①	②	③	④	⑤
問38	①	②	③	④	⑤
問39	①	②	③	④	⑤
問40	①	②	③	④	⑤
問41	①	②	③	④	⑤
問42	①	②	③	④	⑤
問43	①	②	③	④	⑤
問44	①	②	③	④	⑤
問45	①	②	③	④	⑤
問46	①	②	③	④	⑤
問47	①	②	③	④	⑤
問48	①	②	③	④	⑤
問49	①	②	③	④	⑤
問50	①	②	③	④	⑤

(資料 4) 令和 3 年度授業評価アンケート回答状況

令和 3 年度 前期			
学年	履修者総数	有効回答総数	回答率
1 年	2506	2045	81.6%
2 年	1583	988	62.4%
3 年	1475	1131	76.7%
4 年	1500	970	64.7%
5 年	—	—	—
6 年	378	240	63.5%

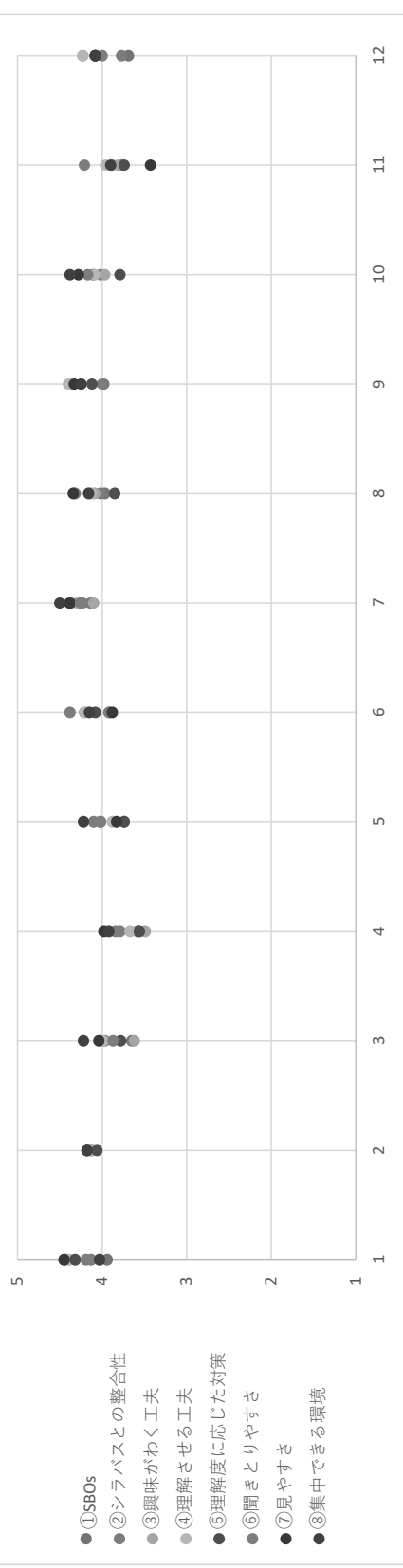
令和 3 年度 後期			
学年	履修者総数	有効回答総数	回答率
1 年	2301	1784	77.5%
2 年	1494	967	64.7%
3 年	1760	1173	66.6%
4 年	—	—	—
5 年	—	—	—
6 年	—	—	—

## 2. アンケート集計結果

次ページから令和 3 年度 授業および実習評価結果のまとめを掲載する。

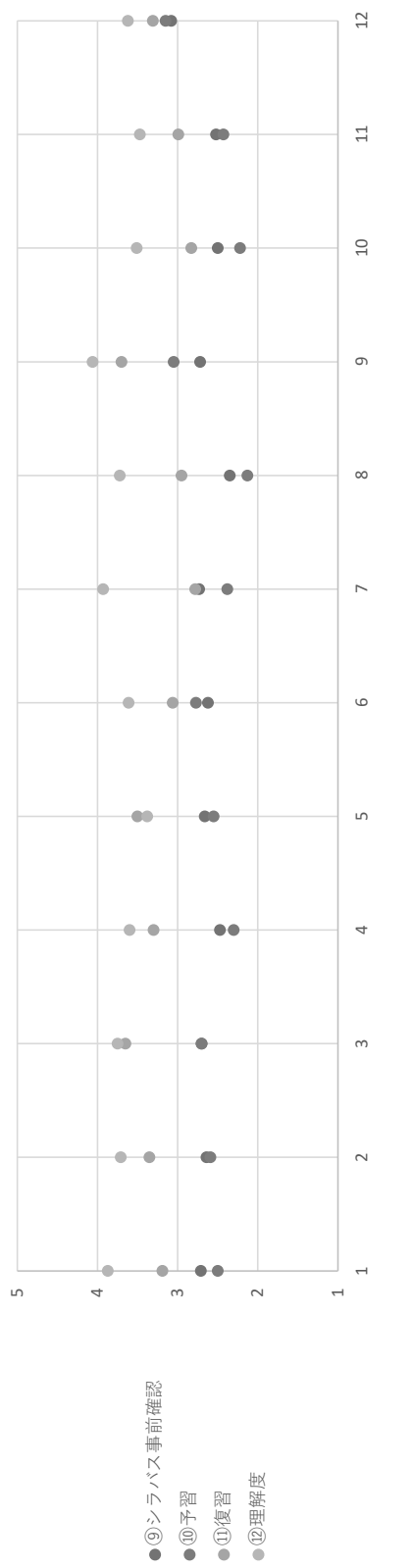
2021年度 1年生 前期 授業評価 (教員評価) ①

科目名	英会話 I		基礎化学 I		基礎数学 I		基礎物理学		経済学 I		情報処理演習 I		心理学		中国語 I		哲学 I		福祉学 I		フランス語 I	
	A	B	全		全		全		全		全		全		全		全		全		全	
クラス	3.94	4.12	3.65	4.12	3.58	4.02	4.02	4.02	3.91	4.14	4.14	3.97	3.98	4.11	3.77	3.69						
①SBOs	4.13	4.15	3.97	4.15	3.79	4.1	4.1	4.23	4.23	4.1	4.1	4.02	4	4.02	3.88	3.77						
②シラバスとの整合性	4.42	4.12	3.62	4.12	3.49	3.74	3.74	4.21	4.21	4.1	4.09	4.37	4.37	3.97	3.81	4.23						
③興味がわく工夫	4.39	4.12	3.99	4.12	3.67	3.88	3.88	4.2	4.3	4.3	4.13	4.4	4.4	4.09	3.96	4.23						
④理解させる工夫	4.32	4.06	3.78	4.06	3.56	3.74	3.74	4.08	4.37	4.37	3.85	4.12	4.12	3.79	3.74	4.08						
⑤理解度に応じた対策	4.19	4.18	3.87	4.18	3.84	4.02	4.02	4.38	4.26	4.26	4.32	4.25	4.25	4.17	4.21	4						
⑥聞きとりやすさ	4.45	4.18	4.04	4.18	3.98	3.83	3.83	3.88	4.39	4.39	4.34	4.33	4.33	4.28	3.43	4.08						
⑦見やすさ	4.03	4.18	4.22	4.18	3.92	4.22	4.22	4.15	4.5	4.5	4.16	4.25	4.25	4.38	3.9	4.08						
⑧集中できる環境	4.23	4.14	3.89	4.14	3.73	3.94	3.94	4.09	4.29	4.29	4.11	4.21	4.21	4.10	3.84	4.02						
平均																						



2021年度 1年生 前期 授業評価 (学生自己評価) ①

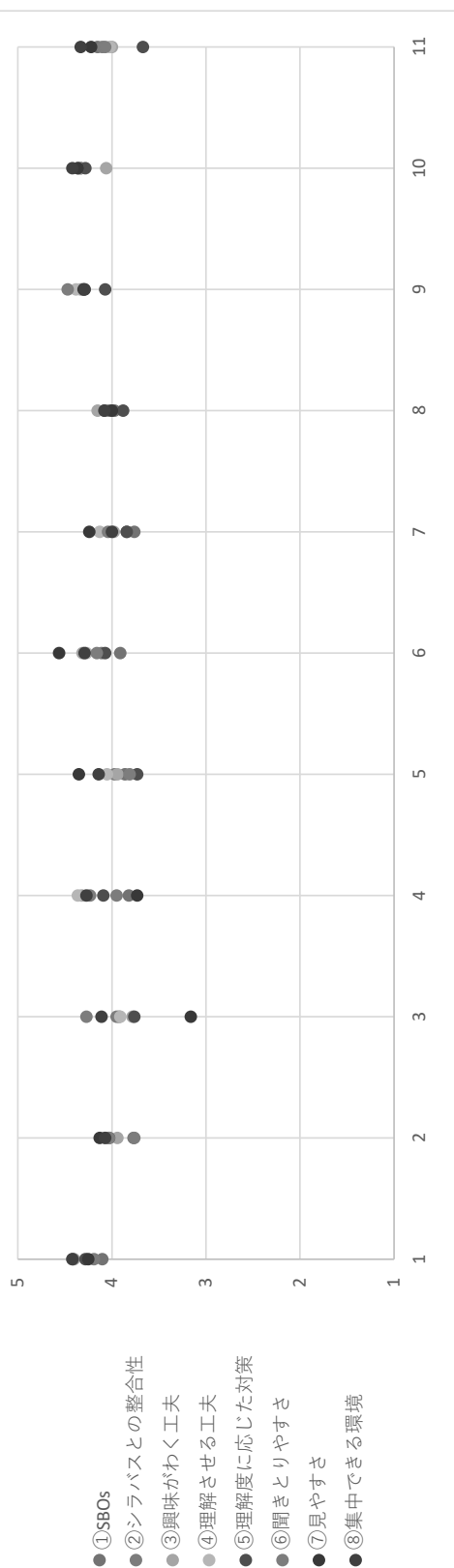
科目名	英会話Ⅰ		基礎化学Ⅰ	基礎数学Ⅰ	基礎物理学	経済学Ⅰ	情報処理演習Ⅰ	心理学	中国語Ⅰ	哲学Ⅰ	福祉学Ⅰ	フランス語Ⅰ
	A	B	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
クラス	2.71	2.64	2.7	2.47	2.66	2.62	2.73	2.35	2.72	2.5	2.52	3.08
⑨シラバス事前確認	2.5	2.59	2.7	2.3	2.55	2.77	2.38	2.13	3.05	2.22	2.43	3.15
⑩予習	3.19	3.35	3.65	3.3	3.5	3.06	2.78	2.95	3.7	2.83	2.99	3.31
⑪復習	3.87	3.71	3.75	3.6	3.38	3.61	3.93	3.72	4.06	3.51	3.47	3.62
⑫理解度	3.07	3.07	3.20	2.92	3.02	3.02	2.96	2.79	3.38	2.77	2.85	3.29



科目名	英会話Ⅰ		基礎化学Ⅰ	基礎数学Ⅰ	基礎物理学	経済学Ⅰ	情報処理演習Ⅰ	心理学	中国語Ⅰ	哲学Ⅰ	福祉学Ⅰ	フランス語Ⅰ
	A	B	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
クラス	33	45	156	147	151	88	148	153	68	109	136	16
履修者数	31	34	103	129	121	65	120	128	57	88	113	13
有効回答数	93.9%	75.6%	66.0%	87.8%	80.1%	73.9%	81.1%	83.7%	83.8%	80.7%	83.1%	81.3%
回答率												

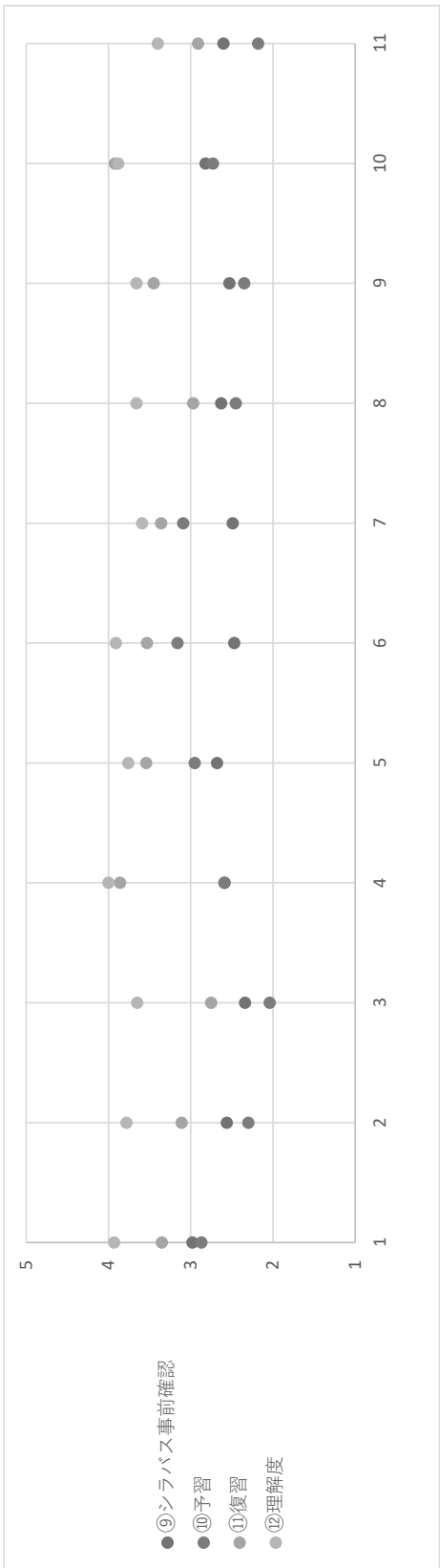
## 2021年度 1年生 前期 授業評価 (教員評価) ②

科目名	文学Ⅰ 全	文章表現論 全	法学Ⅰ 全	本草学 全	薬学基礎英語Ⅰ			薬学への招待 全	薬用資源学 全	有機化学Ⅰ 全	倫理学Ⅰ 全
					A	B	C				
クラス											
①SBOS	4.1	3.77	3.92	3.82	3.86	3.91	3.76	3.97	4.31	4.33	4.15
②シラバスとの整合性	4.19	3.76	3.95	3.95	3.97	4.11	3.84	4.08	4.29	4.33	4.1
③興味がわく工夫	4.42	3.94	3.78	4.32	3.94	4.31	3.98	4.15	4.33	4.06	4
④理解させる工夫	4.4	4.07	3.91	4.36	4.05	4.27	4.13	4.02	4.38	4.35	4.02
⑤理解度に応じた対策	4.28	4.03	3.76	4.09	3.73	4.07	3.84	3.88	4.07	4.28	3.67
⑥聞きとりやすさ	4.41	4.03	4.27	4.23	3.81	4.16	4.04	4.03	4.47	4.36	4.07
⑦見やすさ	4.25	4.13	3.16	3.73	4.35	4.56	4.24	4	4.3	4.36	4.22
⑧集中できる環境	4.42	4.07	4.11	4.27	4.14	4.29	4	4.08	4.29	4.42	4.33
平均	4.31	3.98	3.86	4.10	3.98	4.21	3.98	4.03	4.31	4.31	4.07



2021年度 1年生 前期 授業評価 (学生自己評価) ②

科目名	文学Ⅰ		文章表現論		法学Ⅰ		本草学		薬学基礎英語Ⅰ			薬学への招待		薬用資源学		有機化学Ⅰ		倫理学Ⅰ	
	全	全	全	全	全	全	全	全	A	B	C	全	全	全	全	全	全	全	全
⑨シラバス事前確認	2.98	2.56	2.34	2.59	2.68	2.47	2.49	2.63	2.53	2.82	2.6	2.53	2.53	2.82	2.6				
⑩予習	2.87	2.3	2.04	2.59	2.95	3.16	3.09	2.45	2.35	2.73	2.18	2.35	2.73	2.18					
⑪復習	3.35	3.11	2.75	3.86	3.54	3.53	3.36	2.97	3.45	3.92	2.91	3.45	3.92	2.91					
⑫理解度	3.93	3.78	3.65	4	3.76	3.91	3.59	3.66	3.66	3.88	3.4	3.66	3.88	3.4					
平均	3.28	2.94	2.70	3.26	3.23	3.27	3.13	2.93	3.00	3.34	2.77	3.00	3.34	2.77					

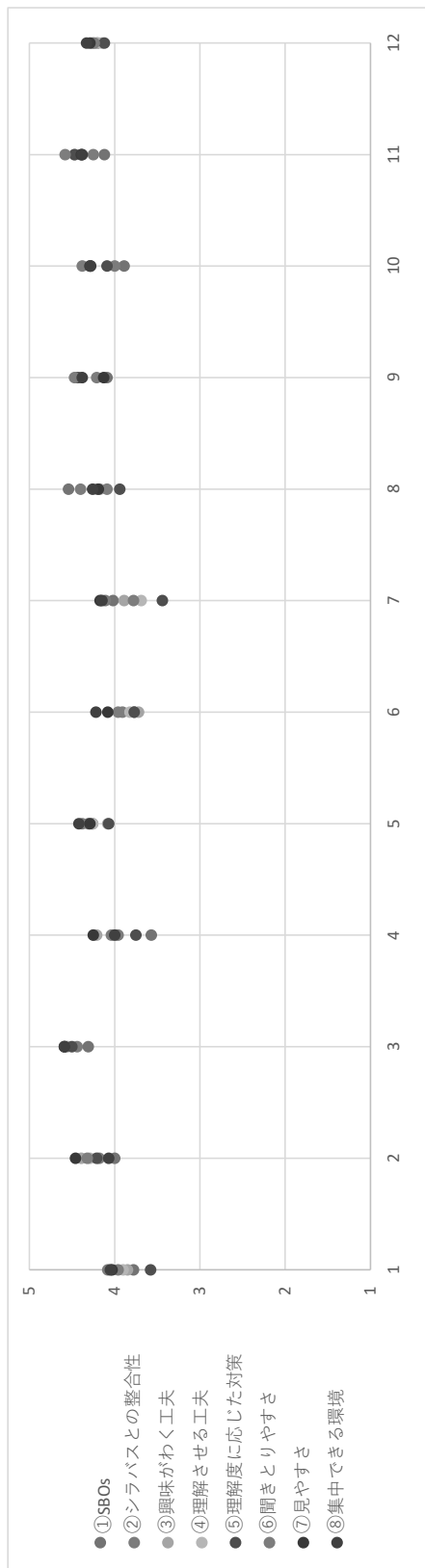


科目名	文学Ⅰ		文章表現論		法学Ⅰ		本草学		薬学基礎英語Ⅰ			薬学への招待		薬用資源学		有機化学Ⅰ		倫理学Ⅰ	
	全	全	全	全	全	全	全	全	A	B	C	全	全	全	全	全	全	全	全
クラス	121	153	121	32	53	49	52	229	152	156	138	152	156	138					
履修者数	121	153	121	32	53	49	52	229	152	156	138	152	156	138					
有効回答数	100	126	93	22	37	45	45	192	127	132	124	127	132	124					
回答率	82.6%	82.4%	76.9%	68.8%	69.8%	91.8%	86.5%	83.8%	83.6%	84.6%	89.9%	83.6%	84.6%	89.9%					



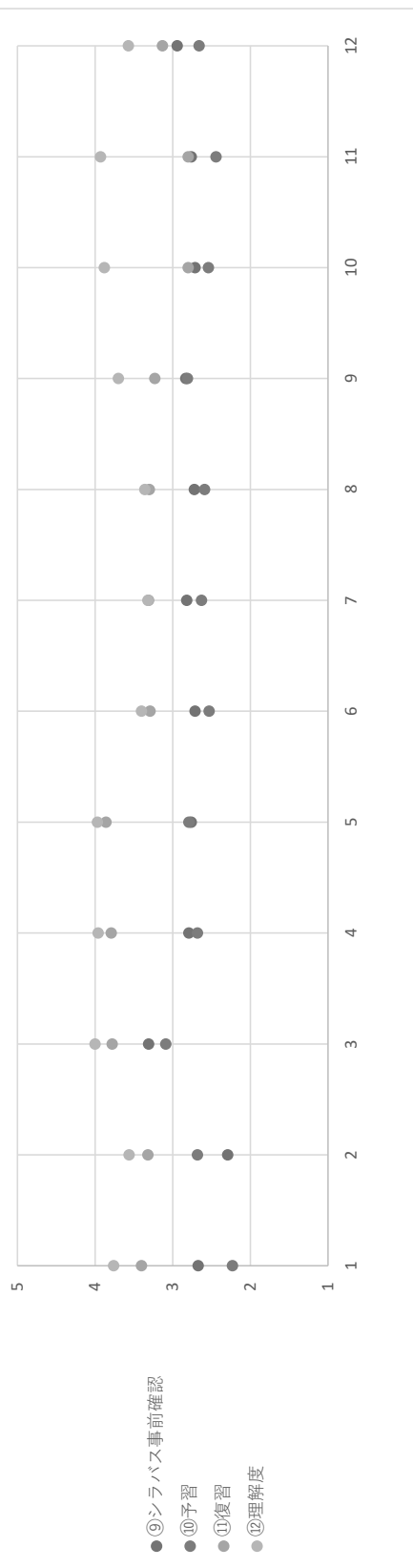
2021年度 1年生 後期 授業評価 (教員評価) ①

科目名	医療概論		英会話Ⅱ		漢方・民間薬概論		基礎化学Ⅱ		基礎数学Ⅱ		基礎生物学		機能形態学Ⅰ		経済学Ⅱ		コミュニケーション論		情報処理演習Ⅱ		
	全		A	B	全		全		全		全		全		全	A	B	全	A	B	全
クラス	3.78		4	4.31	3.57		4.26	3.77	4.02	4.54	4.09	3.89	4.12	4.2							
①SBOs	4.08		4.18	4.44	3.96		4.31	3.91	4.11	4.4	4.21	4	4.25	4.26							
②シラバスとの整合性	3.85		4.39	4.56	4.21		4.08	3.72	3.89	4.17	4.4	4.28	4.39	4.15							
③興味がわく工夫	3.9		4.29	4.56	4.25		4.26	3.82	3.69	4.21	4.45	4.29	4.47	4.21							
④理解させる工夫	3.58		4.21	4.5	3.75		4.07	3.77	3.44	3.94	4.43	4.09	4.47	4.12							
⑤理解度に応じた対策	3.96		4.32	4.59	4.04		4.38	3.96	3.78	4.09	4.47	4.38	4.58	4.24							
⑥聞きとりやすさ	4.03		4.46	4.59	4.25		4.29	4.08	4.17	4.19	4.13	4.29	4.39	4.29							
⑦見やすさ	4.05		4.07	4.59	4		4.42	4.22	4.15	4.26	4.38	4.28	4.38	4.33							
⑧集中できる環境	3.90		4.24	4.52	4.00		4.26	3.91	3.91	4.23	4.32	4.19	4.38	4.23							
平均																					



2021年度 1年生 後期 授業評価 (学生自己評価) ①

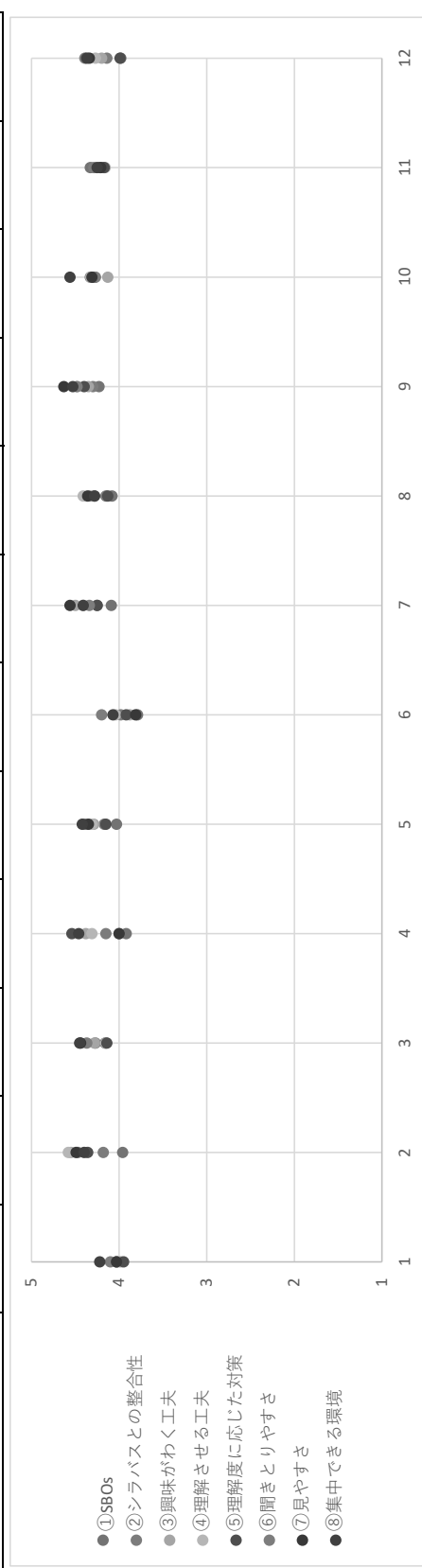
科目名	医療概論		英会話Ⅱ		漢方・民間薬概論		基礎化学Ⅱ		基礎数学Ⅱ		基礎生物学		機能形態学Ⅰ		経済学Ⅱ		コミュニケーション論		情報処理演習Ⅱ	
	全		A	B	全		全		全		全		全		全		A	B	全	
⑨シラバス事前確認	2.67		2.29	3.31	2.79		2.76		2.71		2.82		2.72		2.83		2.71	2.76	2.94	
⑩予習	2.23		2.68	3.09	2.68		2.79		2.53		2.63		2.59		2.81		2.54	2.44	2.66	
⑪復習	3.4		3.32	3.78	3.79		3.86		3.29		3.31		3.3		3.23		2.8	2.8	3.13	
⑫理解度	3.76		3.56	4	3.96		3.97		3.4		3.32		3.36		3.7		3.88	3.93	3.57	
平均	3.02		2.96	3.55	3.31		3.35		2.98		3.02		2.99		3.14		2.98	2.98	3.08	



科目名	医療概論		英会話Ⅱ		漢方・民間薬概論		基礎化学Ⅱ		基礎数学Ⅱ		基礎生物学		機能形態学Ⅰ		経済学Ⅱ		コミュニケーション論		情報処理演習Ⅱ	
	全		A	B	全		全		全		全		全		全		A	B	全	
クラス	145		32	43	31		147		146		146		150		79		73	72	146	
履修者数	109		28	32	28		118		78		124		105		47		65	59	112	
有効回答数	75.2%		87.5%	74.4%	90.3%		80.3%		53.4%		84.9%		70.0%		59.5%		89.0%	81.9%	76.7%	
回答率																				

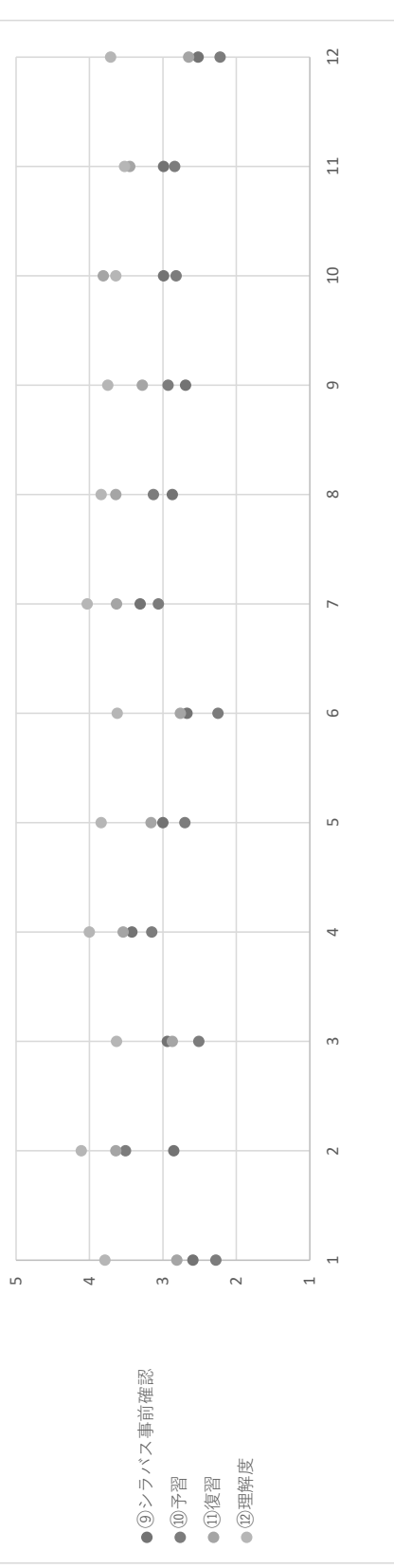
2021年度 1年生 後期 授業評価 (教員評価) ②

科目名	生命・医療倫理学	中国語Ⅱ		哲学Ⅱ		フランス語Ⅱ		文学Ⅱ		法学Ⅱ		薬学基礎英語Ⅱ			有機化学Ⅱ		理論化学		倫理学Ⅱ	
		全	全	全	全	全	全	A	B	C	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
クラス	4.03	3.96	4.16	3.92	4.03	3.79	4.09	4.08	4.23	4.23	4.23	4.23	4.29	4.33	4.33	4.33	4.33	4.33	3.98	
①SBOs	4.03	4.18	4.27	4.15	4.17	3.98	4.25	4.15	4.3	4.3	4.3	4.33	4.33	4.29	4.33	4.29	4.29	4.14		
②シラバスとの整合性	3.98	4.55	4.28	4.38	4.29	3.88	4.5	4.33	4.35	4.35	4.35	4.48	4.13	4.18	4.13	4.18	4.18	4.2		
③興味がわく工夫	4.01	4.58	4.15	4.31	4.31	4.04	4.41	4.41	4.48	4.48	4.48	4.32	4.32	4.16	4.32	4.16	4.16	4.27		
④理解させる工夫	3.95	4.36	4.14	4.54	4.15	3.92	4.25	4.13	4.4	4.4	4.4	4.28	4.28	4.17	4.28	4.17	4.17	3.99		
⑤理解度に応じた対策	4.1	4.47	4.37	4	4.39	4.2	4.34	4.28	4.48	4.48	4.48	4.27	4.27	4.22	4.27	4.22	4.22	4.39		
⑥聞きとりやすさ	4.03	4.49	4.44	4	4.35	3.81	4.56	4.36	4.63	4.63	4.63	4.31	4.31	4.21	4.31	4.21	4.21	4.34		
⑦見やすさ	4.22	4.4	4.45	4.46	4.42	4.07	4.41	4.28	4.53	4.53	4.53	4.56	4.56	4.25	4.56	4.25	4.25	4.37		
⑧集中できる環境	4.04	4.37	4.28	4.22	4.26	3.96	4.35	4.25	4.43	4.43	4.43	4.31	4.31	4.23	4.31	4.23	4.23	4.21		
平均																				



2021年度 1年生 後期 授業評価 (学生自己評価) ②

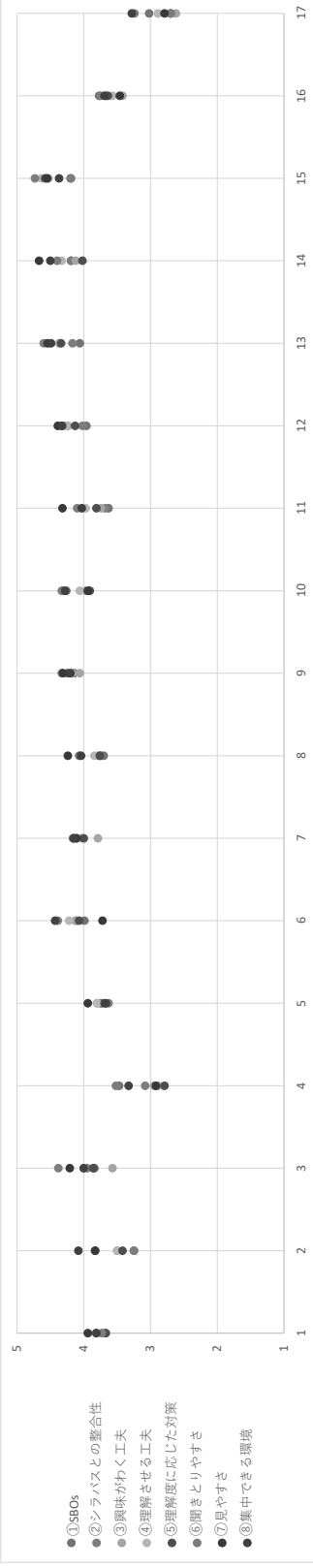
科目名	生命・医療倫理学		中国語Ⅱ		哲学Ⅱ		フランス語Ⅱ		文学Ⅱ		法学Ⅱ		薬学基礎英語Ⅱ			有機化学Ⅱ		理論化学		倫理学Ⅱ		
	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	A	B	C	全	平均	全	平均	全	平均	
クラス	2.59	2.85	2.94	3.42	3	2.67	3.31	2.87	2.69	2.99	2.99	2.99	2.69	2.99	2.99	2.99	2.99	2.99	2.99	2.99	2.99	2.99
⑨シラバス事前確認	2.28	3.51	2.51	3.15	2.7	2.25	3.06	3.13	2.93	2.82	2.82	2.82	2.93	2.82	2.82	2.82	2.82	2.82	2.82	2.82	2.82	2.82
⑩予習	2.81	3.64	2.87	3.54	3.16	2.76	3.63	3.64	3.28	3.81	3.81	3.81	3.64	3.81	3.81	3.81	3.81	3.81	3.81	3.81	3.81	3.81
⑪復習	3.79	4.11	3.63	4	3.84	3.62	4.03	3.84	3.75	3.64	3.64	3.64	3.75	3.64	3.64	3.64	3.64	3.64	3.64	3.64	3.64	3.64
⑫理解度	2.87	3.53	2.99	3.53	3.18	2.83	3.51	3.37	3.16	3.32	3.32	3.32	3.16	3.32	3.32	3.32	3.32	3.32	3.32	3.32	3.32	3.32
平均																						



科目名	生命・医療倫理学		中国語Ⅱ		哲学Ⅱ		フランス語Ⅱ		文学Ⅱ		法学Ⅱ		薬学基礎英語Ⅱ			有機化学Ⅱ		理論化学		倫理学Ⅱ	
	全	割合	全	割合	全	割合	全	割合	全	割合	全	割合	A	B	C	全	割合	全	割合	全	割合
クラス	147	85.9%	64	85.9%	94	83.0%	14	92.9%	114	87.7%	119	74.8%	48	66.7%	46	78.9%	145	78.6%	100	83.0%	
履修者数	116		55		78		13		100		89		32		40		120		114		83
有効回答数																					
回答率	78.9%		85.9%		83.0%		92.9%		87.7%		74.8%		66.7%		87.0%		78.9%		78.6%		83.0%

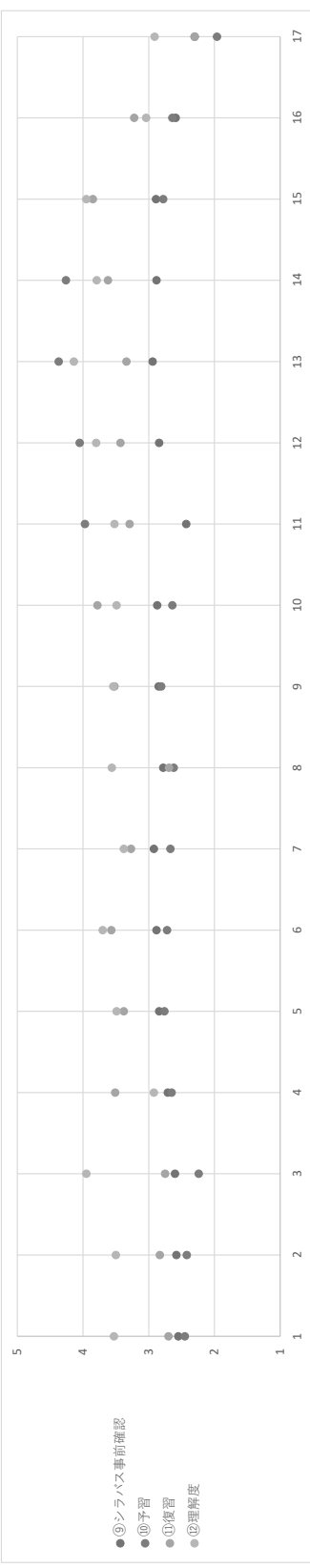
2021年度 2年生 前期 授業評価 (教員評価)

科目名	基礎薬理学		漢方薬理学		基礎統計学		薬形形態学II		生命科学I		微生物学I		物理学I		物理化学I		分析化学I		無機化学		薬学英語				薬理学I		有機化学III		臨床心理学	
	全	①	全	①	全	①	全	①	全	①	全	①	全	①	全	①	全	①	全	①	②	③	④	全	①	全	①	全		
クラス	3.69		3.25		3.84		3.47		3.74		3.99		4.16		4.17		4.32		4.32		3.63		4.19		4.2		3.77		3.02	
①SBOs		3.82		3.83		3.95		3.52		3.74		4.11		4.11		4.26		3.68		4.19		4.17		4.19		4.19		3.67		3.24
②シラバスとの整合性		3.71		3.5		3.57		2.95		3.8		4.13		3.79		3.97		3.74		4.12		4.24		4.53		3.42		2.62		
③興味をわく工夫		3.81		3.5		4		2.88		3.8		4.22		4.04		4.06		3.97		4.33		4.27		4.63		3.57		2.89		
④理解させる工夫		3.67		3.42		3.86		2.79		3.69		4.07		4		3.91		3.81		4.02		4.13		4.58		3.64		2.7		
⑤理解度に応じた対策		3.73		3.25		4.38		3.08		3.63		4.39		4.15		4.33		4.1		4.4		4.32		4.4		4.73		3.75		2.7
⑥聞きとりやすさ		3.94		3.83		4.21		2.92		3.94		3.72		4.11		4.31		4.32		4.67		4.39		4.54		4.55		3.46		2.79
⑦見やすさ		3.81		4.08		4		3.33		3.67		4.43		4.15		4.2		4.03		4.5		4.33		4.49		4.37		3.69		3.28
⑧集中できる環境		3.77		3.58		3.98		3.12		3.75		4.13		4.06		4.20		3.91		4.30		4.21		4.37		4.47		3.62		2.91
平均																														



2021年度 2年生 前期 授業評価 (学生自己評価)

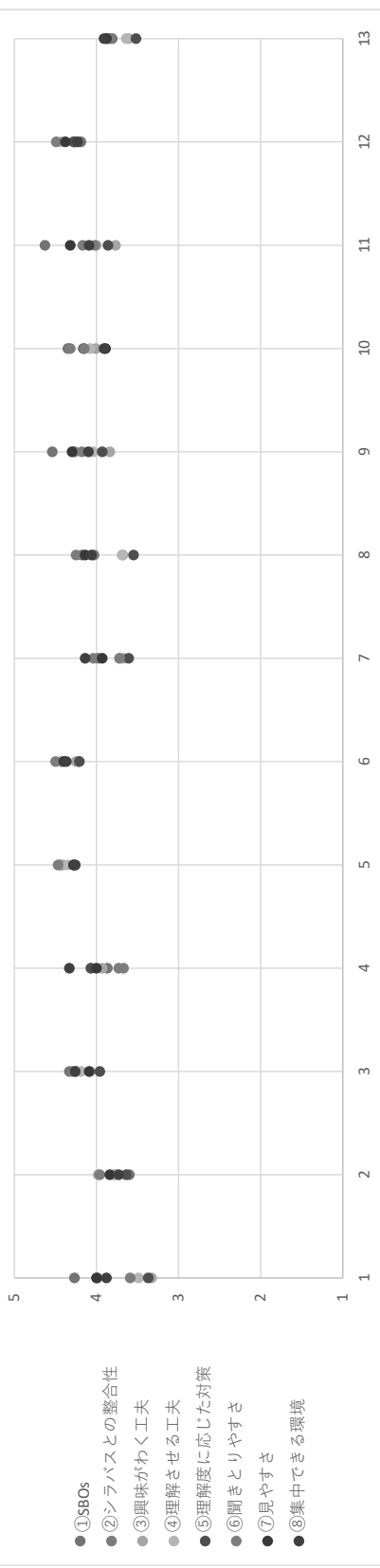
科目名	クラス	漢方薬理学		基礎統計学		機能形態学Ⅱ		生命科学Ⅰ		微生物学Ⅰ		物理化学Ⅰ		分析化学Ⅰ		無機化学		薬学英語				薬理学Ⅰ		有機化学Ⅲ		臨床心理学					
		全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	①	②	③	④	全	平均	全	平均	全	平均				
⑨シラバス事前確認		2.55	2.58	2.6	2.71	2.84	2.88	2.92	2.78	2.85	2.87	2.43	2.84	2.94	2.88	2.89	2.59	2.88	2.84	2.94	2.88	2.89	2.59	2.88	2.84	2.94	2.88	2.89	2.59	2.88	
⑩予習		2.45	2.42	2.24	2.65	2.76	2.72	2.67	2.62	2.81	2.64	3.97	4.05	4.37	4.26	2.78	2.64	3.97	4.05	4.37	4.26	2.78	2.64	3.97	4.05	4.37	4.26	2.78	2.64	3.97	
⑪復習		2.7	2.83	2.75	3.51	3.38	3.57	3.27	2.69	3.52	3.78	3.29	3.43	3.34	3.62	3.78	3.43	3.29	3.43	3.34	3.62	3.85	3.22	3.62	3.43	3.34	3.62	3.85	3.22	3.62	
⑫理解度		3.53	3.5	3.95	2.92	3.49	3.7	3.38	3.56	3.54	3.49	3.52	3.8	4.14	3.79	3.49	3.52	3.8	4.14	3.79	3.95	3.04	3.79	3.04	3.79	3.95	3.04	3.79	3.95	3.04	3.79
平均		2.81	2.83	2.89	2.95	3.12	3.22	3.06	2.91	3.18	3.20	3.30	3.53	3.70	3.64	3.20	3.30	3.53	3.70	3.64	3.37	2.87	3.20	2.87	3.37	3.64	3.37	2.87	3.37	2.87	3.37



科目名	クラス	漢方薬理学		基礎統計学		機能形態学Ⅱ		生命科学Ⅰ		微生物学Ⅰ		物理化学Ⅰ		分析化学Ⅰ		無機化学		薬学英語				薬理学Ⅰ		有機化学Ⅲ		臨床心理学					
		全	割合	全	割合	全	割合	全	割合	全	割合	全	割合	全	割合	全	割合	①	②	③	④	全	割合	全	割合	全	割合				
漢方薬理学		17	70.6%	12	55.8%	66	58.4%	65	58.0%	72	59.0%	73	62.4%	55	50.0%	87	75.7%	31	56.4%	45	81.8%	42	77.8%	90	80.4%	69	59.0%	47	50.5%		
基礎統計学		63	55.8%	63	55.8%	66	58.4%	65	58.0%	72	59.0%	73	62.4%	55	50.0%	87	75.7%	31	56.4%	45	81.8%	42	77.8%	90	80.4%	69	59.0%	47	50.5%		
機能形態学Ⅱ		66	58.4%	66	58.4%	66	58.4%	65	58.0%	72	59.0%	73	62.4%	55	50.0%	87	75.7%	31	56.4%	45	81.8%	42	77.8%	90	80.4%	69	59.0%	47	50.5%		
生命科学Ⅰ		65	58.0%	65	58.0%	65	58.0%	65	58.0%	72	59.0%	73	62.4%	55	50.0%	87	75.7%	31	56.4%	45	81.8%	42	77.8%	90	80.4%	69	59.0%	47	50.5%		
微生物学Ⅰ		72	59.0%	72	59.0%	72	59.0%	72	59.0%	72	59.0%	73	62.4%	55	50.0%	87	75.7%	31	56.4%	45	81.8%	42	77.8%	90	80.4%	69	59.0%	47	50.5%		
物理化学Ⅰ		73	62.4%	73	62.4%	73	62.4%	73	62.4%	72	59.0%	73	62.4%	55	50.0%	87	75.7%	31	56.4%	45	81.8%	42	77.8%	90	80.4%	69	59.0%	47	50.5%		
分析化学Ⅰ		55	50.0%	55	50.0%	55	50.0%	55	50.0%	55	50.0%	55	50.0%	55	50.0%	87	75.7%	31	56.4%	45	81.8%	42	77.8%	90	80.4%	69	59.0%	47	50.5%		
無機化学		69	62.2%	69	62.2%	69	62.2%	69	62.2%	69	62.2%	69	62.2%	69	62.2%	87	75.7%	31	56.4%	45	81.8%	42	77.8%	90	80.4%	69	59.0%	47	50.5%		
薬学英語		31	56.4%	31	56.4%	31	56.4%	31	56.4%	31	56.4%	31	56.4%	31	56.4%	87	75.7%	31	56.4%	45	81.8%	42	77.8%	90	80.4%	69	59.0%	47	50.5%		
薬理学Ⅰ		42	77.8%	42	77.8%	42	77.8%	42	77.8%	42	77.8%	42	77.8%	42	77.8%	87	75.7%	42	77.8%	42	77.8%	42	77.8%	90	80.4%	69	59.0%	47	50.5%		
有機化学Ⅲ		117	59.0%	117	59.0%	117	59.0%	117	59.0%	117	59.0%	117	59.0%	110	50.0%	115	62.2%	55	56.4%	55	81.8%	54	77.8%	112	80.4%	117	59.0%	47	50.5%		
臨床心理学		93	50.5%	93	50.5%	93	50.5%	93	50.5%	93	50.5%	93	50.5%	93	50.5%	93	50.5%	93	50.5%	93	50.5%	93	50.5%	93	50.5%	93	50.5%	93	50.5%	93	50.5%

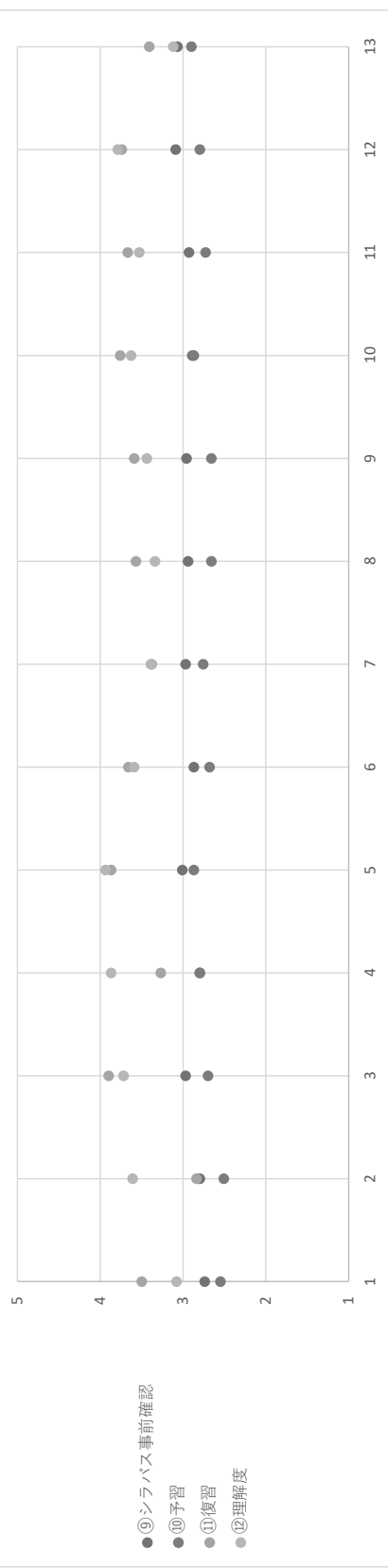
2021年度 2年生 後期 授業評価 (教員評価)

科目名	医療統計学		介護学概論		環境衛生学 I		漢方薬効免疫学		生薬学		生命科学 II		微生物学 II		形態薬物治療学 I		物理化学 II		放射化学		薬理学 II		有機化学 IV	
	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
①SBOs	4.27	4.33	3.6	3.87	4.44	4.43	3.98	4.18	4.54	4.35	4.63	4.19	3.81											
②シラバスとの整合性	3.99	4.25	3.78	3.67	4.26	4.22	4.04	4.25	4.32	4.17	4.27	3.87												
③興味がわく工夫	3.33	4.08	3.98	3.93	4.41	4.25	3.67	3.68	4.01	3.77	4.26	3.61												
④理解させる工夫	3.49	4.19	3.78	4.07	4.35	4.43	3.72	3.69	4.08	4	4.43	3.64												
⑤理解度に応じた対策	3.37	3.96	3.64	4.07	4.28	4.21	3.61	3.55	4.16	3.86	4.28	3.52												
⑥聞きとりやすさ	3.59	4.29	3.96	3.73	4.47	4.5	3.72	4.03	4.15	4.02	4.49	3.83												
⑦見やすさ	4	4.09	3.84	4	4.28	4.4	3.93	4.14	3.89	4.32	4.38	3.88												
⑧集中できる環境	3.88	4.26	3.73	4.33	4.26	4.37	4.14	4.06	3.91	4.09	4.23	3.91												
平均	3.74	4.18	3.79	3.96	4.34	4.35	3.85	3.95	4.11	4.11	4.32	3.76												



2021年度 2年生 後期 授業評価 (学生自己評価)

科目名	医療統計学	介護学概論	環境衛生学Ⅰ	漢方薬効免疫学	生薬学	生命科学Ⅱ	微生物学Ⅱ	前駆薬物治療学Ⅰ	物理化学Ⅱ	分析化学Ⅱ	放射化学	薬理学Ⅱ	有機化学Ⅳ
クラス	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
⑨シラバス事前確認	2.74	2.8	2.97	2.8	3.01	2.87	2.97	2.94	2.96	2.89	2.93	3.09	3.07
⑩予習	2.55	2.51	2.7	2.8	2.87	2.68	2.76	2.66	2.66	2.87	2.73	2.8	2.9
⑪復習	3.5	2.84	3.9	3.27	3.87	3.66	3.38	3.57	3.59	3.76	3.67	3.74	3.41
⑫理解度	3.08	3.61	3.72	3.87	3.94	3.59	3.39	3.34	3.44	3.63	3.53	3.79	3.12
平均	2.97	2.94	3.32	3.19	3.42	3.20	3.13	3.13	3.16	3.29	3.22	3.36	3.13

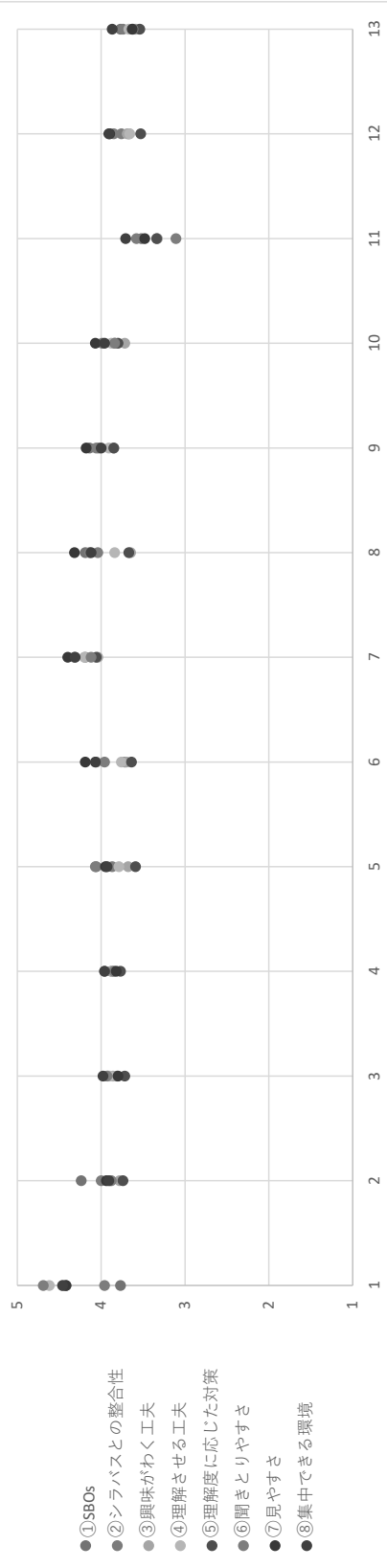


科目名	医療統計学	介護学概論	環境衛生学Ⅰ	漢方薬効免疫学	生薬学	生命科学Ⅱ	微生物学Ⅱ	前駆薬物治療学Ⅰ	物理化学Ⅱ	分析化学Ⅱ	放射化学	薬理学Ⅱ	有機化学Ⅳ
クラス	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
履修者数	126	91	125	21	121	128	124	129	125	124	132	126	122
有効回答数	78	45	104	15	68	68	103	65	82	75	99	96	69
回答率	61.9%	49.5%	83.2%	71.4%	56.2%	53.1%	83.1%	50.4%	65.6%	60.5%	75.0%	76.2%	56.6%



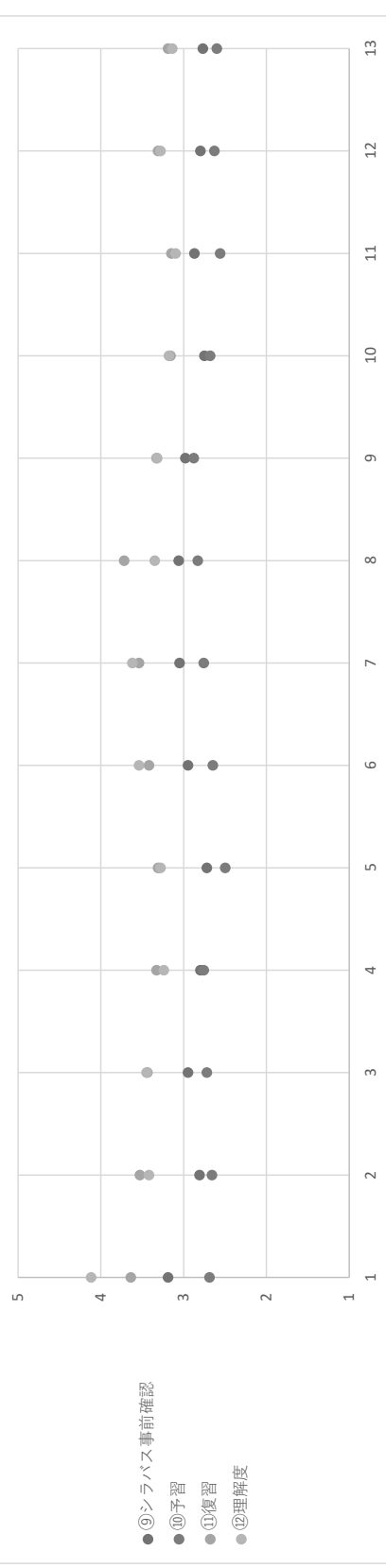
2021年度 3年生 前期 授業評価 (教員評価)

科目名	薬方製剤・薬理学		環境衛生学 II		食品衛生学 I		製剤学 I		生命科学 III		病態薬物治療学 II		物理化学 III		物理薬剤学		分析化学 III		免疫学		薬理学 III		有機化学 V		
	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
クラス	3.77	4.24	4	3.92	3.96	4.06	3.72	4.32	4.19	4.14	4.14	3.84	3.52	3.67	3.77										
①SBOs	3.96	4	3.81	3.88	3.87	3.87	3.96	4.19	4.14	4.03	3.99	3.58	3.76	3.74											
②シラバスとの整合性	4.46	3.78	3.86	3.87	3.68	3.7	4.04	3.65	3.85	3.72	3.33	3.69	3.59												
③興味がわく工夫	4.62	3.89	3.9	3.86	3.79	3.76	4.2	3.84	3.91	3.88	3.33	3.66	3.67												
④理解させる工夫	4.42	3.74	3.72	3.77	3.59	3.64	4.06	3.67	3.85	3.8	3.34	3.53	3.54												
⑤理解度に応じた対策	4.69	3.88	3.93	3.85	4.07	4.06	4.12	4.04	4.06	3.84	3.11	3.85	3.62												
⑥聞きとりやすさ	4.42	3.94	3.8	3.82	3.95	4.19	4.4	4.32	4.18	4.07	3.48	3.9	3.63												
⑦見やすさ	4.46	3.91	3.98	3.96	3.93	4.07	4.31	4.12	4	3.96	3.71	3.91	3.87												
⑧集中できる環境	4.35	3.92	3.87	3.87	3.87	3.89	4.21	4.00	4.00	3.89	3.43	3.75	3.68												
平均																									



2021年度 3年生 前期 授業評価 (学生自己評価)

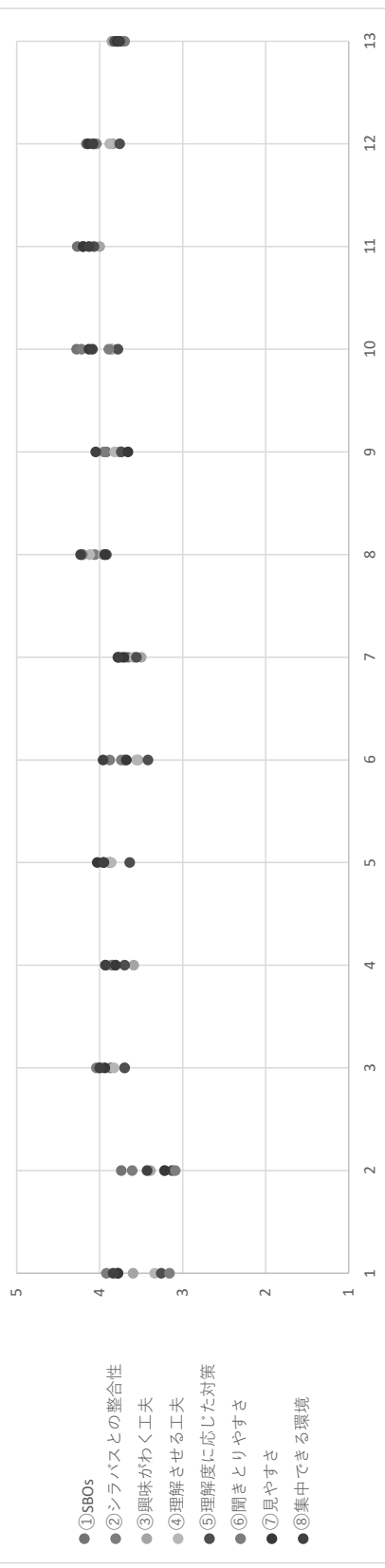
科目名	薬方製剤・薬剤学	環境衛生学Ⅱ	食品衛生学Ⅰ	製剤学Ⅰ	生命科学Ⅲ	病態薬物治療学Ⅱ	病態薬物治療学Ⅲ	物理化学Ⅲ	物理薬剤学	分析化学Ⅲ	免疫学	薬理学Ⅲ	有機化学Ⅴ
クラス	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
⑨シラバス事前確認	3.19	2.81	2.95	2.8	2.72	2.95	3.05	3.06	2.98	2.75	2.87	2.8	2.77
⑩予習	2.69	2.66	2.72	2.76	2.5	2.65	2.76	2.83	2.88	2.68	2.56	2.63	2.6
⑪復習	3.64	3.53	3.44	3.33	3.31	3.42	3.54	3.72	3.33	3.16	3.15	3.31	3.19
⑫理解度	4.12	3.42	3.45	3.24	3.28	3.54	3.62	3.35	3.32	3.18	3.1	3.28	3.14
平均	3.41	3.11	3.14	3.03	2.95	3.14	3.24	3.24	3.13	2.94	2.92	3.01	2.93



科目名	薬方製剤・薬剤学	環境衛生学Ⅱ	食品衛生学Ⅰ	製剤学Ⅰ	生命科学Ⅲ	病態薬物治療学Ⅱ	病態薬物治療学Ⅲ	物理化学Ⅲ	物理薬剤学	分析化学Ⅲ	免疫学	薬理学Ⅲ	有機化学Ⅴ
クラス	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
履修者数	36	124	117	121	119	118	118	130	117	117	117	124	117
有効回答数	26	101	91	93	87	67	93	111	95	76	95	105	91
回答率	72.2%	81.5%	77.8%	76.9%	73.1%	56.8%	78.8%	85.4%	81.2%	65.0%	81.2%	84.7%	77.8%

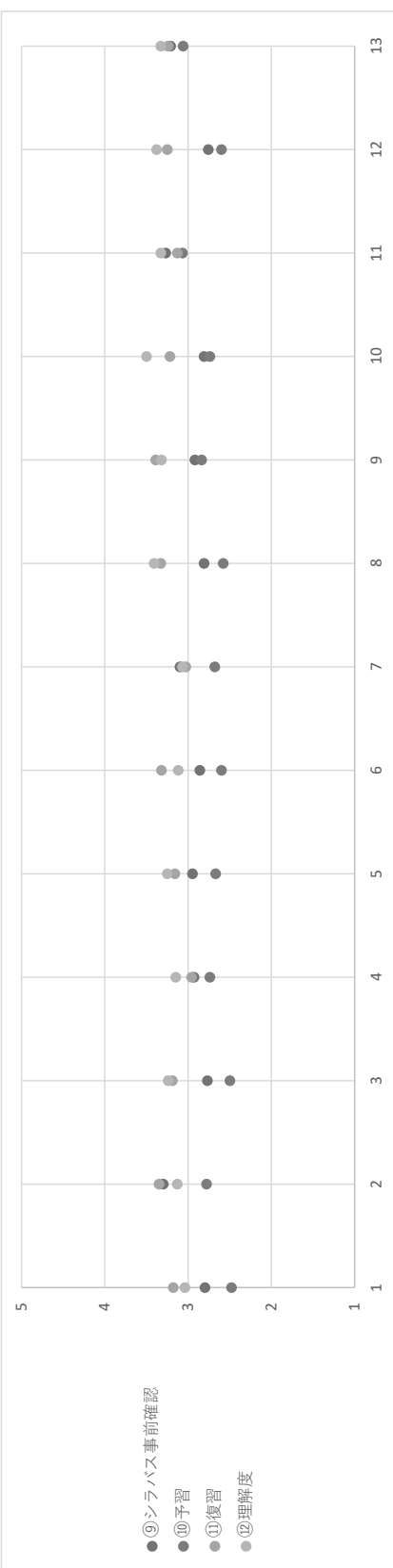
2021年度 3年生 後期 授業評価 (教員評価) ①

科目名	製剤学 II		有機化学 IV		医薬品化学 I		感染症治療学		公衆衛生学		食品衛生学 II		
	A	B	A	B	全	A	B	A	B	A	B	A	B
クラス	3.78	3.74	4	3.93	3.88	3.7	3.66	4.21	3.92	4.28	4.27	4.16	3.85
①SBOs	3.92	3.61	3.87	3.85	3.96	3.88	3.78	4.06	3.76	4.22	4.2	4.06	3.79
②シラバスとの整合性	3.6	3.39	3.7	3.59	3.88	3.54	3.5	3.96	3.74	3.85	4	3.84	3.85
③興味がわく工夫	3.34	3.22	3.83	3.81	3.86	3.56	3.59	4.12	3.82	3.85	4.13	3.88	3.73
④理解させる工夫	3.26	3.13	3.7	3.7	3.64	3.42	3.56	3.92	3.74	3.78	4.07	3.76	3.82
⑤理解度に応じた対策	3.16	3.09	4.04	3.85	3.96	3.74	3.75	4.21	3.95	3.89	4.2	4.04	3.7
⑥聞きとりやすさ	3.78	3.22	3.94	3.81	4.03	3.68	3.71	3.94	3.66	4.13	4.2	4.14	3.79
⑦見やすさ	3.84	3.43	4	3.93	3.95	3.96	3.78	4.23	4.05	4.09	4.13	4.08	3.76
⑧集中できる環境	3.59	3.35	3.89	3.81	3.90	3.69	3.67	4.08	3.83	4.01	4.15	4.00	3.79
平均													



2021年度 3年生 後期 授業評価 (学生自己評価) ①

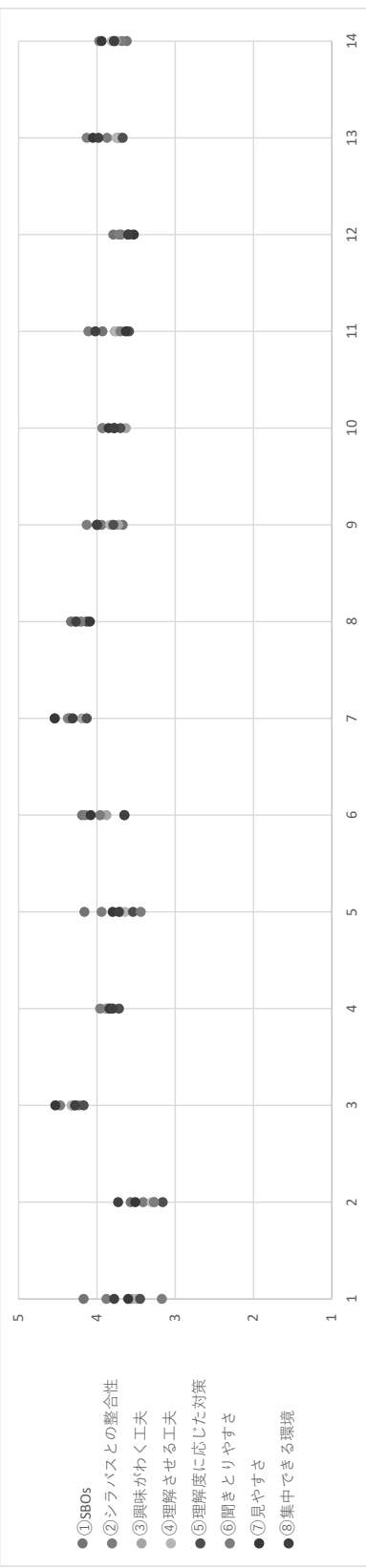
科目名	製剤学 II		有機化学 IV		医薬品化学 I			感染症治療学		公衆衛生学		食品衛生学 II	
	A	B	A	B	全	A	B	A	B	A	B	A	B
クラス	2.8	3.3	2.77	2.93	2.95	2.86	3.1	2.81	2.92	2.81	3.1	2.76	3.21
⑨シラバス事前確認	2.48	2.78	2.5	2.74	2.67	2.6	2.68	2.58	2.84	2.74	3.07	2.6	3.06
⑩予習	3.18	3.35	3.19	2.96	3.16	3.32	3.03	3.33	3.39	3.22	3.13	3.25	3.24
⑪復習	3.04	3.13	3.24	3.15	3.25	3.12	3.07	3.41	3.32	3.5	3.33	3.38	3.33
⑫理解度	2.88	3.14	2.93	2.95	3.01	2.98	2.97	3.03	3.12	3.07	3.20	3.00	3.21



科目名	製剤学 II		有機化学 IV		医薬品化学 I			感染症治療学		公衆衛生学		食品衛生学 II	
	A	B	A	B	全	A	B	A	B	A	B	A	B
クラス	68	51	68	55	120	68	57	69	65	68	48	61	64
履修者数	50	23	54	27	76	57	32	52	38	54	15	51	33
有効回答数	73.5%	45.1%	79.4%	49.1%	63.3%	83.8%	56.1%	75.4%	58.5%	79.4%	31.3%	83.6%	51.6%

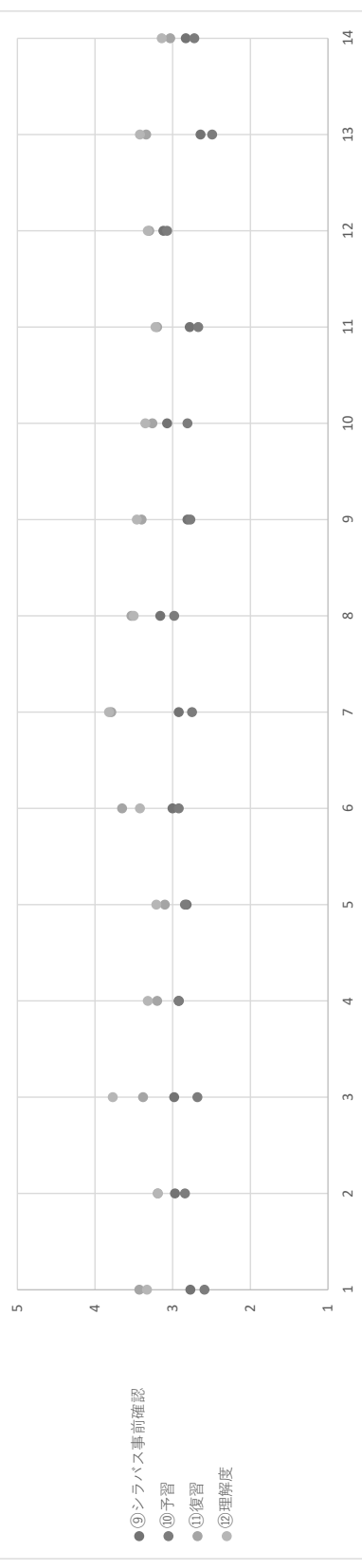
2021年度 3年生 後期 授業評価 (教員評価) ②

科目名	生命科学IV		調剤学		天然物化学		病態薬物治療学IV		分析化学IV		薬物動態学I		薬理学IV	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
クラス														
①SBOs	4.17	3.57	4.32	3.84	4.16	4.19	4.54	4.33	3.67	3.78	3.93	3.79	3.73	3.62
②シラバスとの整合性	3.88	3.41	4.23	3.88	3.94	4.15	4.37	4.27	3.94	3.78	4.11	3.72	3.87	3.68
③興味がわく工夫	3.55	3.27	4.3	3.88	3.7	3.88	4.19	4.22	3.73	3.63	3.77	3.56	3.7	3.76
④理解させる工夫	3.5	3.3	4.32	3.8	3.64	3.96	4.35	4.27	3.83	3.93	3.75	3.6	3.75	3.81
⑤理解度に応じた対策	3.45	3.16	4.17	3.72	3.54	3.65	4.13	4.13	3.79	3.7	3.59	3.6	3.67	3.78
⑥聞きとりやすさ	3.17	3.27	4.47	3.96	3.44	3.96	4.35	4.2	4.13	3.93	3.7	3.69	4.13	3.97
⑦見やすさ	3.6	3.51	4.53	3.84	3.8	4.08	4.54	4.09	4	3.85	3.63	3.53	4.05	3.94
⑧集中できる環境	3.78	3.73	4.28	3.8	3.72	3.65	4.31	4.27	4	3.78	4.02	3.6	3.98	3.78
平均	3.64	3.40	4.33	3.84	3.74	3.94	4.35	4.22	3.89	3.80	3.81	3.64	3.86	3.79



2021年度 3年生 後期 授業評価 (学生自己評価) ②

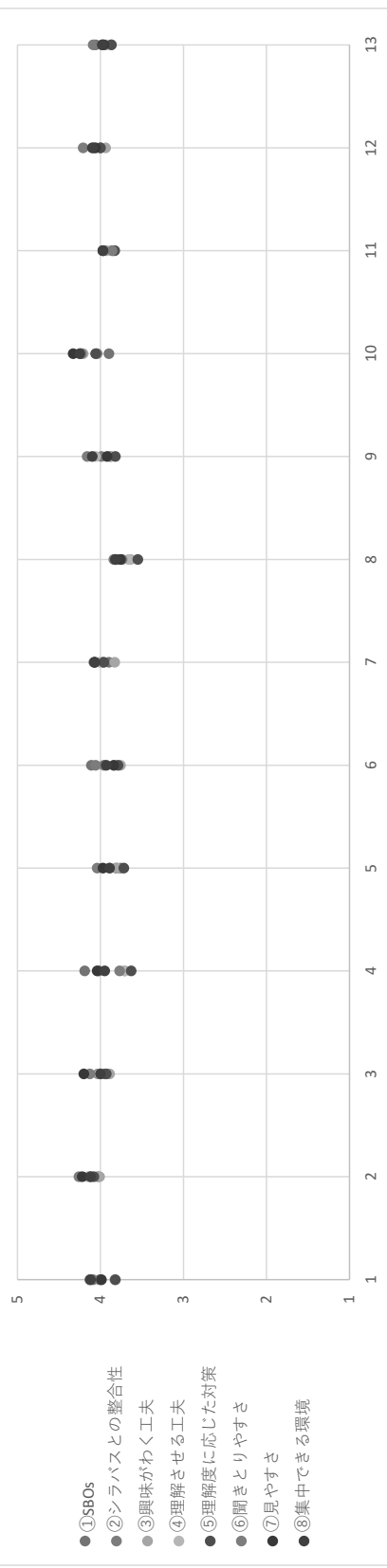
科目名	生命科学IV		調剤学		天然物化学		病態薬物治療学IV		分析化学IV		薬物動態学I		薬理学IV	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
クラス	2.77	2.97	2.98	2.92	2.82	3	2.92	3.16	2.81	3.07	2.78	3.12	2.64	2.83
⑨シラバス事前確認	2.59	2.84	2.68	2.92	2.84	2.92	2.75	2.98	2.77	2.81	2.67	3.07	2.49	2.72
⑩予習	3.43	3.19	3.38	3.2	3.1	3.65	3.79	3.53	3.4	3.26	3.2	3.3	3.34	3.03
⑪復習	3.33	3.19	3.77	3.32	3.21	3.42	3.82	3.5	3.46	3.35	3.22	3.32	3.42	3.14
⑫理解度	3.03	3.05	3.20	3.09	2.99	3.25	3.32	3.29	3.11	3.12	2.97	3.20	2.97	2.93
平均														



科目名	生命科学IV		調剤学		天然物化学		病態薬物治療学IV		分析化学IV		薬物動態学I		薬理学IV	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
クラス	68	57	68	46	68	46	68	70	68	66	69	66	68	59
履修者数	58	37	47	25	50	26	52	45	48	27	56	43	60	37
有効回答数	85.3%	64.9%	69.1%	54.3%	73.5%	45.6%	76.5%	64.3%	70.6%	40.9%	81.2%	65.2%	88.2%	62.7%
回答率														

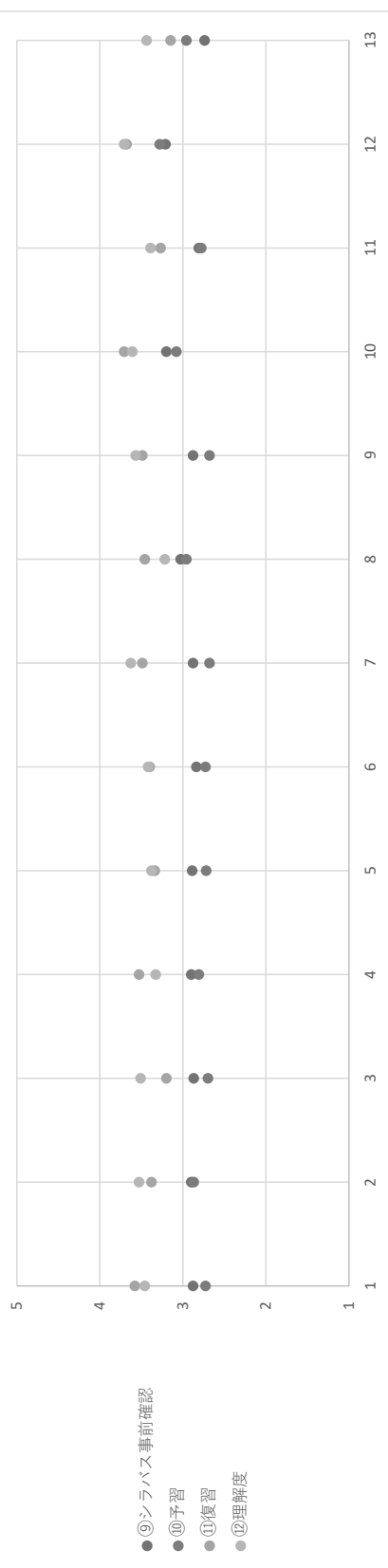
2021年度 4年生 授業評価 (教員評価)

科目名	医薬品化学II		医薬品情報学		がん化学療法学		漢方治療論		薬事関係法規・制度		薬物動態学II		臨床薬物動態学		
	全	①	②	全	①	②	全	①	②	全	A1	B1	A2	B2	
クラス	4.13	4.03	3.95	4.19	3.81	4.11	3.9	3.81	3.88	3.88	3.9	3.85	4	4.06	
①SBOs	4.09	4.12	4.03	4.02	3.76	4.06	3.97	3.84	3.99	4.04	3.97	3.97	4.21	4.09	
②シラバスとの整合性	3.83	4.01	3.89	3.71	3.8	3.76	3.83	3.64	3.88	4.21	3.93	3.94	3.87	3.87	
③興味がわく工夫	3.99	4.15	4.01	3.71	3.89	3.84	4.01	3.66	4.06	4.25	3.86	4.09	3.93	3.93	
④理解させる工夫	3.82	4.08	3.93	3.63	3.72	3.79	3.96	3.55	3.82	4.06	3.83	4	3.87	3.87	
⑤理解度に応じた対策	4.01	4.26	4.13	3.77	4.04	3.96	4.08	3.74	4.16	4.23	3.86	4.08	3.98	3.98	
⑥聞きとりやすさ	3.99	4.22	4.2	4.04	3.97	3.84	4.07	3.76	3.92	4.33	3.97	4.06	3.96	3.96	
⑦見やすさ	4.12	4.12	4	3.95	3.89	3.93	4.07	3.82	4.1	4.25	3.97	4.1	3.98	3.98	
⑧集中できる環境	4.00	4.12	4.02	3.88	3.86	3.91	3.99	3.73	3.98	4.16	3.91	4.06	3.97	3.97	
平均															



### 2021年度 4年生 授業評価 (学生自己評価)

科目名	医薬品化学II		医薬品情報学		がん化学療法学		漢方治療論		薬事関係法規・制度		薬物動態学II		臨床薬物動態学		臨床薬学英語			
	全	①	②	全	①	②	全	①	②	全	①	②	全	A1	B1	A2	B2	
⑨シラバス事前確認	2.88	2.9	2.87	2.9	2.89	2.84	2.88	2.84	2.88	3.03	2.88	2.88	2.88	3.2	2.81	3.21	2.74	
⑩予習	2.73	2.87	2.7	2.81	2.72	2.73	2.68	2.73	2.68	2.96	2.68	2.68	2.68	3.08	2.78	3.28	2.96	
⑪復習	3.58	3.38	3.2	3.53	3.34	3.4	3.49	3.4	3.49	3.46	3.49	3.49	3.49	3.71	3.27	3.68	3.15	
⑫理解度	3.46	3.53	3.51	3.33	3.38	3.42	3.63	3.42	3.63	3.22	3.57	3.57	3.57	3.61	3.39	3.71	3.44	
平均	3.16	3.17	3.07	3.14	3.08	3.10	3.17	3.10	3.17	3.17	3.16	3.16	3.16	3.40	3.06	3.47	3.07	

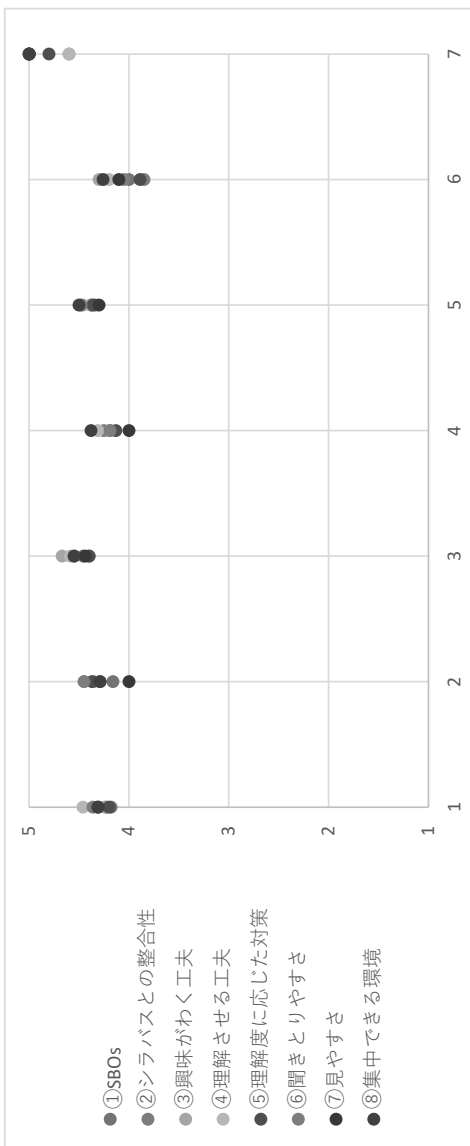


科目名	医薬品化学II		医薬品情報学		がん化学療法学		漢方治療論		薬事関係法規・制度		薬物動態学II		臨床薬学英語			
	全	①	②	全	①	②	全	①	②	全	A1	B1	A2	B2		
クラス	136	137	137	136	136	136	136	136	136	135	136	136	67	70		
履修者数	77	91	76	79	79	72	92	120	48	54	48	48	54			
有効回答数	56.6%	66.4%	55.5%	58.1%	58.1%	52.9%	68.1%	88.2%	71.6%	77.1%	71.6%	84.3%	77.1%			



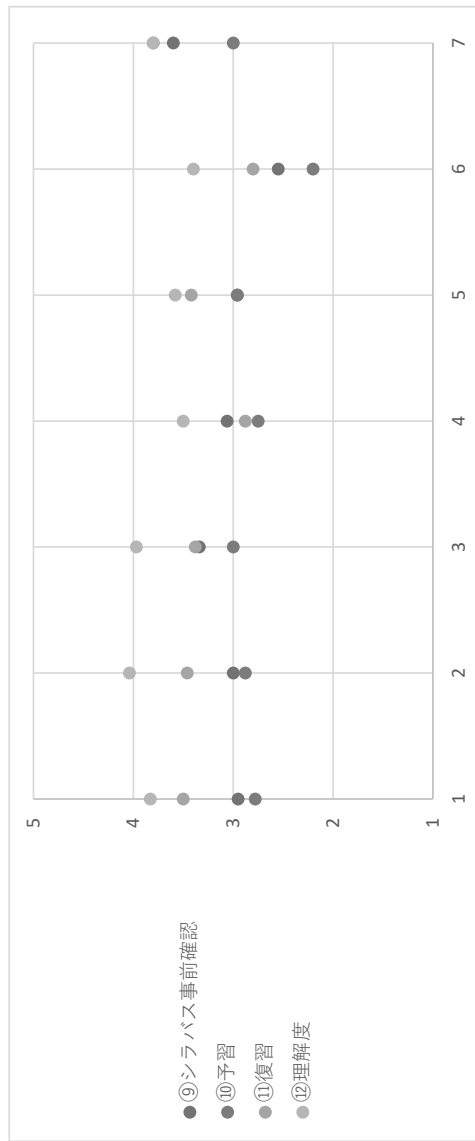
## 2021年度 6年生 授業評価 (教員評価)

科目名	処方解析学	医薬品開発論	健康管理学	ナーミナルケア論	臨床物理分析法	臨床漢方治療学	漢方疾患治療学
	全	全	全	全	全	全	全
クラス							
①SBOs	4.18	4.16	4.4	4.19	4.34	4	5
②シラバスとの整合性	4.23	4.29	4.46	4.25	4.38	3.85	5
③興味がわく工夫	4.24	4.35	4.67	4.19	4.38	4.3	4.6
④理解させる工夫	4.46	4.45	4.59	4.31	4.46	4.2	4.6
⑤理解度に応じた対策	4.2	4.37	4.4	4.13	4.36	3.89	4.8
⑥聞きとりやすさ	4.36	4.45	4.55	4.19	4.48	4.05	5
⑦見やすさ	4.31	4	4.44	4	4.3	4.1	5
⑧集中できる環境	4.31	4.29	4.55	4.38	4.5	4.26	5
平均	4.29	4.30	4.51	4.21	4.40	4.08	4.88



## 2021年度 6年生 授業評価 (学生自己評価)

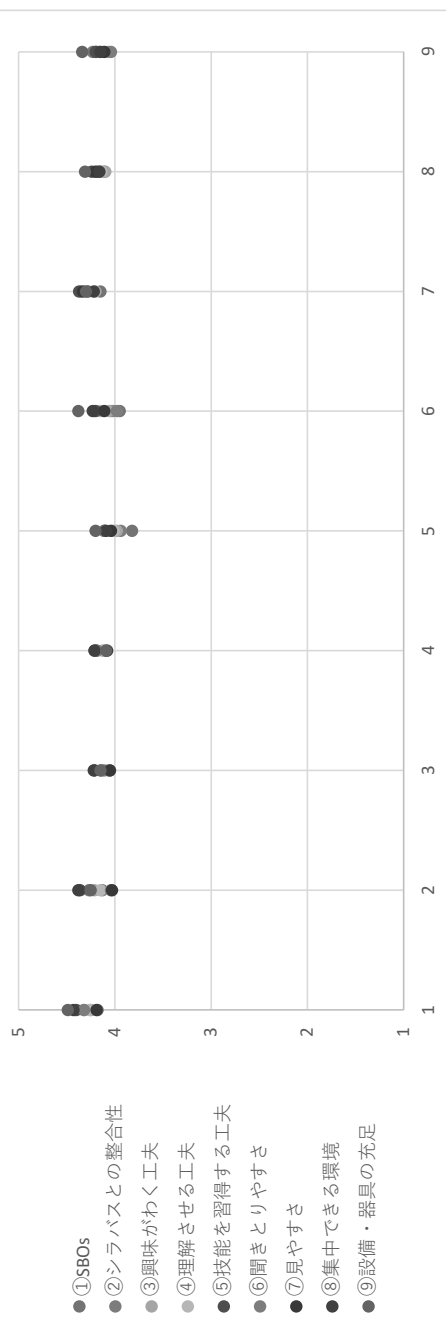
科目名	処方解析学	医薬品開発論	健康管理学	ターミナルケア論	臨床物理分析法	臨床漢方治療学	漢方疾患治療学
クラス	全	全	全	全	全	全	全
⑨シラバス事前確認	2.95	3	3.34	3.06	2.96	2.55	3.6
⑩予習	2.78	2.88	3	2.75	2.96	2.2	3
⑪復習	3.5	3.46	3.38	2.88	3.42	2.8	3.8
⑫理解度	3.83	4.04	3.97	3.5	3.58	3.4	3.8
平均	3.27	3.35	3.42	3.05	3.23	2.74	3.55



科目名	処方解析学	医薬品開発論	健康管理学	ターミナルケア論	臨床物理分析法	臨床漢方治療学	漢方疾患治療学
クラス	全	全	全	全	全	全	全
履修者数	93	84	52	58	61	24	6
有効回答数	60	49	40	16	50	20	5
回答率	64.5%	58.3%	76.9%	27.6%	82.0%	83.3%	83.3%

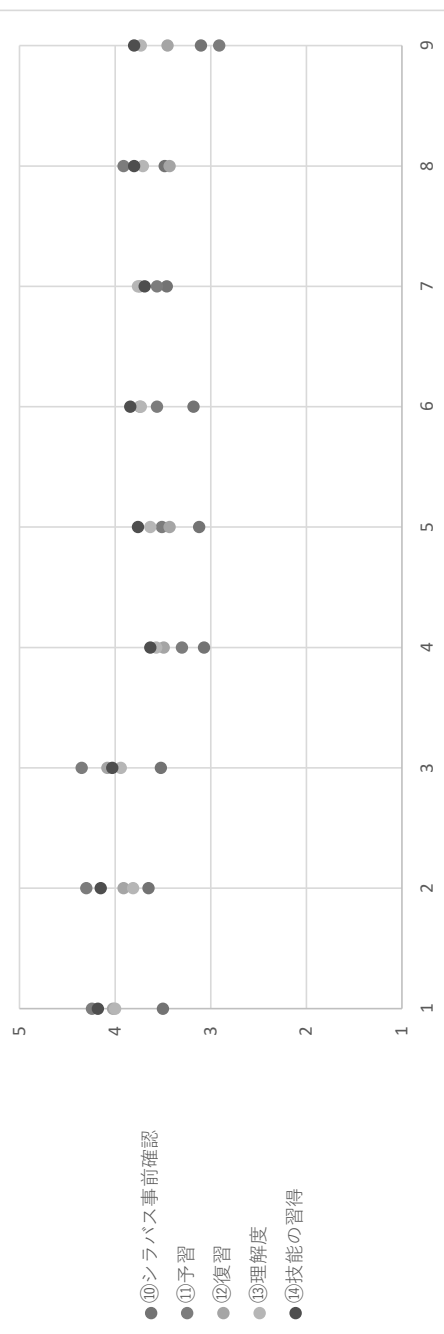
## 2021年度 2～4年生 実習評価 (教員評価)

科目	基礎実習		化学系実習		物理系実習		衛生薬学実習		生物系実習		薬理学実習		薬剤学実習		
	全	②	全	②	全	②	全	②	全	②	前半	後半	①	②	
クラス															
①SBOs	4.18	4.19	4.13	4.14	4.06	4.07	4.21	4.22	3.82	3.83	3.95	4.15	4.11	4.19	
②シラバスとの整合性	4.25	4.26	4.27	4.28	4.14	4.15	4.11	4.12	3.94	3.95	4.03	4.28	4.15	4.23	
③興味がわく工夫	4.32	4.33	4.21	4.22	4.05	4.06	4.2	4.21	3.98	4.06	4.2	4.2	4.1	4.07	
④理解させる工夫	4.26	4.27	4.15	4.16	4.06	4.07	4.13	4.14	4.01	4.15	4.35	4.35	4.14	4.16	
⑤技能を習得する工夫	4.4	4.41	4.36	4.37	4.21	4.22	4.19	4.2	4.11	4.2	4.37	4.37	4.24	4.2	
⑥聞きとりやすさ	4.32	4.33	4.04	4.05	4.11	4.12	4.19	4.2	4.11	3.98	4.28	4.28	4.18	4.04	
⑦見やすさ	4.19	4.20	4.03	4.04	4.05	4.06	4.08	4.09	4.04	4.11	4.33	4.33	4.2	4.11	
⑧集中できる環境	4.43	4.44	4.38	4.39	4.22	4.23	4.21	4.22	4.09	4.23	4.22	4.22	4.16	4.15	
⑨設備・器具の充足	4.49	4.50	4.25	4.26	4.15	4.16	4.09	4.1	4.2	4.38	4.3	4.3	4.31	4.34	
平均	4.32	4.33	4.20	4.21	4.12	4.13	4.16	4.17	4.03	4.12	4.28	4.28	4.18	4.17	



## 2021年度 2～4年生 実習評価 (学生自己評価)

科目	基礎実習		化学系実習		物理系実習		衛生薬学実習		生物系実習		薬理学実習		薬剤学実習		
	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	全	平均	前半	後半	①	②	
クラス															
⑩シラバス事前確認	3.5	3.65	3.52	3.07	3.12	3.18	3.46	3.1	3.1	3.48					
⑪予習	4.24	4.3	4.35	3.3	3.51	3.56	3.56	3.91	2.91						
⑫復習	4.02	3.91	4.08	3.49	3.43	3.74	3.74	3.43	3.45						
⑬理解度	4	3.81	3.94	3.57	3.63	3.73	3.76	3.71	3.73						
⑭技能の習得	4.18	4.15	4.03	3.63	3.76	3.84	3.69	3.8	3.8						
平均	3.99	3.96	3.98	3.41	3.49	3.61	3.64	3.67	3.40						



科目	基礎実習		化学系実習		物理系実習		衛生薬学実習		生物系実習		薬理学実習		薬剤学実習	
	全	割合	全	割合	全	割合	全	割合	全	割合	前半	後半	①	②
クラス														
履修者数	108		110		111		114		114		114	58	138	138
有効回答数	65		104		105		100		90		66	46	137	137
回答率	60.2%		94.5%		94.6%		87.7%		78.9%		122.2%	79.3%	99.3%	99.3%

### 3.学生コメント総括

令和3年度 学生による授業および実習評価アンケートのコメント欄に記載された代表的な内容を以下に記す。

#### 【授業】

<良かった点>	<改善してほしい点>
<p>進行スピードがちょうどよい。 説明が明確で聴き取りやすかった。 写真・動画での説明がわかり易かった。 補習を行い理解できるまで教えてくれる。 学生に質問をして集中力を高めてくれた。 小テストがあり勉強の習慣ができた。 授業最初に前回の復習をしてくれる。 課題があるので理解が深まった。 課題についてのフィードバックがあった。 毎回アンケートで質問ができた。 CBT、国試の問題を説明してくれた。 シラバスとの整合性がとれていた。 質問に丁寧に答えてくれた。 重要なところほど声が大きくなる。 先生の熱心さが伝わった。 出席を取ってくれる。 学生の私語を注意してくれた。 いつもニコニコして和む。 雑談も身になる話が多かった。</p>	<p>後ろからだとスライドが見えない。 板書の字が汚い。 板書の時間がもったいない。 声が聴き取り難い。 もう少し大きな声で話して欲しい。 授業の速度が遅すぎる。 配布プリントをカラーにして欲しい。 授業と試験内容が合っていない。 課題が多く大変だった。 問題演習を取り入れて欲しい。 課題の答えが欲しい。 資料を早く IPO に載せて欲しい。 教科書を購入させ教科書は使いませんと言った。 毎回授業時間をオーバーする。 標準語で話して欲しい。 話し方が心地よくて眠くなる。</p>

#### 【実習】

<良かった点>	<改善してほしい点>
<p>事前に動画を観て予習ができた。 動画と同時進行でわかり易かった。 実験手順をわかり易く説明してくれた。 質問に丁寧に答えてくれた。 先生が常に巡回していた。</p>	<p>実習書がわかりにくい。 先生によって判断が違っていた。 全ての実験を対面でしたかった。 実習期間が長い。 分担作業のため、できない実験があった。</p>

班が少人数のためあらゆる作業ができた。 楽しかった。もっと実習したい。 対面で実習ができてよかった。 レポートの書き方を指導してくれた。	動画だけでよかった。 男女が均等な班分けにして欲しい。 レポートが多すぎる。 レポートの書き方を教えて欲しい。
---	--



**看護学部**  
**学生授業評価アンケート報告**

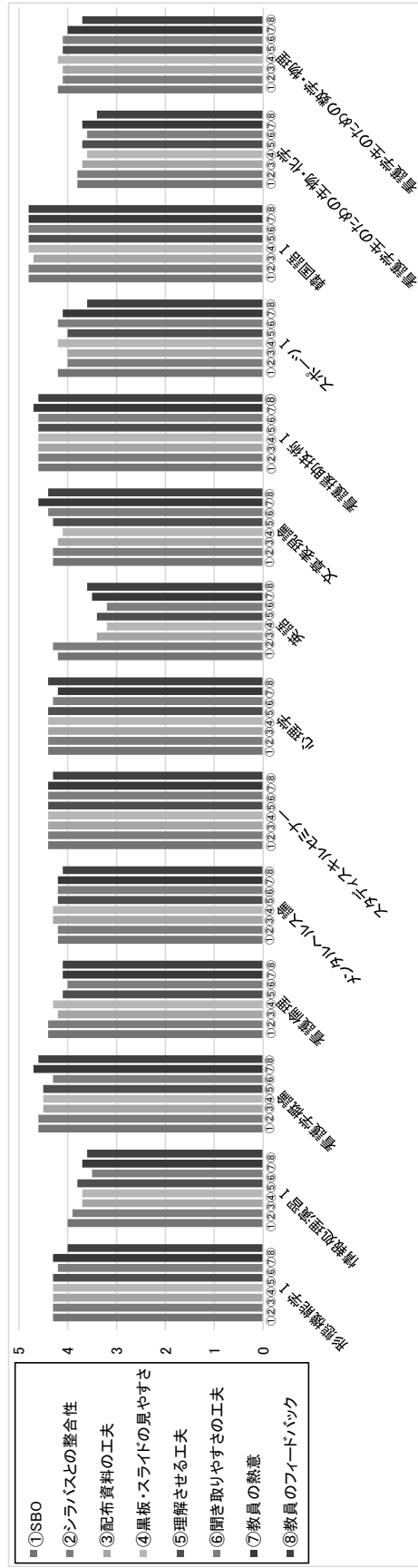
**令和 3 年度**





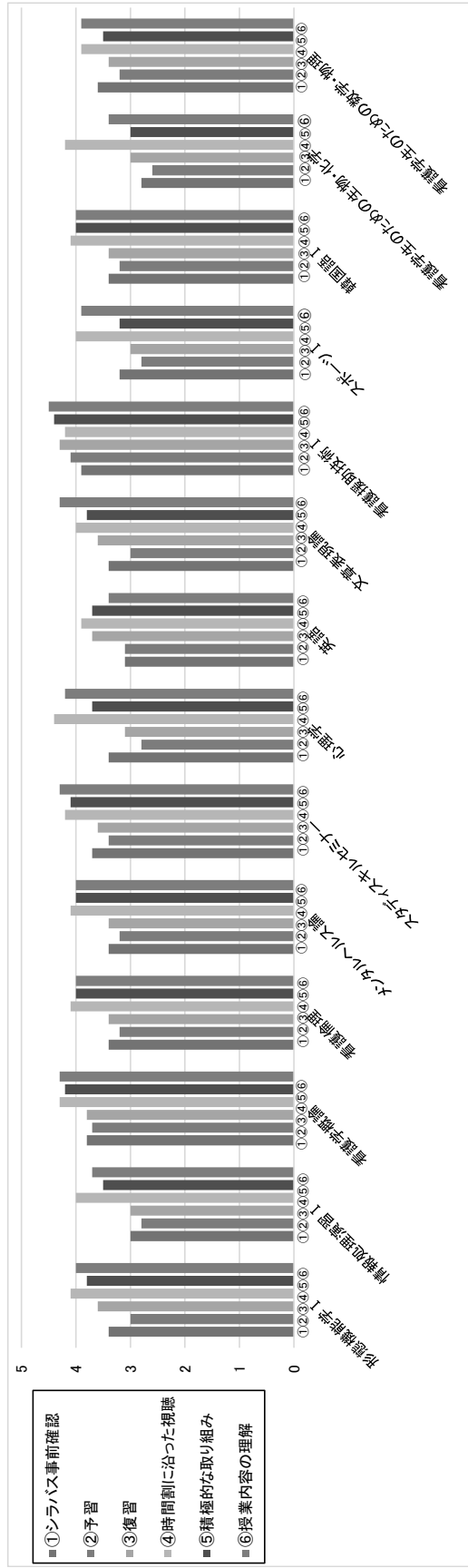
2021年度看護学部1年前期 授業評価(教員評価) 評価値は平均値の小数点第2位を四捨五入

科目名	形態機能学Ⅰ	情報処理演習Ⅰ	看護学概論	看護倫理	メンタルヘルズ論	スタディスキルセミナー	心理学	英語	文章表現論	看護援助技術Ⅰ	スポーツⅠ	韓国語Ⅰ	看護学生のための生物・化学	看護学生のための数学・物理	平均値
クラス(回収率%)	全(100)	全(93)	全(92)	全(94)	全(100)	全(95)	全(90)	全(95)	全(100)	全(100)	選(100)	選(85)	選(92)	選(68)	
①SBO	4.3	4.0	4.6	4.4	4.2	4.4	4.4	4.2	4.3	4.6	4.2	4.8	3.8	4.2	4.3
②シラバスとの整合性	4.3	3.9	4.6	4.4	4.2	4.4	4.4	4.3	4.3	4.6	4.0	4.8	3.8	4.1	4.3
③配布資料の工夫	4.3	3.7	4.5	4.2	4.3	4.4	4.4	3.4	4.2	4.6	4.0	4.7	3.7	4.1	4.2
④黒板・スライドの見やすさ	4.3	3.7	4.5	4.3	4.3	4.4	4.4	3.2	4.1	4.6	4.2	4.8	3.6	4.2	4.2
⑤理解させる工夫	4.3	3.8	4.5	4.1	4.2	4.4	4.4	3.4	4.3	4.6	4.0	4.8	3.7	4.1	4.2
⑥聞き取りやすさの工夫	4.2	3.5	4.3	4.0	4.2	4.4	4.3	3.2	4.4	4.6	4.2	4.8	3.6	4.1	4.1
⑦教員の熱意	4.3	3.7	4.7	4.1	4.2	4.4	4.2	3.5	4.6	4.7	4.1	4.8	3.7	4.0	4.2
⑧教員のフィードバック	4.0	3.6	4.6	4.1	4.1	4.3	4.4	3.6	4.4	4.6	3.6	4.8	3.4	3.7	4.1
平均値	4.3	3.7	4.5	4.2	4.2	4.4	4.4	3.6	4.3	4.6	4	4.8	3.7	4.1	4.2



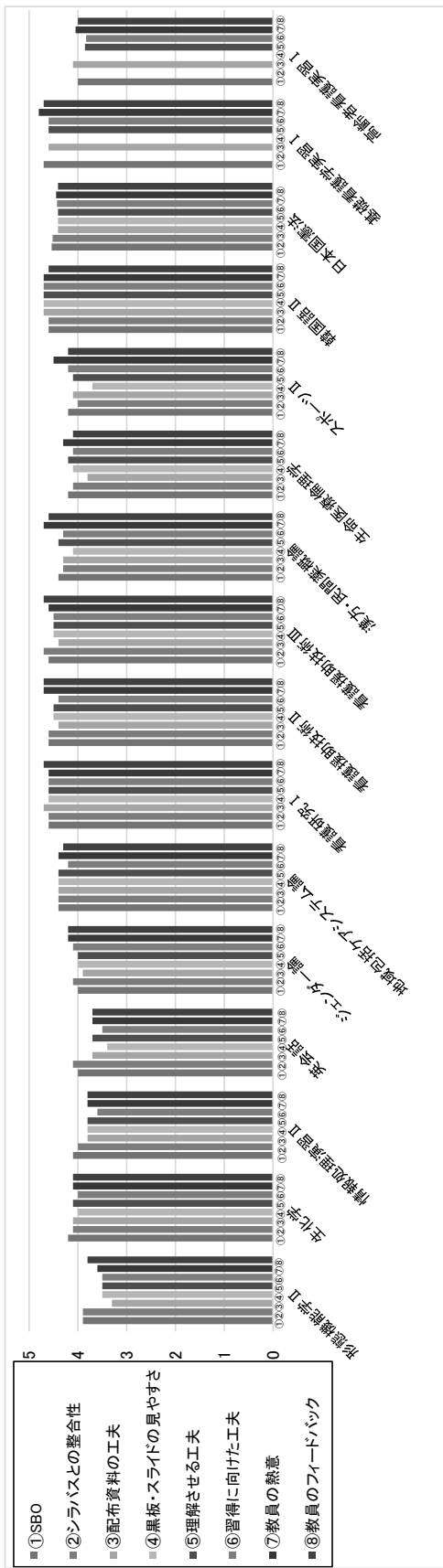
2021年度 看護学部1年 前期 授業評価(自己評価) 評価値は平均値の小数点第2位を四捨五入

科目名	形態機能学Ⅰ	情報処理演習Ⅰ	看護学概論	看護倫理	メンタルヘルス論	スタディスキルセミナー	心理学	英語	文章表現論	看護援助技術Ⅰ	スポーツⅠ	韓国語Ⅰ	看護学生のための生物・化学	看護学生のための数学・物理	平均値
クラス(回収率%)	全(100)	全(93)	全(92)	全(94)	全(100)	全(95)	全(90)	全(95)	全(100)	全(100)	選(100)	選(85)	選(92)	選(68)	
①シラバス事前確認	3.4	3.0	3.8	3.4	3.4	3.7	3.4	3.1	3.4	3.9	3.2	3.4	2.8	3.6	3.4
②予習	3.0	2.8	3.7	3.2	3.2	3.4	2.8	3.1	3.0	4.1	2.8	3.2	2.6	3.2	3.2
③復習	3.6	3.0	3.8	3.4	3.4	3.6	3.1	3.7	3.6	4.3	3.0	3.4	3.0	3.4	3.4
④時間割に沿った視聴	4.1	4.0	4.3	4.1	4.1	4.2	4.4	3.9	4.0	4.2	4.0	4.1	4.2	3.9	4.1
⑤積極的な取り組み	3.8	3.5	4.2	4.0	4.0	4.1	3.7	3.7	3.8	4.4	3.2	4.0	3.0	3.5	3.8
⑥授業内容の理解	4.0	3.7	4.3	4.0	4.0	4.3	4.2	3.4	4.3	4.5	3.9	4.0	3.4	3.9	4.0
平均値	3.6	3.3	4.0	3.7	3.7	3.9	3.6	3.5	3.7	4.2	3.4	3.7	3.2	3.6	3.7



2021年度 看護学部1年 後期 授業・実習評価(教員評価) 評価値は平均値の小数点第2位を四捨五入

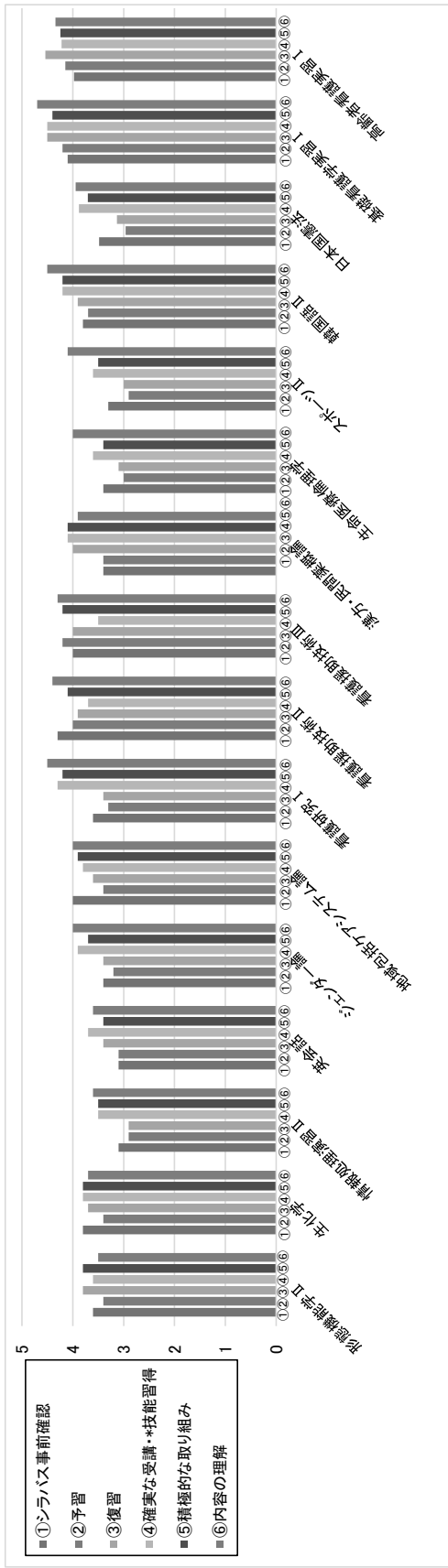
科目名	形態機能学Ⅱ	生化学	情報処理解演習Ⅱ	英会話	ジェンダー論	地域包括ケアシステム論	看護研究Ⅰ	看護援助技術Ⅱ	看護援助技術Ⅲ	漢方・民間薬概論	生命医学倫理学	スポーツⅡ	韓国語Ⅱ	日本語憲法	基礎看護学実習Ⅰ	高齢者看護実習Ⅰ	平均値
クラス(回収率%)	全(42)	全(71)	全(94)	全(89)	全(71)	全(62)	全(100)	全(50)	全(47)	全(26)	選(97)	選(76)	選(78)	選(72)	全(80)	全(53)	
①SBO	3.9	4.2	4.1	4.0	4.0	4.4	4.6	4.6	4.6	4.4	4.2	4.2	4.6	4.5	4.7	4.0	4.3
②シラバスとの整合性	3.9	4.1	4.0	4.1	4.1	4.4	4.6	4.6	4.7	4.3	4.1	4.0	4.6	4.5	4.7	4.1	4.3
③配布資料の工夫	3.3	4.1	3.8	3.7	3.9	4.4	4.7	4.4	4.4	4.3	3.8	4.1	4.7	4.4	4.6	4.1	4.2
④黒板・スライドの見やすさ	3.5	4.0	3.8	3.4	4.0	4.4	4.6	4.5	4.5	4.1	4.1	3.7	4.7	4.4	4.7	4.1	4.1
⑤理解させる工夫	3.5	4.1	3.8	3.7	4.0	4.4	4.6	4.5	4.5	4.4	4.2	4.1	4.7	4.4	4.6	3.9	4.2
⑥習得に向けた工夫	3.5	4.0	3.6	3.5	4.1	4.2	4.6	4.4	4.5	4.3	4.1	4.2	4.7	4.4	4.6	3.8	4.2
⑦教員の熱意	3.6	4.1	3.8	3.7	4.2	4.4	4.6	4.7	4.6	4.7	4.3	4.5	4.7	4.4	4.8	4.0	4.3
⑧教員のフィードバック	3.8	4.1	3.8	3.7	4.2	4.3	4.7	4.7	4.7	4.6	4.1	4.2	4.6	4.4	4.7	4.0	4.3
平均値	3.6	4.1	3.8	3.7	4.1	4.4	4.6	4.6	4.6	4.4	4.1	4.1	4.7	4.4	4.7	4.0	4.2



2021年度 看護学部1年 後期 授業・実習評価(自己評価) 評価値は平均値の小数点第2位を四捨五入

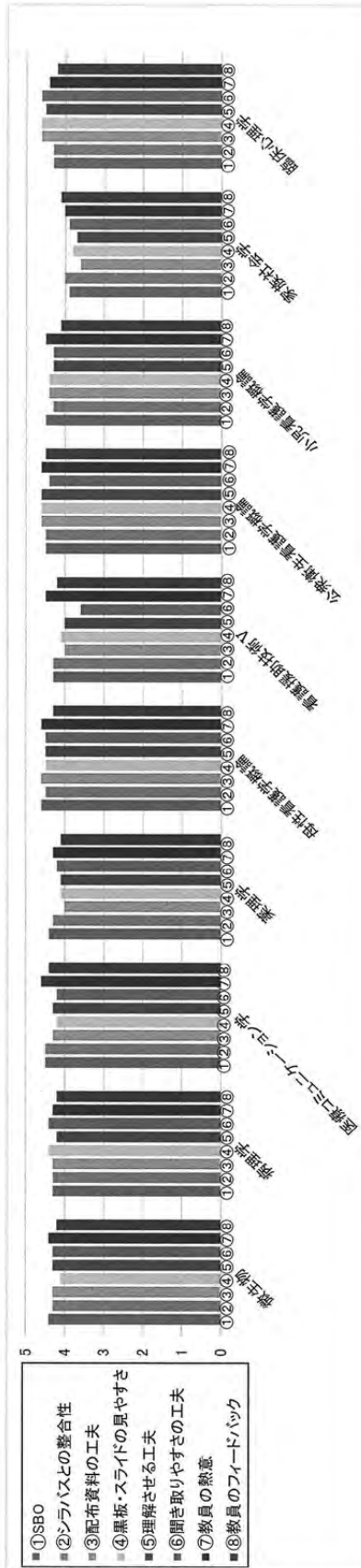
科目名	形態機能学Ⅱ	生化学	情報処理演習Ⅱ	英会話	ジェンダー論	地域包括ケアシステム論	看護研究Ⅰ	看護援助技術Ⅱ	看護援助技術Ⅲ	漢方・民間薬概論	生命医療倫理学	スポーツⅡ	韓国語Ⅱ	日本国憲法	基礎看護学実習Ⅰ	高齢者看護実習Ⅰ	平均値
クラス(回収率%)	全(42)	全(71)	全(94)	全(89)	全(71)	全(62)	全(100)	全(50)	全(47)	全(26)	選(97)	選(76)	選(78)	選(72)	全(80)	全(53)	
①シラバス事前確認	3.6	3.8	3.1	3.1	3.4	4.0	3.6	4.3	4.0	3.4	3.4	3.3	3.8	3.5	4.1	4.0	3.6
②予習	3.4	3.4	2.9	3.1	3.2	3.4	3.3	4.0	4.2	3.4	3.0	2.9	3.7	3.0	4.2	4.1	3.5
③復習	3.8	3.7	2.9	3.4	3.4	3.6	3.4	3.9	4.0	4.0	3.1	3.0	3.9	3.1	4.5	4.5	3.6
④確実な受講・*技能習得	3.6	3.8	3.5	3.7	3.9	3.8	4.3	3.7	3.5	4.1	3.6	3.6	4.2	3.9	4.5	4.2	3.9
⑤積極的な取り組み	3.8	3.8	3.5	3.4	3.7	3.9	4.2	4.1	4.2	4.1	3.4	3.5	4.2	3.7	4.4	4.2	3.9
⑥内容の理解	3.5	3.7	3.6	3.6	4.0	4.0	4.5	4.4	4.3	3.9	4.0	4.1	4.5	3.9	4.7	4.3	4.1
平均値	3.6	3.7	3.2	3.4	3.6	3.8	3.9	4.1	4.0	3.8	3.4	3.4	4.0	3.5	4.4	4.2	3.8

\*実習評価項目



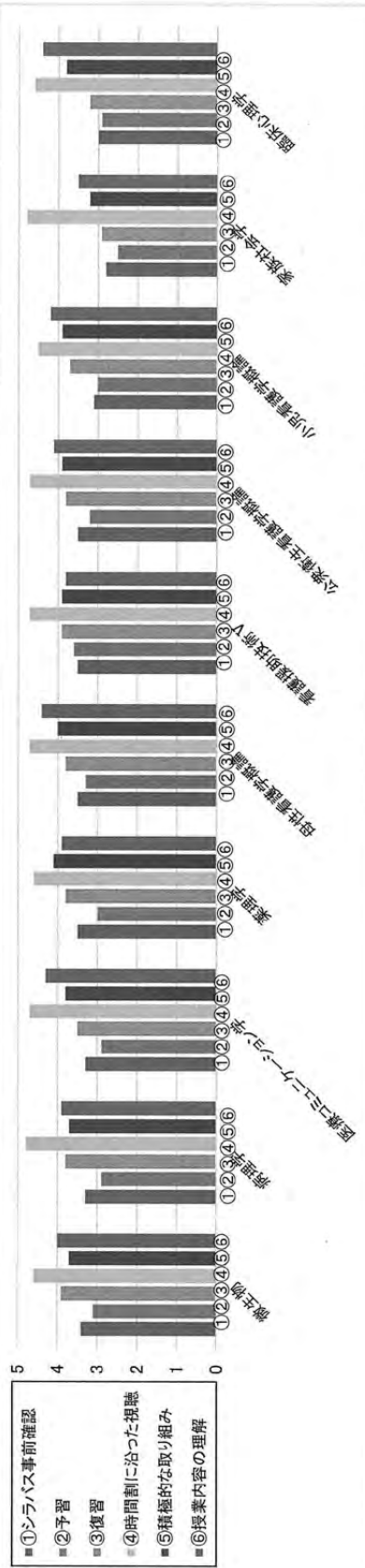
2021年度 看護学部2年 前期 授業評価(教員評価) 数値は平均値の小数点第2位を四捨五入

科目名	微生物	病理学	医療コミュニケーション学	薬理学	母性看護学概論	看護援助技術V	公衆衛生看護学概論	小児看護学概論	家族社会学	臨床心理学	平均値
クラス回収率%	全(81)	全(89)	全(64)	全(59)	全(75)	全(100)	全(59)	全(69)	選(73)	選(100)	
①SBO	4.4	4.3	4.5	4.4	4.6	4.3	4.5	4.5	4.5	3.9	4.4
②シラバスとの整合性	4.3	4.3	4.5	4.3	4.5	4.3	4.5	4.3	4	4.3	4.3
③配布資料の工夫	4.3	4.3	4.3	4	4.6	4	4.6	4.4	3.6	4.6	4.3
④黒板・スライドの見やすさ	4.1	4.4	4.2	4.1	4.5	4.1	4.6	4.4	3.8	4.6	4.3
⑤理解させる工夫	4.3	4.2	4.3	4.1	4.5	4	4.6	4.3	3.7	4.5	4.3
⑥聞き取りやすさの工夫	4.3	4.4	4.2	4.2	4.5	3.6	4.4	4.3	3.9	4.6	4.2
⑦教員の熱意	4.4	4.3	4.6	4.3	4.6	4.5	4.6	4.5	4	4.4	4.4
⑧教員のフィードバック	4.2	4.2	4.4	4.1	4.3	4.2	4.5	4.1	4.1	4.2	4.2
平均値	4.3	4.3	4.4	4.2	4.5	4.1	4.5	4.4	3.9	4.4	4.3



2021年度 看護学部2年 前期 授業評価(学生自己評価) 数値は平均値の小数点第2位を四捨五入

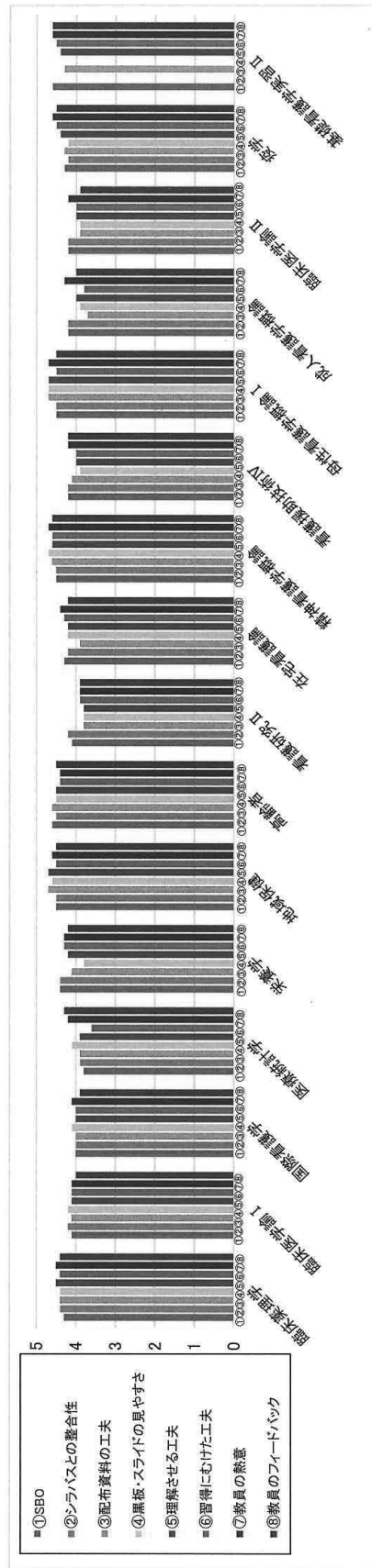
科目名	微生物	病理学	医療コミュニケーション学	薬理学	母性看護学概論	看護援助技術V	公衆衛生看護学概論	小児看護学概論	家族社会学	臨床心理学	平均値
クラス(回収率%)	全(81)	全(89)	全(64)	全(59)	全(75)	全(100)	全(59)	全(69)	選(73)	選(100)	
①シラバス事前確認	3.4	3.3	3.3	3.5	3.5	3.5	3.5	3.1	2.8	3	3.3
②予習	3.1	2.9	2.9	3	3.3	3.6	3.2	3	2.5	2.9	3
③復習	3.9	3.8	3.5	3.8	3.8	3.9	3.8	3.7	2.9	3.2	3.6
④時間割に沿った視聴	4.6	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7	4.5	4.8	4.6	4.7
⑤積極的な取り組み	3.7	3.7	3.8	4.1	4	3.9	3.9	3.9	3.2	3.8	3.8
⑥授業内容の理解	4	3.9	4.3	3.9	4.4	3.8	4.1	4.2	3.5	4.4	4.1
平均値	3.8	3.7	3.8	3.8	4	3.9	3.9	3.7	3.3	3.7	3.8





2021年度 看護学部2年 後期 授業・実習評価(教員評価) 評価値は平均値の小数点第2位を四捨五入

科目名	臨床薬理学	臨床医学論Ⅰ	国際看護学	医療統計学	栄養学	地域保健	高齢者	看護研究Ⅱ	在宅看護論	精神看護学概論	看護援助技術Ⅳ	母性看護学概論Ⅰ	成人看護学概論	臨床医学論Ⅱ	疫学	基礎看護学実習Ⅱ	平均値
クラス(回収率%)	全(100)	全(61)	全(77)	選(66)	全(69)	全(88)	全(49)	全(43)	全(68)	全(52)	全(80)	全(29)	全(56)	全(60)	選(45)	全(87)	
①SBO	4.3	4.1	4	3.8	4.4	4.5	4.6	4.1	4.3	4.5	4.2	4.5	4.2	4.2	4.3	4.6	4.3
②シラバスとの整合性	4.4	4.2	4	3.9	4.4	4.5	4.5	4.2	4.2	4.5	4.2	4.5	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3
③配布資料の工夫	4.4	4.1	4	3.9	4.1	4.7	4.6	3.8	3.9	4.6	4.1	4.7	3.7	3.9	4.3	4.3	4.2
④黒板・スライドの見やすさ	4.4	4.2	4.1	4.1	3.8	4.6	4.5	3.8	4.2	4.7	3.9	4.7	3.9	3.9	4.2	4.2	4.2
⑤理解させる工夫	4.5	4.1	4	3.9	4.2	4.7	4.5	3.8	4.2	4.6	4	4.7	4	4	4.4	4.4	4.3
⑥習得にむけた工夫	4.4	4.1	4	3.6	4.3	4.5	4.4	3.9	4.3	4.6	4	4.5	3.8	4	4.5	4.5	4.2
⑦教員の熱意	4.5	4.1	4.1	4.2	4.3	4.6	4.4	3.9	4.4	4.7	4.2	4.7	4.3	4.2	4.6	4.6	4.4
⑧教員のフィードバック	4.4	4	3.9	4.3	4.2	4.5	4.5	3.9	4.2	4.6	4.2	4.5	4	3.9	4.5	4.6	4.3
平均値	4.4	4.1	4	4	4.2	4.6	4.5	3.9	4.2	4.6	4.1	4.6	4	4	4.4	4.5	4.3

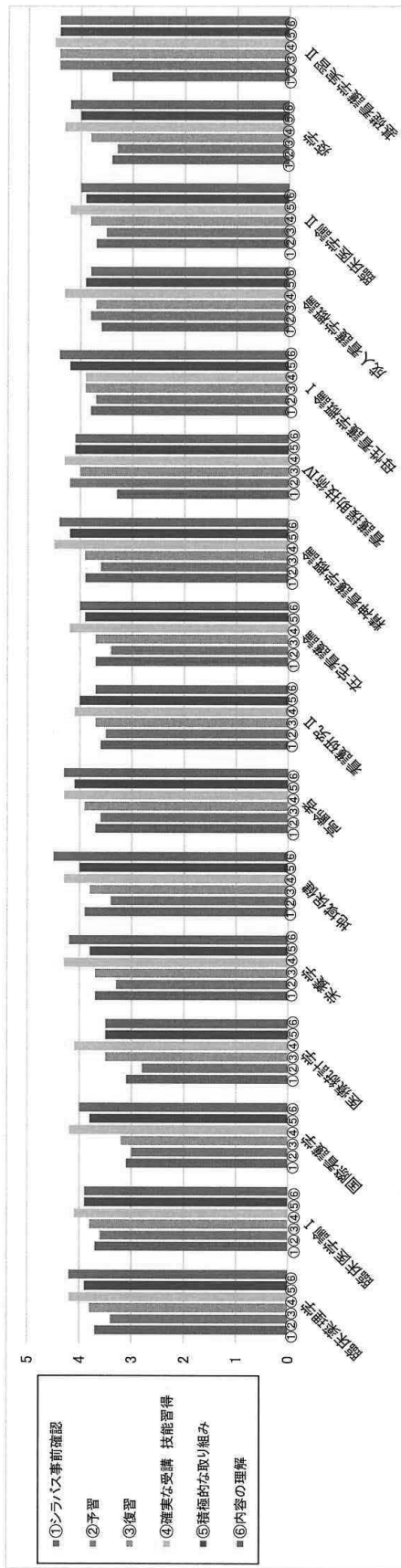




2021年度 看護学部2年 後期 授業・実習評価(学生自己評価) 評価値は平均値の小数点第2位を四捨五入

科目名	臨床薬理学	臨床医学論I	国際看護学	医療統計学	栄養学	地域保健	高齢者看護研究II	在宅看護論	精神看護学概論	看護援助技術IV	母性看護学概論I	成人看護学概論	臨床医学論II	疫学	基礎看護学実習II	平均値
クラス(回収率%)	全(100)	全(61)	全(77)	選(66)	全(69)	全(88)	全(49)	全(68)	全(52)	全(80)	全(29)	全(56)	全(60)	選(45)	全(87)	
①シラバス事前確認	3.7	3.7	3.1	3.1	3.7	3.9	3.7	3.6	3.7	3.9	3.3	3.6	3.7	3.4	3.4	3.6
②予習	3.4	3.6	3	2.8	3.3	3.4	3.6	3.4	3.6	4.2	3.7	3.8	3.5	3.3	4.4	3.5
③復習	3.8	3.8	3.2	3.5	3.7	3.8	3.9	3.7	3.9	4	3.9	3.7	3.8	3.8	4.4	3.8
④確実な受講*技能習得	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	4.3	4.3	4.1	4.5	4.3	3.9	4.3	4.2	4.3	4.5	4
⑤積極的な取り組み	3.9	3.9	3.8	3.5	3.8	4	4.1	4	4.2	4.1	4.2	3.9	3.9	4	4.4	4.2
⑥内容の理解	4.2	3.9	4	3.5	4.2	4.5	4.3	3.7	4	4.1	4.1	3.8	4	4.2	4.4	4.1
平均値	3.9	3.8	3.6	3.4	3.8	4	4	3.8	4.1	4	4	3.9	3.9	3.8	4.3	3.9

\*実習評価項目



**薬学部**  
**教員相互授業参観報告**

**令和 3 年度**



# 令和3年度「教員相互授業参観」実施要領（薬学部）

FD委員会

## 1. 目的

教員の講義力向上の一助とするとともに、受講している学生の受講態度等を観察し、教員が授業の現状理解を深めることを目的とする。

## 2. 要領

本年度は、下記の要領で教員相互形式の授業参観を実施する。学生の授業評価の高い教員の教科科目や自身の専門領域を超えた講義など、幅広く自由に選択できる。

○実施期間：以下の第1回目と第2回目のどちらか、年1回は参観すること。

第1回目：4月26日～7月17日（前期）

第2回目：9月16日～12月25日（後期）

○対象科目：1年生、2年生、3年生、4年生の講義授業科目

（実習科目や演習科目は除外）

参観対象科目（1～4年次の科目）から、参観したい科目を自由に選ぶこと。

○手順

手順1 参観希望者は、前もってEメールなどで講義担当者の承諾を得ておく。

手順2 30分以上参観する。

手順3 参観終了後、感想用紙に感想を記入し、電子ファイルをFD委員（安川; k-yasukawa@daiichi-cps.ac.jp）と参観した科目担当教員宛に添付メールで提出する。

○感想用紙：dysv10 → public\_new → 委員会 → FD委員会 → 教員相互授業参観 → 令和3年度 → 「令和3年度授業参観感想用紙.docx」（添付wordと同じ）。

提出は、第1回目は7月31日、第2回目は令和4年1月8日までとする。

## 3. 附記

- 提出された感想用紙はFD委員会（委員長）が保管し、翌年度の授業参観実施のための参考資料とする。
- 第1回目と第2回目の感想提出教員のリスト等を、各回提出期限後に行われる教員連絡会議にて連絡することがある。

## 令和3年度「相互授業参観」感想用紙

参観日時・クラス	月 日 限・ クラス	参観者名	
学部・学年・期 講義名	学部・ 年・ 期	講義担当者	

(1) 感想（良かった点・参考になったこと等）のご記入をお願いします。

(2) 参観者から見た学生の様子

令和3年度 教員相互授業参観感想の提出状況

	参観日	参観者	授業科目	学年	授業担当者
1	2021/5/24	横山 さゆり	無機化学	2	古賀 和隆
2	2021/5/24	小武家 優子	食品衛生学Ⅰ	3	廣村 信
3	2021/5/28	久保山 友晴	漢方製剤・薬剤学	3	香川 正太
4	2021/5/31	増田 寿伸	無機化学	2	古賀 和隆
5	2021/6/9	松本 欣三	本草学	1	久保山 友晴
6	2021/6/9	古賀 和隆	薬理学Ⅲ	3	有竹 浩介
7	2021/6/17	門口 泰也	分析化学Ⅲ	3	藤井 清永
8	2021/6/18	藤井 清永	有機化学Ⅴ	3	門口 泰也
9	2021/6/28	副田 二三夫	食品衛生学Ⅰ	3	古賀 貴之
10	2021/7/5	大光 正男	薬事関係法規	4	今村 文香
11	2021/7/6	中原 広道	物理化学Ⅲ	3	安川 圭司
12	2021/7/6	池谷 幸信	漢方治療論	4	城戸 克己
13	2021/7/8	俵口 奈穂美	臨床薬学英语	4	大光 正男
14	2021/7/9	安川 圭司	環境衛生学Ⅱ	3	副田 二三夫
15	2021/7/12	城戸 克己	薬用資源学	1	森永 紀
16	2021/7/14	今井 輝子	基礎統計学	2	入倉 充
17	2021/10/15	大渡 勝史	漢方薬効免疫学	2	城戸 克己
18	2021/11/17	柴山 周乃	薬学基礎英語Ⅱ	1	Denise Epp
19	2021/12/3	濱村 賢吾	感染症治療学	3	小川 和加野
20	2021/12/3	炬口 真理子	感染症治療学	3	小川 和加野
21	2021/12/7	小川 和加野	生命科学Ⅱ	2	廣村 信
22	2021/12/10	廣村 信	感染症治療学	3	小川 和加野
23	2021/12/13	田畠 健治	分析化学Ⅱ	2	横山 さゆり
24	2021/12/13	香月 正明	薬物動態学Ⅰ	3	今井 輝子
25	2021/12/13	有馬 英俊	薬物動態学Ⅰ	3	今井 輝子
26	2021/12/17	大久保 勇輔	有機化学Ⅱ	1	白谷 智宣
27	2021/12/20	白谷 智宣	分析化学Ⅱ	2	横山 さゆり
28	2021/12/22	岡崎 裕之	生命科学Ⅳ	3	炬口 真理子
29	2021/12/24	鎌内 朋子	薬理学Ⅳ	3	有竹 浩介

(1) 感想 (良かった点・参考になったこと等) のご記入をお願いします。「1年」

○第8回本草学の講義について動画での授業参観を行った。丁寧でゆっくりとした口調で解りやすい講義という印象を受けた。私自身はどちらかというと、学会講演調で、そこに舌足らずの要素があるため、十分反省しなければいけないのを痛感した。本草学の講義を理解するうえで、基本的に生薬学の知識も必要であることから、入学間もない学生を対象とすることの適否は再考を要すると思われる。講義では漢方薬で用いられている基本的な生薬を取り上げ、それらの基源、基原植物の説明から神農本草経を踏まえた特徴を説明していくなど、講義の構成には工夫がなされており、参考になる。講義終了時には総括的に復習すべき項目を学生に提示し、学習効率を高める内容になっており、自身の講義にも是非参考にしたい。

○欠席した場合には、動画の視聴をおこなうことで、講義の受講を可能としている。薬用資源として利用されている植物が、現在どのような医薬品や健康食品などに使用されているか例を挙げ説明することで記憶に残るように講義が工夫されていました。

○スライドがシンプルにまとめられており、とても見やすかった。ネイティブのエップ先生の英語を聴くことによりヒアリングの勉強になり、また日本語の解説もあるため学生たちに理解しやすい授業と感じた。Formsを使用し、授業の最後に復習小テストをする方法は非常に参考になった。Ipoにアップロードされている講義資料もとても充実していた。

○スライドと黒板の両方を用いて行う形式の講義でした。スライドを映し出しながら、問題の解説や詳しい説明などは黒板を用いているので、学生はただ単にスライドやそのプリントを眺めているだけではなく、きちんとノートを取るなど、手を動かす作業が入るので集中を保つことができる点が良いと思いました。ベンゼン環を授業で見たのはこの大学に異動するまでおそらく高校生以来だったので、とても懐かしい気持ちになりました。

(2) 参観者から見た学生の様子 (対面講義のみ) 「1年」

○後部に座っている学生も静かに受講している。また、重要なポイントなどは線を引いていた。

○小説を読んだり、ペアを組んでのリーディングに参加せず寝ている学生も見受けられたが、おおむね積極的に受講していた。

○講義開始時から学生の聴講態度はよく、集中して講義を受講していました。おしゃべりをしたり寝ている学生などはおらず、熱心に板書を写していました。

(1) 感想 (良かった点・参考になったこと等) のご記入をお願いします。「2年」

○その時間の授業内容をプリントにして学生に配布しているの、学生はそのプリントを基に授業に参加することができる。本日の学習の目標を説明した後に、授業を始めていた。プリントが穴埋め形式になっているので、重要な部分が分かりやすいし、記入する作業が加わって授業に集中しやすい。プリントの最後にまとめの表が作成してあり、非常にわかりやすい。演習問題が添付してあり、すぐに内容のアウトプットが可能である。授業中に記憶を定着させやすいように、関連のある話を盛り込んでいる。マイクの音は、明瞭であった。(少し音を絞ってもいいかもしれない) プリントの作成の仕方などを見ても、内容をできるだけ理解しやすいように工夫されている様子が伺えました。

○前期 10 回 (1 単位) の講義中、7 回目の講義であった。講義内容は、6 章 (錯体の化学 (配位結合 / 錯体の構造, 安定度 / 配位子場理論 / 他) の初回であった。講義形式はパワーポイントを用いた講義で、毎回講義内容をまとめたプリントが事前に配布されていた。まず、この章での到達目標 (SB0 s) 各項目が丁寧に口頭で説明されているのは良かった。これから学ぶ内容であり、もう少しスライドに簡潔に示されていれば良いのではと感じた。また、次回の小テストの情報がアナウンスされ、学生はメモを取っていた。講義中の声は良く通っており、大変聞きやすかった。講義スライドの図 (たとえば、金属と配位子との錯体の立体構造模式図など) は簡素に見えるが、実は大変難しい事項であり、様々な金属と配位子の組み合わせにより整理して理解するのは大変な労力になると思われた。だからこそ、小テストを課しているのだろうと推測した。賢明な評価法であろう。

○板書での講義で、書くスピードや声の強弱、繰り返しの説明など学生が理解する工夫がなされていた。統計という理解しにくい内容を、例を挙げて学生の興味を引きつつ、さらに、演習のスタイルで、実際の手順に従って解析し、理解の遅い学生に関しても数回繰り返し説明することで、理解できるように丁寧に講義されていた。

○漢方薬学科の学生に対する、本格的な漢方医療に関する最初の学びとなる講義であることから、漢方薬のトレンドや有効性など、漢方医療を学ぶ意義に始まり、五行論や四神などの基本用語など、実際の漢方医療を学ぶ前の動機付けや必須用語の学習ができるよう配慮されていた。講義の特徴として用語の学習が多くなるため、手持ちプリントが用意されている点はもちろん、画像を増やし、文字だけにならないよう配慮されていた。

○最後列に着席しましたが、声は聞き取りやすかったです。重要な点をピックアップした資料を使って講義をされており、区切りのタイミングで学生に学生に問題を解かせているのも参考になりました。問題は記憶したものを選ぶ単なる選択肢問題だけではなく、



重要な固有名詞を書く問題や、考えて解く問題もピックアップされていました。解答後は解説があるので、考え方の確認にもなったと思います。途中で休憩をはさむのも学生がトイレに立ちやすく、また、集中力の維持のために良いと思いました。教室設備の問題ですが、中間モニターは修理されてはいたものの、液晶にムラが生じていました。また、教室の最後列からは最前面スクリーンとモニターの文字サイズはほぼ同じ大きさで、席の場所によってはあまり中間モニターが意味をなしていないこともわかりました。大学にはモニターの更新・増設をしていただきたいです。

○講義資料と演習問題が冊子体で印刷、配布されており、講義内容と演習項目の対応が分かりやすく、勉強し易くする工夫がなされていると感じました。また、前回の講義演習の解答に対する学生へのフィードバックが行われている点も学生が講義内容を理解する助けになっていると感じました。

○講義導入の際に、アンケートのフィードバックを行っており、その都度学生の理解度や問題点の改善などを学生に示している点は大いに参考になった。特に内容ごとに不得意部分やわかっていない部分をグラフ化して明示し、学生に学習のポイントを示しているところは学生に理解されやすいと思われ、工夫を感じた。最終講義であったため、演習ではあったが、試験前であることから学生は非常に集中して受講していた。本日は聴講させていただきありがとうございました。

## (2) 参観者から見た学生の様子「2年」

○真剣に聞き入って、プリントの穴埋め部分を記入していた。授業内容以外のことをしたり、携帯を触っている学生はいなかった。すべての学生が授業を真剣に視聴していた。

○スライドの文章が長く、そのため文字が少し小さいと感じた。そのため目を凝らしてスクリーンを眺めている学生が散見された。コンパクトな箇条書きにして、文字を大きくした方が認知しやすいのではと思った。講義中、学生は静かに配布プリントにメモ、コメントを記録しており、全体の受講雰囲気は大変良かった。

○2名遅れて入室してきた。5分以上経過し、2名入室してきた。15分以上経過して入室した学生はいなかった。静粛な環境で授業が行われており、ほぼ全ての学生が熱心にノートをとりつつ、教科書を確認しながら、授業に集中していた。以前の講義で説明された内容については、ノートを見直したり、書き加えたりして、自分独自のノートを作り上げている学生が多く見受けられた。授業中、私語などをする学生はいなかった。

○教室前方に着席し、配布のプリントにメモを取りながら集中して講義に臨んでいる様子が見られた。少人数であったこともあり、全体に落ち着いた様子が感じられた。

○ほとんどの学生は集中して講義を聴いているように見受けられました。ただし、後ろの座席に着席してる数名の学生が私語をしていました。

○上述の通り、学生は集中して演習に取り組んでいたように感じた。試験前ということもあり学生の意識も高まっていたのではと思われる。しかし、後方座席の学生が接近して着席しており、密な状態になっていたところがあったので注意が必要に感じた。

(1) 感想 (良かった点・参考になったこと等) のご記入をお願いします。「3年」

○【良かった点】

1. 第7回目の講義であったが、シラバスの進捗状況と補講実施や出席の取り扱いなどについて丁寧に説明されていた点。
2. 今習っている「食品衛生学Ⅰ」と既に修得済みの「生命科学」について、講義の中で、紐づけがされていた点。
3. 「板書(要点)」と「スライド(図)」を併用して、効率よく講義を進行していた点。板書の量としては、全面使用して、トータルで、4クール使用。
4. 学生の板書のスピードなど確認しながら進めていた点。
5. 講義内容および補講や出席取扱いについて重要な情報は、何度も繰り返し情報提供していた点。

【参考になったこと】

1. 板書とスライドの併用方法とその量のバランス。
2. 板書を消すタイミングで、学生にリフレッシュを促していた点。
3. 学生の反応など理解度を確認しながら講義を進めていた点。
4. 重要なことは繰り返しアナウンスしていた点。

○配布プリントに空欄があり、そこ書き込めるようになっていたところが工夫されていて良かったです。私もまねさせていただいております。臨床のことをかなり意識された授業で、国家試験だけではなく、卒業してからのことも考えられた授業であると感じました。また、ゆっくりと聞き取りやすい声で、大事なことは繰り返しお話しされていたので、かなり理解しやすかったです。入院中の患者に使われる漢方処方については詳しく説明されていたのですが、小児や妊婦に使う漢方処方について、もう少し具体的な例を挙げられてもよかったのではないかと思います。

○代謝系疾患の1回目で糖尿病に関する内容でした。

糖尿病と診断される検査値の基準をはじめとした糖尿病に関する基本的事項をわかりやすい言葉で丁寧に説明されていました。体内の血糖をコントロールするホルモンであるインスリンとグルカゴンについて、生合成・分泌される部位と作用する部位をとともわかりやすく解説されていて、私自身が4年生の医薬品化学Ⅱのペプチド関連医薬品で取り扱う内容でもあり、興味深く拝聴させていただきました。PowerPointの文字等も見やすく、有竹先生の説明もゆっくりとわかりやすい言葉で進行されていたので、学生達もノートやメモを取りながら講義に集中しやすいペース配分になっていると感じられました。しいて挙げさせていただくならば、HbA1cの説明時にPowerPointで示された糖化ヘモグロビンの構造式が、線が細いためか後ろの方の座席だとぼやけてやや見難いと感じられました(投影装置の関係で、投影している光の加減によりそう見えたのかもかもしれません)

ん)。

○最初に、学生が自身の現在の学習位置を把握できるように、本講座の全体像が明示された。今回は本講座の10回目であり、3回の核磁気共鳴(NMR)に関する授業の最終回であることが分かる。そのあと授業は、現在の授業項目(NMR)の復習へと進んだ。スライドには必須事項が赤字の重要語句を使ってまとめられており、先生の説明も非常にわかりやすい。スライドは学生にプリントとして配布されており、学生は容易に授業をフォローできる。スピーンスピン結合に関して、「隣の炭素に結合した水素の数+1で分裂する」などという不正確な記述ではなく、スピーンスピン結合定数が同じである場合という前提があることを正確かつ端的に表現されていた。研究室でNMRスペクトル解析を指導するものとして、前述の不正確な記述では絶対ダメと普段から考えており、先生の説明を大変ありがたく感じた。前回までの復習に15分程度費やされており、学生は十分にウォーミングアップできたと思う。

本日の内容に入る前に、再度、スライドで本日の学習内容が箇条書きで示された。学生は本日の内容が分かるだけではなく、「よしこれからだぞっ！」という気分になれたのではないかと思った。

NMRの具体的な読み方については、実際のスペクトルと教科書のものを使って説明されていた。 $^1\text{H}$  NMRと $^{13}\text{C}$  NMRを2例ずつ。教科書の説明も併せて読むように指導されていた。また、スライドで伝わりにくいと先生が感じられたところは、黒板でも説明されていた。さらに、分からない人は研究室に質問に来るようにと促されており、指導が手厚い。

スライド、プリント、教科書、黒板を最大限に活用し、学生に沿った授業を展開されており、大いに参考になった。ただし、先生の優しさがじわじわと染み渡るような授業であり、この点については私には絶対まねできないと思った。

○講義は、教科書を中心に板書を交えて進められ、常に学生の反応や動きを見ながら講義スピードを調整されていた。講義の導入部では復習として、前回の講義内容の学習ポイントを丁寧に説明されていた。板書による化学構造や反応式の明示は、化学用語の多い有機化学において学習効果が大きく知識の定着に有効であり、その板書はたいへん見やすいものであった。教科書の説明においても、重要なポイントを的確に指示し、常にページ数やその個所にも触れ、学生が見失わないような配慮がなされていた。特に、国家試験や定期試験の出題傾向を挙げ、学生の学習意欲の喚起に努められていた。また、下記の学生の受講姿勢からも、そのテンポの良い話し方は、非常に入り込める講義であった。

講義全体を通して、学生に親切で非常に丁寧な講義であり、単元の進行よりも学生の理解を優先している感もあり、先生の教育に対する熱意が感じられた。特記すべきは、

本科目が 10 コマにもかかわらず、5 コマを追加して補講されている点である。学生の学習レベルに応じたこの対応は、見習うべき姿勢と深く心に感じた次第である。自身の講義は学生の立場に立ったものになっているのか、改めて考えるきっかけを与えてくれた、たいへん良い模範となる講義であった。

○・教科書を用いて講義を行っていた点

- ・声が明瞭で聞き取りやすかった点
- ・教科書の文章や図表などをスライドに投射、板書も行い、わかりやすく説明していた点
- ・前回の復習なども適宜行い、学生の理解を深める工夫を行っていた点

○先ず授業の初めに前回の講義の復習を 15 分くらいかけて行っていた。学生は、前回の講義資料を振り返りながら、安川先生の説明に耳を傾けていた。2 度同じ内容を触れることになるので効果的な方法だと思った。本日の内容は、濃淡電池や膜電位でした。比較的学生にとっては難しいと思われる内容でしたが、じっくりとパワーポイントスライドを使用しながら説明されていた。スライドの内容が良くまとまっており、配布プリントもあったので復習にも役立つと思った。

○本日の講義は放射線の生体への影響に関する内容でした。タブレットの講義スライドをプロジェクタに投影しながら、教科書と講義資料を用いて講義されていました。補足事項や資料中の空欄をタブレットの赤ペンで書き込んで画面を拡大し、重要な点を赤で線を引いて説明されていました。最後方の席からも明確に視認でき、重要な点が大変分かりやすかったように感じます。また、その内容に関する説明の最後に、ポイントを説明されていました。箇条書きで、重要な用語は赤文字で記載されており、とても理解しやすかったように思います。記憶に残る講義であり、今後の自身の講義の参考になりました。

○全体のスケジュールをはじめに提示し、今回はどの範囲をするのかを説明されていた点が参考になりました。以降の私の講義でも、当日の範囲のみではなく、全体を毎回説明したいと思います。309 教室の一番後ろから参観させていただきましたが、スライド上にタッチペンで記入される文字は細字でも十分に見えることが分かりました。私の講義の授業アンケートで、タブレット上で記入した文字が見えにくいという不満があり、太字で書くことで対応していたのですが、文字の太さより大きさが重要である点を知ることができて良かったです。スライドを変える際も、毎回断りを得てから変えられており、親切だなと感じました。Ipo 上にスライドを事前にアップされており、当日は重要事項を記載させるのみならず、別途書き込みをしたりと、随所に工夫が感じられ参考に

したいと思います。

○第12回のウイルス性感染症の講義を参観した。

- ・講義資料は重要部分が穴埋め形式になっており、先生の指示に従い空欄に学生が自ら記入することにより講義に集中できていた。
- ・板書ではなく PowerPoint に書き込こむことで、今どこを説明しているのか、どこが重要であるのかが明確に示されて、とてもわかりやすかった。
- ・重要なポイントを何度も強調しながら話されており、メリハリが利いてとても理解しやすいと感じた。
- ・所々で微生物学で学んだ内容を復習しながら説明されており、理解しやすいように工夫されていた。
- ・説明の後には、学生に語りかける感じで、理解できたかどうかを確かめられていたのが印象的だった。

今後、自身が講義を実施していくうえで大いに参考になった。

○ペンタブ利用のパワーポイントでの講義であったため、重要ポイントや追加説明事項などが形に残るため、わかりやすかったです。また講義は Zoom も使ったいたため、遠隔受講者と対面受講者が同じ話内容で聴講できる点がストリームとは異なり良かった点だと思い今後の参考になりました。

また感染症治療の作用機序と、感染発症機序とを相互に説明されながら進められていたので、薬物療法としての新しい知識と、微生物学や生命科学で習った内容の知識の呼び起こしができていて、学生にとっては理解しやすいスタイルだったと思います。

大学の設備側になりますが、Zoom でも講義を配信していたので、学内で WiFi 設備が整うと、後方座席の学生は、自分のスマホやタブレットで Zoom 画像を見ることができるようになるのではないかと思います。そうすれば、よりスクリーンで映写される文字・画像などが見やすくなり、学生からの授業アンケートによく書かれている、「スライドなどの文字が見えにくい」という案件に対応ができるのではないかと思います。

○講義はスライドと教科書を用いての説明で、スライドには該当する教科書のページが記載されており、分かり易い資料でした。講義後に確認テストを実施されており、行われた講義の理解度がすぐに分かるようにされていました。

○薬物動態学的相互作用についての講義でした。紙の資料が配布されていて、学生はそれを見ながら授業内容を確認することができていた。また資料には多くの図が掲載されており、視覚的に訴える工夫がなされていました。説明もとても丁寧で、過去の授業との関連が述べられていること、確認問題も用意されていることなど、さらに、来週、中



間テストがあるとのことで、試験対策に関することも述べられていました。とても良い授業で、参考になりました。

○講義の最初に小テストを実施して、復習による学生の記憶の定着に務められていました。遠隔の学生に対しても（一部トラブルもありましたが）配慮されており、単元ごとの記憶の整理に役立つのではないかと思います。講義内容については非常に学生にとって難しい範囲の内容かと思いましたが、重要なポイントを繰り返し説明されておりキーワードが頭に残りやすい講義になっていたと感じました。

○・講義の内容が分かりやすかった。

・また声も聞き取りやすく、話すスピードもちょうどよいと感じた。

・パワーポイントや板書を併用しながら丁寧に進めていく授業で、スライド1枚に対して説明する時間を十分に確保しており、聞き逃した部分があってもスライドをみれば理解できるよう工夫がなされていた。

## （2）参観者から見た学生の様子「3年」

○1. 出席学生は真面目に集中して取り組んでいた。

2. 板書のスタイルが学生の集中力を高めるためのよい方法と思われた。

3. 後方中央の男子学生1名が、中座したが、すぐ教室に戻ってきたため、お手洗いの利用と思われたが、それ以外は、真面目に取り組んでいた。

○全員集中して授業を聞いているように見えました。寝ている学生はいなかったように思われます。

○学生は静かに講義を受けていました。ノートやメモを取りながら有竹先生の話を中心して聞いていました。

○学生は集中して受講しており、授業に惹きつけられている印象を受けた。

○学生は、良い緊張感をもって講義に臨んでいた。また、リズムよく調整された講義スピードにより集中して受講している様子であった。スマホなどの他事をする学生は見受けられなかった。

○・ほとんどの学生が熱心に講義を聞いており、板書やスライドの内容をノートなどに写していた。

・タブレットを用いて、講義とは関係のないインターネットを行っている者がいたが、講義を聴講する態度も見受けられた。

・3名ほど途中退室していたが、再び講義室に戻ってきた。

・後方の学生（2名）は、スマートフォンで板書やスライドを撮影していたが、先生が許可しているようなので、問題ないと思われる。

・私語や居眠りもなく、受講態度は概ね良好と思われる。

○本日は大部屋でABクラス合同でしたが、居眠りをする学生もおらず、真剣に講義に臨んでいました。コロナ対策で窓を開けていたので、虫が入ってきて気にしている学生もいましたが、仕方のないことだと思います。

○講義中、寝る学生もおらず、配付資料に書き込みをしたり教科書を読むなど、真面目に講義を聞いている様子でした。

○寝ている人は一人もいませんでした。また、途中で質問事項の答えを書いてねと指示を出されるのですが、大半の人はきちんと記入しており、講義内容の定着もできていると感じました。

○講義資料やスライドに集中して、多くの学生は真面目に講義に取り組んでいた。しかしBクラスということもあり、後部座席の数名は、携帯を操作したり、講義資料をダウンロードしたタブレットを眺めているだけの学生もいた。

○Aクラスの学生ということもあり、学生はよく聴講していた感じでした。学生は、紙媒体やiPadなどに取り込んだ講義資料に、小川先生が話された内容を書き込んでいたり、よく手を動かしていたと思います。後方座席の2~3名ほどの学生が、書くことに疲れたのか睡眠学習を行っていました。

○スライドを用いているため、下を向いている学生はほとんどおらず、該当する教科書のページを見ながら受講している学生がほとんどでした。

○全体的にとっても良い状況で授業に参加していた。授業中に講義室を出る学生が数名いたが、講義室に戻ってきて授業に参加していた。また居眠りする学生も見当たらなかった。

○今回参観したのは3年生のAクラスでしたが、皆非常に真面目に取り組んでいました。小テストに対しても真剣に取り組んでおり、講義中も資料を確認しながらメモを取る姿が全体に見られました。

○・講義中に寝ている学生が少なかった。

・学生がよく集中して授業を受けている様子が印象的だった。

・講義中の重要なポイントを教科書で確認したり、メモをとったりするなど熱心な学生が多かった。



(1) 感想 (良かった点・参考になったこと等) のご記入をお願いします。「4年」

○教科書の重要ポイントをプリントにまとめられ、教科書とプリントを併用して、主にプリント中心に講義が進められていました。

福岡県庁薬務課における情報や現場での経験を通じた実体験を交えながらの講義であるため、学生は教科書的なことだけではなく、臨場感のある講義が受講できているように思いました。

○パワーポイントとその内容が記載されたレジュメを用いた講義で、パワーポイント映像および配付プリントにおける漢方処方の説明にはイラストが入っており、受講生が各処方の患者像を視覚的に理解できるよう工夫がなされていました。また、大建中湯の説明において「＼おなかモクモク大建中湯」と覚えるといいですよ」と、漢方処方の覚え方を工夫されていたのも受講生に印象的だったと思います。

今回は八味地黄丸などの地黄剤や大承気湯などの大黄剤の説明が主の回でした。各漢方処方の中心生薬の説明と有効成分の説明を交えて漢方処方の薬効を説明されていたので、学生が重要生薬や重要な天然物についての理解を深めることができたと思います。話し方は、丁寧にはっきりとした口調であり聞きやすく、最後列の受講生でもはっきり聞き取れるよう一定速度での説明でした。自分の講義と照らし合わせますと、私は話す速度が早すぎるので、本講義での丁寧な話し方が今後の自分の授業方法に大変参考になりました。

○講義に入る前に、確認試験を行われていました。毎回確認試験を行うことで、学生の講義の理解度を逐一把握でき、学生の理解度に合わせて講義を進めることができるのはとても有意義だと感じました。

薬学生にも英語力が求められますので、臨床に関する英語について臨床経験のある教員が講義をするのは良いかと思いました。

(2) 参観者から見た学生の様子「4年」

○後ろの方の学生は一部居眠りをしているものもいましたが、ほとんどの学生はプリントとスライドを交互に見ながら、真剣に受講していました。

○講義開始時から受講生の聴講態度は良く、後席でもおしゃべりする受講生はなく、聴講していました。途中退席者もなく、受講生は、講義中の重点事項をプリントで確認したりノートをとるなどしていました。

○確認試験もしっかり解答していました。現在、事前学習で行っている症例に関する内容で、講義も興味をもって熱心に聞いていました。

**看護学部**  
**教員相互授業参観報告**

**令和 3 年度**



## 令和3年度「教員相互授業参観」実施要領(看護学部)

FD委員会

令和3年5月24日(看護学部教員連絡会議)

### 1. 目的

教員の教育力向上の一助とし、(対面型講義の場合は受講している学生の受講態度等を観察し)、教員が授業の現状理解を深めることを目的とする。

### 2. 要領

本年度は、下記の要領で教員相互形式の授業参観または視聴を実施する。学生の授業評価の高い教員の教科科目や自身の専門領域や学部を超えた講義など、幅広く自由に選択できるようにする。

○実施期間：令和3年5月31(月)～12月24日(金)

○回数：教員は、上記期間中に、**年1回**は参観または視聴すること。

○対象科目：1・2年生の開講授業科目(実習科目や演習科目は除外)

参観対象科目は**看護学部で実施されている教科目**(看護学部並びに薬学部専任教員の実施している必修科目とし、参観したい科目を自由に選ぶこと。

○手順：

手順1 対面型講義あるいはZoomを用いた講義において、視聴(参観)希望者は、前もってEメールなどで講義担当者の承諾を得ておく。

手順2 30分以上参観する。

手順3 感想用紙：dysv10 → 看護学部 → FD委員会 → 令和3年度 → 「令和3年度授業参観感想用紙.docx」を使用すること。

手順4 参観・視聴 終了後、感想用紙に感想を記入する。

手順5 提出先1：参観した科目担当教員(電子ファイル)

2：FD委員(中尾 mail; [h-nakao@daiichi-cps.ac.jp](mailto:h-nakao@daiichi-cps.ac.jp))

に電子ファイルを添付で提出する。

○提出期限：12月24日(金)までとする。

### 3. 附記

- 提出された感想用紙は看護学部FD委員会(委員 中尾)が保管する。また参観を受けた教員はその感想用紙の内容を、翌年度の授業参観のための参考資料とする。
- 感想提出教員のリスト等を、提出期限後に行われる教員連絡会議にて連絡することがある。

## 令和3年度「相互授業参観」感想用紙

参観日時	月 日 時限	参観者名	
学部・学年・期 講義名	看護学部・ 年・ 期	講義 担当者	

(1) 感想（良かった点・参考になったこと等）のご記入をお願いします。

(2) (対面式講義の場合) 参観者から見た学生の様子

令和3年度 看護学部 教員相互授業参観

番号	参観日	参観者	授業科目	学年	授業担当者
1	4月26日	村田節子	看護援助技術Ⅴ	2	長家 智子
2	4月26日	中村 真理子	看護援助技術Ⅴ	2	長家 智子
3	9月19日	溝口 晶子	看護援助技術Ⅱ	1	長家 智子
4	9月30日	姜 旻廷	看護援助技術Ⅰ	1	丸山 智子
5	10月11日	岸本香代	看護援助技術Ⅳ	2	姜 旻廷
6	10月21日	長家智子	看護援助技術Ⅱ	1	竹井 千里
7	10月27日	前原 敬子	母性看護援助論Ⅰ	2	川口 弥恵子
8	10月27日	日高 朱里	母性看護援助論Ⅰ	2	川口 弥恵子
9	10月28日	権藤 多栄	看護援助技術Ⅲ	1	山口 今日子
10	10月30日	宮崎 初	看護研究Ⅱ	2	姜 旻廷
11	10月30日	濱田 裕子	看護研究Ⅱ	2	姜 旻廷
12	11月10日	川口 弥恵子	母性看護援助論Ⅰ	2	前原 敬子
13	11月11日	山口今日子	看護援助技術Ⅲ	1	権藤 多栄
14	11月17日	丸山 智子	看護援助技術Ⅲ	1	姜 旻廷
15	11月17日	小山記代子	母性看護援助論Ⅰ	2	前原 敬子
16	11月18日	井上由美子	看護援助技術Ⅲ	1	丸山 智子
17	11月22日	竹井 千里	看護援助技術Ⅳ	2	権藤 多栄
18	11月27日	栗原はるか	精神看護学概論	2	宮崎 初
19	11月27日	安藤満代	精神看護学概論	2	宮崎 初
20	12月2日	小川 有希子	在宅看護概論	2	西田 和子
21	12月2日	中尾 久子	高齢者看護学概論	2	山本 弘恵
22	12月8日	山本 弘恵	地域保健	2	園田 和子
23	12月8日	西地 令子	地域保健	2	園田 和子
24	12月22日	平田伸子	母性看護援助論Ⅰ	2	川口 弥恵子

## 令和3年度 看護学部 教員相互授業参観感想 総括(24名分)

### 【1年生】感想(良かったこと・参考になったこと)

#### ○1. 講義の実施、本時の授業テーマ「筋肉注射」

講義で話すスピードと声の大きさが聞き取りやすく、表情、身ぶり、身だしなみがよかった。

- ・内容を理解しやすいように説明しており、要点をおさえていた。学生の反応を確認しながら進めていた。

#### 2. 教材の工夫

注射する部位の筋肉(形態機能学で学修した)の構造をわかりやすく画像(臀部や大腿四頭筋を大腿直筋、外側広筋、内側広筋)を使い、説明していた。

- ・大腿直筋、外側広筋、内側広筋は、通常テキストでは平面的にまとめて表示されているが、学生への提示は、理解しやすいようにそれぞれの筋肉を一つずつ示したことで、具体的にイメージしやすく参考になった。

#### ○前回までの講義の振り返りをしながら授業を進めており、これまでの講義との関連や知識・技術の積み重ねが大切であることを学生に認識させていた。

また、一方的に講義をするのではなく、隣同士でディスカッションをさせたり、教科書に戻って線を引いたり読んでもらったりと、学生を主体的に授業に参加させるような工夫をしていると感じた。

先生の話し方のテンポもよく、聞き取りやすかった。

#### ○講義で話すスピードと声の大きさが聞き取りやすかった。

- ・スライドの構成(内容の配置、字の大きさや色)が見やすく、内容ごとに分かりやすかった。
- ・講義の内容によっては、関連する前回の講義内容を適宜想起させることで、単元のつながりが分かりやすかった
- また、援助内容によって共通/相違の根拠や援助のポイントが把握しやすかった。
- ・適宜臨床(患者)の実際を紹介しながら学修内容を説明することで、援助場面と内容を具体的にイメージしやすかった。

#### ○まず、授業で何を学んで欲しいのか学生に伝え、具体的な講義内容について説明があった。医療事故防止という、まだ、実習経験が少ない中で臨床現場のイメージを持たせるために、今までに学んだ看護理論家が述べている安全確保の重要性について触れてあった。その後、実際に起きた医療事故を説明することや基礎看護学実習Ⅰでの学びも振り返りながら、授業を進めることで、学生にとってより身近な問題と感ずることが出来たと考える。また、看護援助技術の授業で学び得た技術と関連した事故事例を出して、学生に医療事故がより身近なものであることなど、学生に関心を持たせる工夫がされていた。

授業の最後に、KYT事例を出して学生同士で考えさせた事が、講義内容についての学生の理解がより深まったと考えました。以上のように良かった点を今後、自分の授業に参考にさせていただきたい。

#### ○良かった点

- ・授業の資料は大変見やすく、豊富な内容でした。
- ・授業参観後、聴講したことの充実感や感動が残りました。
- ・看護の技術について、人体の生理学的側面から説明がなされ、具体的な技術にいたる流れは大変詳細で、実生活を踏まえた内容が随所に織り込まれていました。
- ・聴講者の関心を引き続け、授業時間である90分間を聴講者に飽きさせない工夫が感じられました。

参考になったこと

- ・講義内容が充実しているため、豊富な知識に裏打ちされる資料作成の必要性が参考になりました。
- ・パワーポイントの文字の大きさ、背景等の工夫が参考になりました。
- ・私も先生のような授業ができるようになりたいと思いました。

○初めに授業で学ぶことや具体的な講義内容について説明があった。このことで、学生が講義で何を学ばなければならないのか明確にしたうえで、講義に臨むことが出来ていたと考えた。

今回の与薬の技術③では、注射の基礎技術としてアンプルやバイアルからの薬液の吸引において、滅菌物をどのように適切に取り扱うかについて学生が理解し易いよう工夫されていた。例えばスライドの画像は注射薬の準備の過程において、手順の沿った画像を丁寧に作成されており注射薬の準備が初めての学生も理解し易いと思いました。

講義の話し方は学生が理解しやすい様に適切なスピードであり、学生に質問を行いながら進められていることで講義内容を修得しやすい工夫が行われていると思いました。

また誤薬防止については6Rを用いることやダブルチェックのタイミングについても詳しく講義され、誤薬防止の実践能力の修得につながる講義であったと思いました。

講義資料の作成や講義の進め方等、良かった点を自分の授業に参考にさせていただきたいと考えます。

○・オムツ交換と陰部洗浄の授業であったが、資料を前週に配布し宿題で解剖生理を確認させたことで、事前学習が進み、授業内容の理解に繋げることができていた。

各箇所適切な発問があり、学生への適度の緊張感を与えることにもなっていた。

事前に学生観、教材観、授業観などを明確にして授業計画を立てていることが、効果を上げていると考える。

2つの演習内容を実施したが、時間配分も適切で物品の入れ替えを行うことで学生は切り替えがうまくいっていた。使用予定器材に不良があり使えなくなったが、臨機応変に対応できていた。

以上の点については、とても役に立った。

## 【2年生】感想(良かったこと・参考になったこと)

○・母性看護援助論の最終回としてロールプレーを導入して妊娠末期から分娩期を解説していた。

・本物の妊婦も加わっているため臨場感があり学生を引き付ける効果が倍増していたように見えた。

・妊婦健診から続く指導、出産入院時の対応～分娩～分娩第4期までを解剖生理にも戻り、模型で復習しつつ進めていた。分娩期の看護場面では、分娩台を取り巻き、教員の手元や分娩の進行が見えるように配慮されていた。また、分娩期に用いられる教材がふんだんに準備された状態での産婦と看護職の息の合った場面設定シナリオとして工夫されていた。場面場面での看護師として必要な判断のポイントが示されていた。また、ここが国試でよく出題の対象になっていると指摘し、緊張感を与えることができた。

○看護過程の基本からを資料やテキストに基づいて解説していた。演習につながるように課題を順々にこなせるような構成になっていた。

○1.事前学習から講義、演習へと学生の思考が繋がる授業内容で分かりやすかった。通常事前学習課題は出題しておわりになりがちであるが、一つひとつ丁寧に解答されていた。

2.学生の反応を否定的に捉えず、「そうですね」と受け止めて、その後正しい解答に導く方法は是非真似をしたいと思います。



3.講義について内容が十分吟味され、構成もわかりやすかった。

4.演習の時間配分がよく、学生は無理なく演習をすすめることができていた。多くを演習させるのではなく、本当に学ばせたいことを演習することが重要であると考えた。

○落ち着いたゆっくり口調で講義されていたので、まず、受け止め、理解、考える時間をもつことができ、自分の思考をまとめやすかったです。ゆっくり話すことを心掛けていきたいと、再確認することができました。

・教科書の例だけでなく、わかりやすい他の例も話してくださっていたので、なおのことわかりやすかったです。参考にさせていただきます。

・教科書の内容を分かりやすく、端的にパワポに整理してくれていたのが、理解しやすかったです。

視聴させていただきありがとうございました。

○①テキスト内の事例の中でも、当事者の語りを中心となったものを選出されていた。語りの中から、当事者の情報を把握し生活背景・育成課題を学生に考えさせることを試みてあった。語りを中心である事例が選出されていたことで、リアルに患者像を想像できていたのではないかと感じた。

②学生の学びの共有:①の事例の学びについて、クラス全体で発表を行い、それぞれの学びが共有されていた。発表人数を十分に確保できるだけの時間配分がされていることで、より多くの学びが共有され、学生の考え方の幅を引き出すようになっていた。

③学生へのフィードバック:②の際、学生の発表ごとにポジティブなコメントをすることにより、学生の自信につながっていた。

○・災害看護(1)発災期～急性期について教科書や文献等を用いていましたが、使用された文献をタイトルスライドに表記されていました。

・丁寧に説明をされながら講義が進行し、途中で関連する国家試験問題を回答するように工夫されていました。順番にマイクを回し学生が回答していました。

・トリアージの方法を説明した後、事例(コンビニに、アクセルとブレーキを踏み間違えた車が突っ込み、多数の傷病者が出ている)を用いたトリアージの演習があり、私も一緒に行いました。10人の傷病者の状態を確認しながら、トリアージタグを選びましたが、速いスピードでトリアージしていくことを体験出来て、学生も理解しやすいと思いました。

○第10回目の「分娩の進行と産婦の身体的変化」を zoom で視聴させていただきました。

前回までの振り返りから本日の目標を示し、学生には前回とのつながりがよくわかる導入になっていたと思います。図や表を有効的に使いながら先生の説明がわかりやすく分娩時の劇的な身体的変化について理解できたと思います。また、重要な点は、繰り返し視点を変えて説明を行うなど学生が理解しやすい構成になっていたと思います。授業の途中で国家試験の問題を解かせていたが、問題になっている知識の説明の後すぐに提示し、解答させることは、学生の国家試験への意識付けだけでなく、授業の一区切りとなり、学生の気持ちの切り替えになって再度授業に集中するきっかけになったのではないかと思います。

大変参考になる授業を視聴させていただきありがとうございました。

○良かった点

・講義の初めに前回のまとめがあり、質問等の解説があった

・講義時間(90分)の中で、学生個人ワーク(まとめる作業時間)の時間を設けており、学生が主体的に学ぶ参加型の工夫がされていた。

- ・講義の説明、話すスピードが丁度良く、聞き取りやすかった。
- ・講義の中で参考資料の紹介もあり、何を参考にしたらよいかのわかりやすかった。さらに前回の講義内容とも関連付けて話されており、わかりやすかった。
- ・配布資料は、見やすく工夫されており要点が分かりやすいと感じた。

参考になった点

- ・初学者に教授するため段階的に知識を与えること。まずは「知る・わかる」のレベルの講義の組み立てや講義と演習・実習の一連の教育の中での講義の位置づけ。
  - ・「知る・わかる」ための視覚的教材の選び方。
  - ・パワーポイントの作成の方法について、一枚のスライドで何を伝えたいのか、伝えたいことの表現の仕方、文字の大きさ、図表や写真の挿入の仕方について、今後の参考としたい。
- トリアージの講義をするだけでなく、実際の事例を出し、どのタグ(色)に当たるかなどの問題を出すなど、学生の興味を引き付ける講義でした。
- ・自分は必ず講義で話した内容のこれまでの経験した事例の話、国家試験問題の挿入等の工夫はしています。ただ、事例検討は演習でとすみ分けをしていたところもあるが、講義中の事例検討も今後はもっと取り入れ効果的な学習を図ろうと考えました。
  - ・講義資料は貼り付けなどを最小限に抑え、非常に見やすくしてあった。時々、資料が別の教科書をそのままコピーしたものを貼り付けしていることがあり、文字がつぶれて読めない、文献引用として不適切と考えられる資料も少なくない中、時間をかけて講義資料を作成していることがよくわかりました。講義資料はその人自身でもあるので他の人も見習って作成してほしいと思いました。
- この講義の分娩期を引き続き担当することで、今回講義の参観をおこなった。母性看護学援助論1は妊娠期・分娩期の看護を学修する。学生は妊娠・分娩期にある人に接する機会が少なく、イメージしにくく、妊娠の生理・胎児の発育をとらえることは難しい。そのため、講義では、学生がイメージしやすいように、妊娠による生理的变化を動画、胎児の循環を動画でわかりやすく、それに事例を活用した講義がされていた。現代学生の特徴をとらえて、分かりやすく講義を工夫してあったことがよかった。また、学生のリフレクションシートを通して、質問に答えることで解決されていた。
- 初めて「看護過程」という名称の授業を受ける学生にとって、聞きなれない言葉が飛び交うのであるが、一つ一つ丁寧にわかり易い例題を使って説明をされていた。
- ・また、なぜ「看護過程」の技術を習得することが重要なのかを学生に伝えられており、学生はこの「看護過程」の重要性を感じ取っていたと思える。
  - ・さらに、2コマ続きの講義で大変難しい内容であるにもかかわらず、一人の学生も居眠りなどしておらず、内容が濃い授業であると感じた。
  - ・学生は、難しい講義内容でありながらも一所懸命に取り組んでいた。参観者(私)には、講師の看護に対する熱い思いが伝わってきた。学生にも伝わっていると感じた。
  - ・学生が居眠りをしない様子を見て、授業方法・進み具合・時にウイットなど、参考にさせていただきたいスキルがたくさんあった。ありがとうございました。
- 高齢者のヘルスプロモーションについて、テキストや他の文献、厚生労働省のデータなどを用いて丁寧に説明していました。
- ・具体的な例を出して、高齢者の特徴や支援について説明をしていたので、学生の理解につながりやすいと感じ

ました。

・講義の最後に過去の国家試験問題、ヘルスプロモーションに関連する脳トレなどの問題があり、講義のまとめと国試対策につながっていると思いました。

○・本日の授業のポイントやタイムスケジュールが1枚にまとめられており、学修内容が一目で分かりました。本日の気づきや授業中の質問用QRコードが提示されていたため、学生がアウトプットしやすい授業環境を整えていると感じました。すぐに授業の本題に入るのではなく、授業を受ける意味やこの授業のポイント(妊婦の妊娠週数における状態や状況の理解)を話したことで、学生の授業を受ける姿勢づくりも行っていました。また、前回のおさらいをすることで本日の授業にスムーズに入りやすく、学生の感想を紹介したり、質問へ回答することで双方向性のある授業になっていると感じました。他学生の感想を見ることで、多様な意見があることを知り、自らの考えを深めることにもつながっているように思われます。

・初回授業で提示した妊娠期の全体像をもとに、本日はこの週数～学修すると展開しているため、学生にとって理解しやすい構成だと思いました。常に、重要箇所やポイントを押さえて、声の抑揚を変えたり、繰り返し説明を行っていたため、学生にも大事な箇所が伝わりやすかったです。看護師国家試験問題を随所に取り入れており、学生自身が自分の理解度を確認することができるよう工夫されていました。

○・看護研究デザインの「実験研究」について、教科書に沿って丁寧に講義されていた。

2年生では、まだ難しい内容と考えられるが、講義レジメ、PPを用いながら進められていた。具体的な事例については、テキストに掲載されている事例を用いて説明しながら、その特徴や、実験的操作や介入などについて、話すスピードもゆっくりと、わかりやすく説明されていた。

○・分娩期の第1回目の授業であり分娩という学生には非常に理解しにくい部分でもあったため、伝えるのはご苦労なさったのではと拝察いたしました。しかし先生は、順序だてて丁寧に教えておられ、学生にもわかりやすかったのではないかと思います。

具体的には、

- ・事前に本科目の目標と照らし合わせて勉強の仕方などにも触れ説明されていた。
- ・ゆっくりとした口調で、丁寧に説明して授業が行われている
- ・伝えたいことが明記されたPPTを使用し、さらに教科書との対応箇所を示している。
- ・「ここは重要」や「マーカー引いておくように」など学習方法について説明している。
- ・リフレクションシートなどでアウトプットを実施している。

などの点が特に印象的でした。授業参観の機会をいただき、ありがとうございました。大変勉強になりました。

○・1年次の形態機能学を単位習得終了した2年時後期の学生対象であるが、学生のレディネスを考慮した講義展開となっており参考となった。

講義展開では、学生が苦手とする解剖に関して、1年次の形態機能学の想起を行っていた。二次元の構造だけでなく、心臓の位置や大きさをについて立体的な説明を加える事と解剖図も数パターン示し、学生が分かり易く、記憶に残りやすいような内容となっていた。また、解剖の中でも、全てを網羅するのではなく、演習に繋げるような焦点化も行っていた。そして、講義の中で学生が自らの体を用いる事も、インプットとアウトプットが想起で行える講義展開となっていた。単元が難しいものであるが、講義担当の先生の学生に伝えたいことが焦点化された分かり易い授業であった。

○・講義に参加させていただいてありがとうございます。感想を述べさせていただきます。

- 本日の目標である、精神科の患者の対象者の理解の仕方が、ヒストリーから読むこと、またそれを現在につなげて考えていくことが大変わかりやすく、解説されていたと思います。
- 学生がいかにして、ケースの感想を聞いて、その後に解説されたことで、より深く学生が学修できることがわかり、大変私の参考になりました。



**薬学部**  
**教員による授業の自己評価報告**

**令和 3 年度**



## 令和 3 年度 教員による授業の自己評価について

教員の教育力向上を目的として行われてきた「学生による授業アンケート」「学生アンケートに対する教員コメント」の取り組みと合わせて、さらなる教員の教育力改善のため、専任教員を対象として「教員自身による授業の自己評価」を平成 26 年度より開始した。

平成 26 年度は「教員による自己評価」及び「次年度への計画」が記載項目として挙げられていたが、平成 27 年度は、「学生による授業評価に対するコメント」を追加した。これにより、授業に対する PDCA サイクル(授業(D)、自己評価及び学生評価(C)、次年度への計画(A/P))を 1 枚のシートで確認することができるようになった。平成 28 年度からは、自己評価の項目に「昨年の授業改善計画に対する自己評価」を追加した。これにより、昨年の自己評価による改善計画(P)、授業の実施(D)、授業の自己評価(C)、昨年の改善計画の自己評価(C)、次年度への改善(A/P)と、教員自身の授業に対する PDCA サイクルがさらに充実した。学生評価を加味することでさらに自己点検の際、学生の意見に対する振り返り効果も得られるものである。平成 30 年度には、各教員に対して「教員による授業の自己評価」に関するアンケートを実施し、自己評価の有用性についての検証を行った。その結果、教員は前年の自己評価に基づき、授業改善に努めていることが明らかとなった。また、前年度から継続して講義を担当している教員の全員が授業に対する改善を行ったと自己評価していた。これらのアンケート結果は、「教員による授業の自己評価」が、教員の授業の改善に有用であることを示している。このアンケート結果に基づき、令和 2 年度からは「教員による相互授業参観に対するコメント」を取り入れたフォーマットを作成した。これにより教員による相互授業参観を PDCA サイクルに組み込むことができた。なお、令和 2 年度には看護学部が新設されたため、看護学部と共通のフォーマットとした。

令和 3 年度は、FD 委員会活動が薬学部と看護学部でそれぞれ独立したため、学部共通フォーマットだった令和 2 年度版を修正して新しいフォーマットとして「教員による授業の自己評価」を行った(図 1)。それ以外の内容については、前年度の項目を引き続き継続して実施した。前期・後期それぞれの講義終了後、学内サーバー(DYSV-10)の FD 委員会内フォルダーに教員個人が提出する方法で実施された。

令和 3 年度は前期科目 50 件、後期科目 38 件が提出され、ほとんどの科目で自己評価が適切に実施された。一方で、数科目未提出科目があったこと、またオムニバス講義及び実習の取り扱いについて曖昧な部分があったため、次年度は自己評価の回収方法、実施要領について再度検討を行うこととした。

提出された教員による自己評価は、印刷物として図書館で学生・教職員を問わず誰でも自由に閲覧できるよう設置している。



2021 年度 薬学部 教員による授業の自己評価

所属 担当者名	分野	年度	2021 年度	前期 ・ 後期
担当科目・ 授業回数	科目名：  ( 回)	学 年	年	

1. 教員による授業評価

- (1) 授業計画と講義内容について説明しましたか。 はい いいえ
- (2) 学生の理解度を深めるための講義の工夫について、自己評価（該当箇所○）を行って下さい。

	改善が必要 ←————→ 改善不要						該当せず
	0	1	2	3	4	5	
① 配付資料のわかりやすさ							
② 板書の読みやすさ、わかりやすさ							
③ 講義で使用したスライドのわかりやすさ							
④ 重要な事項の強調方法の適切さ							/
⑤ 学生の理解度に応じた講義スピードの調節							/
⑥ 試験内容や試験方法に対する工夫							/

2-1. 学生による授業評価に対するコメント

2-2. 教員による相互授業参観に対するコメント（ある場合のみ）

3. 昨年の改善計画に対する自己評価

4. 次年度へ向けての改善計画

図1 R3 年度（2021 年度） 教員による授業の自己評価 フォーマット

**看護学部**  
**教員による授業の自己評価報告**

**令和 3 年度**



令和3年5月24日

教員連絡会議

FD委員会

## 令和3年「教員の授業自己評価」、「教員の実習自己評価」 実施要領

1. 目的：教員の教育力評価方法の1つとして、学生による授業評価、教員相互授業参観を受けて、総合的に自己評価を行い、現状を把握し、次年度の授業並びに実習内容に反映させることを目的とする。
2. 要領：
  - 実施時期：年度末
  - 回数：1科目につき、年1回
  - 評価内容：科目担当責任者は1科目1回、「学生による授業評価」、または、「教員相互参観」を総合的に反映した自己評価を行う。  
「教員の実習自己評価」も同じ要領で行う。
3. 手順：
  - 評価用紙（フォーム）；DYSV-10 ⇒ 看護学部 ⇒ FD委員会 ⇒ 令和3年度  
⇒ 令和3年度「教員の授業自己評価」用紙、「教員の実習自己評価」用紙を使用する
4. 付記：
  - 1) 記入した、教員の「授業自己評価」用紙、「教員の実習自己評価」用紙はFD委員  
(西田 mail; k-nishida@daiichi-cps.ac.jp)に電子ファイルで提出する。
  - 2) FD委員は、年度の総括表としてまとめ、公表の資料とする。

## 令和 3 年度 教員による授業の自己評価について

看護学部は令和 2 年度より開設した新規学部であり、薬学部で従来から実施していた「教員の授業自己評価」に関する共通のフォーマットを利用し実施してきた。

令和 3 年度は看護学部独自に使用するフォーマットに一部変更し、「教員の授業自己評価」、「教員の実習自己評価」に加え、「自己管理目標管理シート」(提出義務は課さない、個人保管)を提示し、今後に改善、反映できるようにした。

「自己管理目標管理シート」を加えることによって、「教員による相互授業参観」、「学生による授業評価」、「学生による実習評価」等を統合し、教員による自己評価は PDCA サイクルを確認できると考える。「学生による授業評価」(D)、「他教員による授業参観」(C)、「相互授業参観に対するコメント」(A)、「自己管理目標管理シート」によって次年度に向けての改善計画(P)と、PDCA サイクルに組み込むことができると考える。看護学部は本年度の学生は2学年まで、全ての教科目が揃っていない中での評価状況である。今年度は教員による自己評価は、個人保管状態としている。公表に関しては、今後検討課題とする。

参考に 2021 年度(令和 3 年)の評価シート 3 種類を添付する。

2021 年度 教員による実習の自己評価

2021.5 改定

担当者名		年 度	2021 年度	前期・後期	
担当科目				学 年	年

1. 教員による実習評価

(1) 実習計画と実習内容について説明しましたか。 はい いいえ

(2) 学生の理解度を深めるための実習の工夫について、自己評価（該当箇所○）を行って下さい。

	改善が必要 ←————→ 改善不要						該当せず
	0	1	2	3	4	5	
① 重要な事項を強調するなどし、実習内容を理解させる工夫をした							
② 技能（手技・態度）を習得させる工夫をした							
③ 記録用紙は量・内容等適切であった							
④ 学生へのフィードバックを行った							

2. 学生による実習評価に対するコメント

3. 昨年の改善計画に対する自己評価（ある場合のみ）

4. 次年度へ向けての改善計画

## 令和 4年度 自己目標管理シート（記入例）

\*FD マザーマップレベルを以下 FD レベルとする。

目 標	具 体 的 行 動 計 画 (具体的な取組み・行動内容・行動スケジュール等)
<p>I. 2) 教育 4-1. 2</p> <p>① 学生の主体的学習への支援ができる (看護専門職の自律性を育む点が看護学教育の特徴) (現在の FD レベル I → 目標 FD レベル II)</p> <p>II. (現在の FD レベル 〇 → 目標 FD レベル 〇)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が相談しやすい雰囲気作りに努める</li> <li>・学生の講義受講状況を確認する (出席管理システム等)</li> <li>・他教員に学生の学習習得状況等を確認する</li> <li>・メール、電話、対面等で学生に学習習得状況や心理面の把握を行い、適切に支援する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>FD マザーマップで評価した項目の中から目標を上げて下さい。全ての項目に対して目標を上げる必要はございません。</p> </div>
<b>中間評価 (9月頃) 評価</b>	
評価日    月    日	
<p>I. 2) 教育 4-1. 2 具体的行動計画に沿って実施中、後期も継続する。 中間評価時、必要時には具体的対策を追記する。 (達成度 50%)</p> <p>II. (達成度 %)</p>	
<b>最終評価 (3月頃) 評価と今後の課題</b>	
評価日    月    日	
<p>I. 2) 教育 4-1. 2 具体的行動計画に沿って実施したため目標は、ほぼ達成できた。 (達成度 90%)</p> <p>II. (達成度 %)</p> <p>【今後の課題】 2) 教育 4-1. 2 はレベル II を達成したため来年度はレベル III を目指す。</p>	
<b>研修・学会参加や研究等</b>	

第一薬科大学 看護学部 FD 委員会

# 令和 4 年度 FD 自己目標シート

領域 氏名

作成日

目 標	具 体 的 行 動 計 画 (具体的な取組み・行動内容・行動スケジュール等)
I. (現在の FD レベル○→目標 FD レベル○)  II. (現在の FD レベル○→目標 FD レベル○)	
<b>中間評価 (9 月頃) 評価</b>	
評価日 月 日	
I. (達成度 %)  II. (達成度 %)	
<b>最終評価 (3 月頃) 評価と今後の課題</b>	
評価日 月 日	
I.  (達成度 %)  II.  (達成度 %)  <b>【今後の課題】</b>	
<b>研修・学会参加や研究等</b>	





**薬学部**  
**FD 講習会報告**

**令和 3 年度**



## 令和3年度 FD 講習会一覧

第1回 講習会 (4月21日 16:00~17:00)

演題:「医療業界における AI・DX」

講師:藤原 健真 氏 (株式会社 HACARUS 代表取締役 CEO)

第2回 講習会 (5月24日 17:00~17:30)

演題:「Google Classroom を用いたピア・ラーニングシステム」

講師:松延 千春 先生 (本学 薬学教育推進センター 助手)

第3回 講習会 (6月28日 17:00~17:30)

演題:「学術協定締結大学における IT 化の現状」

講師:大光 正男 先生 (本学 地域医療薬学センター 准教授)

第4回 講習会 (7月13日 16:00~17:30)

演題:「薬剤師業界を取り巻く AI・DX」

講師:天野 拓也 氏 (株式会社グラフ)

第5回 講習会 (7月26日 13:30~14:30)

演題:「個人情報保護法の基本と令和2年改正法」

講師:松浦 大 氏 (個人情報保護委員会 上席政策調査員)

第6回 講習会 (9月10日 16:00~17:00)

演題:「データ分析手法 (AI、機械学習、ディープラーニング)」

講師:有馬 英俊 先生 (本学 臨床薬学分野 教授)

第7回 講習会 (9月22日 16:30~17:30)

演題:「薬剤師業界を取り巻く AI・DX (後編)

医療データサイエンティストとしての将来像」

講師:天野 拓也 氏 (株式会社グラフ)

第8回 講習会 (10月19日 16:30~17:30)

演題:「Google Colaboratory を使用した機械学習の実装 (前編)」

講師:有馬 英俊 先生 (本学 臨床薬学分野 教授)

第9回 講習会 (12月1日 16:30~17:30)

演題：「Google Colaboratory を使用した機械学習の実装 (後編)」

講師：有馬 英俊 先生 (本学 臨床薬学分野 教授)

第10回 講習会 (2月14日 16:30~17:30)

演題：「Active learning and teaching satisfaction」

講師：Denise Epp 先生 (本学 薬学教育推進センター 准教授)

第11回 講習会 (3月22日 15:30~17:00)

演題：「ハラスメントの基本的理解と対策」

講師：福井 慎一郎 氏 (福岡セントラル法律事務所 弁護士)

外部オンラインセミナー (11月24日 13:00~15:05)

「DX時代のインフラ整備と産学連携のデータサイエンス教育」

演題：「今、高等教育機関に求められる AI・データサイエンス人材育成」

講師：江口 純一 氏 (経済産業省 商務情報政策局 情報化審議官)

演題：「教育・研究活動を支える東北大学のデジタル活用の取り組み」

講師：青木 孝文 先生 (国立大学法人 東北大学 理事・副学長)

外部FDプログラム (8月7日)

アントレプレナーシップ教育向上のための教員向けプログラム (FD)

演題：「米バブソン大学におけるアントレプレナーシップ教育の在り方」

講師：山川 恭弘 先生 (バブソン大学 アントレプレナーシップ 准教授)

## 令和3年度 FD 講習会 報告書

### ◆ 第1回 講習会

1. 演題：「医療業界における AI・DX」
2. 会場：オンライン・ミーティング
3. 日時：2021年4月21日 16:00～17:00
4. 講師：藤原 健真 氏（株式会社 HACARUS 代表取締役 CEO）
5. 参加者：本学教職員 72名（アンケート提出者）

#### 6. 内容：

- 6-1. 講師紹介
- 6-2. 会社概要（株式会社 HACARUS）
- 6-3. DX と AI
- 6-4. 診断支援 AI と AI 創薬
- 6-5. HACARUS での支援内容

#### 7. 習得事項および所感

##### 7-1. 習得事項

医療業界は、飛躍的に進化した機械学習（AI）を診断支援や創薬の分野に適用している。これらのニーズに応えるべく、滋賀大学に本邦初のデータサイエンス学部（河本薫教授）が設立され、次々と大学でのデータサイエンティスト養成が進められている。株式会社 HACARUS の従業員の約7割はデータサイエンティストであり、これまでに医学領域では、子宮頸がん、肝がん、脳梗塞、心疾患診断支援 AI を開発し、薬学領域では、発がん機序の解明やアルツハイマー病などの中枢変性疾患治療薬に AI を適用して大学と共同研究を進めて来た。現在、同社が注力する事業にデータサイエンティスト育成プログラムがある。医療データサイエンスに関する講習や大学等での AI 部門の立ち上げ支援が含まれる。

##### 7-2. 所感

今回の講習会では、本学4年制薬学部設立に関する以下の情報や着想も得た。

- ・株式会社 HACARUS は、医療データサイエンスを主要なカリキュラムとする本学4年制薬学部に見出し、その設立に大変興味を持っている。
- ・株式会社 HACARUS が提供しているデータサイエンティスト育成プログラムには、薬学出身者の参加は皆無で、今後はデータサイエンスを習得した薬学部出身者が望まれる。

・本学4年制薬学部は“創薬ではない”データサイエンスを可能とする独自色を打ち出すことが重要と考えられる。例；アジアを中心とした伝統医療のエビデンス検証－漢方、中医学、韓医学、アーユル・ヴェーダなどのアジア伝統医療の効果を膨大なデータの解析により検証する。中国や台湾に多数ある本学提携校との共同研究プロジェクトも意義深いと考える。

## ◆ 第2回 講習会

1. 演題：「Google Classroom を用いたピア・ラーニングシステム」
2. 会場：オンライン・ミーティング
3. 日時：2021年5月24日 17:00～17:30
4. 講師：松延 千春 先生（本学 薬学教育推進センター 助手）
5. 参加者：未集計

### 6. 内容：

- 6-1. Google Classroom の利点と欠点
- 6-2. 上位のバージョンの存在
- 6-3. Google Classroom 使用のデモストレーション
- 6-4. 本学教育推進センターでの事例紹介

### 7. 習得事項および所感

#### 7-1. 習得事項

Google Classroom は、Google 社が提供する無料のアプリケーションで、双方向性のやり取りや時間管理が容易に出来るという利点を持つ。通常、個人アカウントを作成して利用するので、やり取り出来るデータの保有容量が少なく（～15GB）、大人数では使用しづらいという欠点も持つ。しかし、「Google Workplace for Education」という上級バージョンに登録すれば、100TB までの保有容量に拡大可能である。実際の使用に関しては、受け手がアカウント登録を行えば、送り手と課題のやり取りが出来、進捗状況もリアルタイムで把握することが可能となり、最適なタイミングで質問に回答したり、課題レポートへのコメントも出来る。本学教育推進センターでは、このような特徴をもつ Google Classroom を用いて、学生同士の双方向性学習を薦めている。

#### 7-2. 所感

今回の講習会では、以下の情報や着想を得た。

- ・本学教員が IT を利用した学習システムをノーコストで使用して、既に成果を上げつつある（第一薬科大学研究年報 37: 13-23, 2021）。
- ・外部から専門家を講師として招くと同時に、本学で既に取り組みされている DX 事例を紹介することで、教職員が IT を使用して教育・研究、実務を工夫しようというモチベーションを高めることが出来るのではないかと考える。
- ・今後も、本学で既に着手されている DX 事例を紹介し、IT を使用したシステム構築の先にある本学教職員が実現したいビジョンを、より鮮明なものに出来るよう工夫を重ねたいと思う。



#### ◆ 第4回 講習会

1. 演題：「薬剤師業界を取り巻く AI・DX」
2. 会場：オンライン・ミーティング
3. 日時：2021年7月13日 16:00～17:30
4. 講師：天野 拓也 先生（株式会社グラフ）
5. 参加者：本学教職員 54名
  
6. 内容：
  - 6-1. 挨拶：株式会社グラフ 原田 博植 代表取締役
  - 6-2. 天野先生自己紹介：データサイエンティストとして会社に勤務しながら、週末は薬局薬剤師として活躍
  - 6-3. データサイエンティストのわたしが薬剤師をしながら気づいた事：薬局業務における3つのエピソード
  - 6-4. 薬剤師業界を取り巻く AI・DX の使われ方
  - 6-5. データサイエンティストとは
  - 6-6. 質疑応答
  
7. 習得事項および所感
  - 7-1. 習得事項  
医療業界全般にわたるデータサイエンスの活用事例が紹介された。製薬開発、卸・流通、病院、入院患者、外来・消費者という薬の流れにおいて、データサイエンスを適用する効用と、それを実現可能にするためのデータサイエンティストの関わり方に関して理解が深まった。入院患者への対応では、看護記録における音声入力や転倒予測とその防止における事例が紹介され、看護学部教員にとっても興味深いものとなった。データサイエンティストに必要な能力として、「ビジネス力（課題解決能力）」、「データサイエンス力（情報科学を理解して使う力）」、「データエンジニア力（実装・運用力）」の3つを挙げ、その中でも課題解決能力の重要性が強調された。データサイエンスに基づき、ビジネス価値を高める過程において、「課題の理解」から「分析・開発時間」を経て「AI化によるソリューション」に至る3段階が示された。この過程において、課題を理解し問題を解決する段階が、ビジネス価値を高めるために重要であることが強調された。
  - 7-2. 所感  
今回の講習会では、以下の情報や着想を得た。
    - ・現在、日本の大学における多くのデータサイエンス学部においては、「データサイエンス力（情報科学を理解して使う力）」や「データエンジニア力（実装・運用力）」に重点がおかれている。今後、本学4年制薬科学科教育の特色を生かして人材を育成

する上で、「ビジネス力（課題解決能力）」の視点は重要であると考えられる。

・本学の価値を高めて行く上で、「課題の理解」から「分析・開発時間」を経て「AI化によるソリューション」に至る3段階モデルは示唆に富むのではなかろうか。本学におけるDXはあくまでも手段としての分析・開発であり、本学教職員が既に持っている知識や経験を十分に活用しつつ、課題をよく理解してデータに基づいた解決を行うべきであると考えられる。

## ◆ 第5回 講習会

1. 演題：「個人情報保護法の基本と令和2年改正法」
2. 会場：オンライン・ミーティング
3. 日時：2021年7月26日 13:30～14:30
4. 講師：松浦 大 先生（個人情報保護委員会 上席政策調査員）
5. 参加者：本学教職員 79名（アンケート提出者）

### 6. 内容：

- 6-1. 個人情報保護法の基本
- 6-2. 令和2年改正個人情報保護法
- 6-3. 令和3年改正のポイント

### 7. 習得事項および所感

#### 7-1. 習得事項

はじめに、個人情報、個人識別符号、要配慮個人情報などの用語の定義を確認した。事業者が守るべきルールとして、個人情報の取得・利用に関するもの、個人データの保管・管理と第三者提供に関するもの、保有個人データの開示請求等への対応の4つが挙げられる。ただし、大学その他の学術研究機関などで学術研究の用に供する目的の場合は、適用除外例とされる。令和2年に、個人の権利利益の保護、技術革新の成果による保護と活用の強化、国際的な制度の調和・連携、AI・ビッグデータ時代への対応という5つの視点から、個人情報保護法の改正が行われた。令和3年度の法改正では、越境移転に係る情報提供の充実などが進められている。

#### 7-2. 所感

今回の講習会では、以下の情報や着想を得た。

- ・ 個人情報の保護法においては、個人の権利利益の保護の強化に加えて、データの活用という視点も取り入れており、世界のデジタル化の進展によるデータ活用の潮流に法律も対応していることが分かった。
- ・ 本学においても、学生の個人情報保護に十分配慮しながら、データを活用した教育研究を行い、その結果に基づく修学支援を行っていくことが必要ではないかと感じた。

## ◆ 第6回 講習会

1. 演題：「データ分析手法（AI、機械学習、ディープラーニング）」
2. 会場：オンライン・ミーティング
3. 日時：2021年9月10日（金） 16:00～17:00
4. 講師：有馬 英俊 先生（本学 臨床薬学分野 教授）
5. 参加者：本学教職員 33名（アンケート提出者）

### 6. 内容：

- 6-1. 人工知能（AI）とは？
- 6-2. 機械学習
- 6-3. ディープラーニングとニューラルネットワーク
- 6-4. AI性能の向上

### 7. 習得事項および所感

#### 7-1. 習得事項

人工知能（AI）に関して戦後2回のブームが訪れたが、2000年代半ばから第三次AIブームが到来している。AIは、記号化あるいは数値化された量的及び質的デジタルデータを扱う。データ分析を得意とするAIは、データから意味あるものを見出し、予測、発見、分類を行う。現時点でのAIは汎用型人工知能というよりは特化型人工知能に該当し、ディープラーニングで精度の高まった機械学習により、自ら識別、予測、実行を遂行する。機械学習において、AIは入力データに応じて確率的にアウトプットを行うので、入力データの質が重要となる。ディープラーニングにおいては、AIが自らデータを識別・学習するため、プログラミングそれ自体の重要性は低くなって来ている。機械学習の方法としては、教師あり学習及び教師なし学習がある。教師あり学習とは、データ入力に教師ラベルがつくもので、教師なし学習というのは、データのパターンにAIが従うものである。ディープラーニングを可能にしているのはニューラルネットワークという構造で、その原型は1950年代に開発されたパーセプトロンにある。ニューラルネットワークでは、単相のパーセプトロンに多くの中間層を入れ込んで、バックプロパゲーションにより出力と正解との誤差を縮小して行く。この仕組みにより精度の高い学習が短期間で可能となる。特に、画像における特徴抽出は自動化できるため、人が入力する必要がない。近年のAIの性能が著しく向上した背景には、深層ニューラルネットワークという構造、大規模なデータの入手が可能になったこと、そして、コンピューターのハード面の強靱化が挙げられる。

## 7-2. 所感

今回の講習会では、以下の情報や着想を得た。

- ・ AI の能力が人間の能力を超えるというシンギュラリティをはじめ、人間の職業が AI に代替されるという脅威論が巷に流布していますが、現時点での AI は特化型人工知能である点に留意する必要がある。

- ・ 特定の領域で大きな力を発揮する AI を取り入れつつ、我々は人間にしかできない領域に時間とエネルギーを投入すべきである。特に、教育や医療の分野において、このような視点から新しい発想を行っていくことが、今後重要になってくるのではないかと推測される。

- ・ 本学における DX においても、業務の効率化やコストの削減を図ることに加え、各教職員の能力を発揮するためにはどのように AI と付き合っていくかという視点を持つことも重要であると感じた。

## ◆ 第7回 講習会

1. 演題：「薬剤師業界を取り巻く AI・DX（後編）  
医療データサイエンティストとしての将来像」
2. 会場：オンライン・ミーティング
3. 日時：2021年9月22日 16:30～17:30
4. 講師：天野 拓也 先生（株式会社グラフ）
5. 参加者：本学教職員 22名（アンケート提出者）
  
6. 内容：
  - 6-1. クラークの三法則（アーサー・C・クラーク著「未来のプロファイル」より）
  - 6-2. ムーンショット型研究開発制度
  - 6-3. 新型コロナウイルス感染症後の日本
  - 6-4. ヘルスケア先進国の状況
  - 6-5. 未来医療の行方
  - 6-6. 質疑応答
  
7. 習得事項および所感
  - 7-1. 習得事項

未来予測に関する原則として、SF作家のアーサー・C・クラークの唱えた「クラークの三法則」が挙げられる。現在、我々が直前している AI の驚くべき発展とそれに伴う急激な変化は、クラークの第3法則「十分に高度な技術は魔法と見分けがつかない」を彷彿とさせる。我が国においては、ムーンショット型研究開発制度が医療分野での野心的な研究を推進している。主な疾患を予防克服し、100歳まで健康不安なく人生を楽しむサステイナブル社会の実現を目指している。新型コロナウイルス感染症拡大は、これまで遅々として進まなかった日本のデジタル化を推進する契機となった。例えば、オンライン診療、ドローンによる薬剤配送、医療におけるマイナンバー利用などが挙げられる。今後は、電子処方箋の発行や医療情報共有の進展などが見込まれる。ヘルスケア先進国では、次のような事例が注目される。デンマークやイスラエルにおける NDB（national data base）活用、米国におけるバーチャル・ケアセンターやデータ分析によるがんの早期発見、中国の AI による無人診療所などが挙げられる。世界的に見たヘルスケアの動向として注目すべき点は、EMR（electronic medical record）が充実し、EHR（electronic health record）や患者の視点で記録された PHR（personal health record）との連携が進み、医療データの蓄積から利活用への段階へと移行しつつあることである。今後、日本の医療においては、医療利便性の向上や AI ホスピタルの実現などが進展すると推測され

る。特に後者は、医療従事者の負担軽減や生産性の向上のために不可欠であると考えられる。

## 7-2. 所感

現在様々な分野で AI の活用が進んでいるが、今後は、医療業界における AI 利用の重要性がますます高まる。多くの IT 企業は、ゲノミクス、画像解析、音声・文字認識、統計といった医療関連領域に参入したいと考えている。我が国を含む多くの先進国において、医療データの蓄積の段階から利活用への段階に移る時期に差し掛かっていることは特に注目される。来年度開設予定の本学 4 年制薬科学科は、基礎薬学・医療薬学の知識と医療データを活用できる技能習得するカリキュラムを有している。世の中が医療データを利活用する段階に移行しつつある時期に、本学 4 年制薬科学科が開設されるというのは非常にタイムリーであり、IT 企業のニーズにも十分応えることが出来ると考えられる。

## ◆ 第8回 講習会

1. 演題：「Google Colaboratory を使用した機械学習の実装（前編）」
2. 会場：オンライン・ミーティング
3. 日時：2021年10月19日 16:30～17:30
4. 講師：有馬 英俊 先生（本学 臨床薬学分野 教授）
5. 参加者：本学教職員 22名（アンケート提出者）

### 6. 内容

- 6-1. Google Colaboratory：Pythonなどのコーディングが自由に出来るアプリである。Google Colaboratoryの特徴は、Google社が無料で提供している点、クラウド上で作動するため個人のPCの処理能力に依存しない点などが挙げられる。
- 6-2. 自動化機械学習（AutoML）：機械学習を行うプロセスとして、問題や仮説の定義、データ収集、データ加工、特徴量設計、機械学習モデルの生成、モデルの運用といったステップがある。これらのステップの中で、問題定義や一部データ収集などは人が行う必要がある。一方、AutoMLはデータの加工からモデル設計までを自動化する。
- 6-3. PyCaret：Pythonの低コード機械学習ライブラリーであり、仮説から考察までの時間短縮を目的としている。データサイエンティストとアナリストは、反復的な機械学習を効率的に実行でき、コード実装に費やす時間が大幅に短縮される。
- 6-4. Kaggle：世界中の機械学習・データサイエンスに携わっている約40万人の方が集まるコミュニティーである。Kaggleからデータ収集を行ったり、環境設定を行うことが容易な点が特徴である。

### 7. 習得内容と所感：

今回は、Kaggleから「タイタニック号の遭難における生存者」に関するデータ一式をダウンロードし、Google Colaboratoryを用いて機械学習を体験した。作業を円滑に進めるために、参加者は、各自のPCにGoogle Colaboratoryの環境設定を行い、Kaggleへの事前登録を済ませていた。実際に機械学習を始めると、データ加工、特徴量設計、機械学習モデルの生成、モデルの運用といったステップを順次速やかに進めることが出来た。無料のアプリやデータプラットフォームにアクセスして自分のPCで実行できるので、今後は様々な機械学習に挑戦してみても良いと感じた。自分の理解と経験が深まれば、日常の反復業務の自動化や効率化に応用できると思う。組織のデジタルトランスフォーメーションの進め方には、システム導入を一気に行うトップダウン式のもの以外に、個人のアプリ活用などを順次組織に拡張して行くボトムアップ式のものもあり、それぞれに一長一短があるのではないかと考える。



## ◆ 第9回 講習会

1. 演題：「Google Colaboratory を使用した機械学習の実装（後編）」
2. 会場：オンライン・ミーティング
3. 日時：2021年12月1日 16:30～17:30
4. 講師：有馬 英俊 先生（本学 臨床薬学分野 教授）
5. 参加者：本学教職員 22名（アンケート提出者）

### 6. 内容

- 6-1. Google Colaboratory：Pythonなどのコーディングが自由に出来るアプリである。Google Colaboratoryの特徴は、Google社が無料で提供している点、クラウド上で作動するため個人のPCの処理能力に依存しない点などが挙げられる。
- 6-2. 自動化機械学習（AutoML）：機械学習を行うプロセスとして、問題や仮説の定義、データ収集、データ加工、特徴量設計、機械学習モデルの生成、モデルの運用といったステップがある。これらのステップの中で、問題定義や一部データ収集などは人が行う必要がある。一方、AutoMLはデータの加工からモデル設計までを自動化する。
- 6-3. PyCaret：Pythonの低コード機械学習ライブラリーであり、仮説から考察までの時間短縮を目的としている。データサイエンティストとアナリストは、反復的な機械学習を効率的に実行でき、コード実装に費やす時間が大幅に短縮される。
- 6-4. Scikit-learn：データセットライブラリーの一つであり、無料でビッグデータを入手出来る。Scikit-learn以外にも、OpenML、Keras、PyTorch、TensorFlow Datasetsなどのライブラリーがある。その他、日本政府系ライブラリーには、e-stat、DATA.GO.JP、衛星データや気象庁の観測値などがあり、データに自由にアクセス出来る。

### 7. 習得内容と所感：

今回の機械学習では、Scikit-learnにある糖尿病の診療データ（diabetes\_regression\_20211201.jpynb）を用いて回帰予測モデルをGoogle Colaboratoryに機械学習させ、未知のデータに対して糖尿病の発症予測因子の予測を行った。今回、予測に使用したモデルは、Ridge回帰と呼ばれる正則化された線形回帰の一つであった。過学習を防ぎ、予測の当てはまりを良くする工夫がなされている。前回（10/21）の講習会から、また一歩進んだ内容の講習になったと感じる。教育に関するライブラリーからビッグデータを入手し、今回実装で行った機械学習後の回帰モデルを使用して、本学の教育データを解析してみるのも意義ある試みではないかと考える。

## ◆ 第 10 回 講習会

1. 演題：「Active learning and teaching satisfaction」
2. 会場：オンライン・ミーティング
3. 日時：2022 年 2 月 14 日 16:30～17:30
4. 講師：Denise Epp 先生（本学 薬学教育推進センター 准教授）
5. 参加者：本学教員 26 名（アンケート提出者）

### 6. 内容

- 6-1. 新型コロナウイルス感染症の拡大で、2020 年に大学の対面講義が遠隔講義に切り替わった。ビデオ動画配信や Zoom を使用したオンライン授業、大学の web サイトを介した情報提供や修学手続きなどを取り入れることにより、授業の継続が可能となった。しかし、これは、教員から学生への一方向的なアプローチであり、学生からの能動的参加は限られ、修学意欲の低下や学習効果の低減なども招く結果となった。
- 6-2. 遠隔授業を効果的なものにするためには、学生に学習への期待や責任感を持たせ、複合的な活動を通して評価を行う必要がある。また、教員と学生が相互に意思疎通するための環境も整備される必要がある（スマートフォンやタブレット使用時の Wi-fi 環境など）。
- 6-3. 1 年次生に対する「基礎英語」や 4 年次生に対する「薬学英語」の授業では、毎週、授業内容の定着度を測るために小テストを実施した（総括的評価）。更に、学んだ知識を能動的に活用するために、患者－薬剤師のロールプレイングを行い、ループリックを用いて評価した（形成的評価）。総括的評価と形成的評価を併用することは、学生と教員の双方向性授業の成功の鍵となると考えられた。
- 6-4. 以上のような一連の英語のアクティブラーニングの終了時に、学生アンケートをとった。学生は自発的に時間をかけて学習しており、授業への満足度も高い結果となった。

### 7. 習得内容と所感：

今回、Epp 先生の手作りの遠隔授業とその効果に大変啓発された。手作りといえども、随所に IT デバイスを効果的に活用して授業を展開している（Google form による小テストの実施と採点、Google translate による英訳・和訳、ロールプレイのビデオ録画アプリ Flipgrid の利用など）。本年度の FD・SD 講習会の基調は「本学における DX 推進」であるが、まさに授業における DX の好例ではないかと思う。本学の DX においては、デジタル化自体が目標ではなく、目標の実現のためのデジタル化が重要であると考えられる。講演の中で、Epp 先生はこのような授業の準備と成績評価にか

なりの時間と労力を費やさなくてはならなかったと述べていた。教員が効率的に良い授業を設計し、実行出来るような大学全体のシステム導入が必要ではないかと感じた。

## ◆ 外部 FD プログラム

### アントレプレナーシップ教育向上のための教員向けプログラム (FD)

開催案内周知のご協力について (依頼)

福岡未来創造プラットフォーム 地元就職・定着 WG  
(福岡市 経済観光文化局 創業支援課)

平素より大変お世話になっております。

地元就職・定着 WG で取り組んでおります「Fukuoka School of Entrepreneurship (以下、FSE)」事業から、福岡未来創造プラットフォーム加盟大学の教員を対象とする、アントレプレナーシップ教育向上のためのプログラム Faculty Development (以下、FD) を開催することとなりましたので、ご案内申し上げます。

事業計画書で定めた FSE の目標である「アントレプレナーシップ教育に携わる教員の連携を図ることで、福岡都市圏全体のアントレプレナーシップ教育の向上を目指す」ためのプログラムとなります。

一人でも多くの教員の方にご参加いただければと考えております。趣旨をご理解頂き、各大学の教員様へ、広報方周知について、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

### 記

【開催日時】 令和3年8月7日(土) 10時~16時(途中1時間程度の昼食休憩)

【開催場所】 Fukuoka Growth Next 1F イベントスペース(福岡市中央区大名2-6-11(旧大名小学校)) 下記別添地図参照

【対象】 大学教員 ※講義科目をご自身で開設することができる教授、准教授など

【テーマ】 『米バブソン大学におけるアントレプレナーシップ教育の在り方』

【講師】 バブソン大学 アントレプレナーシップ准教授 山川 恭弘 博士

【定員】 45名程度(プラットフォーム加盟大学 各3名程度を予定)

【事前課題】 参加にあたり事前課題があります(プログラム内で全体議論を行います)

参加者は、下記テーマの事前課題を添えて申し込みください。

テーマ:「あなたがアントレプレナーシップの新科目を開設する際に何を検討しますか?」

分量: A4 1枚程度

【参加費】 無料(文部科学省令和2年度補正予算「SCORE(大学推進型)」から拠出)

【申し込み】 各プラットフォーム加盟大学で、3名程度のご参加となるよう学内調整の上、下記フォームより参加お申込みいただきましたら幸いです。

申込先(事前課題も添付ください): <https://forms.gle/SerbXsHQPwXHdmsY7>  
締め切り: 2021年8月2日(月) 正午

## 1. その他

### (1) Fukuoka School of Entrepreneurship (FSE) とは

福岡未来創造プラットフォーム 地元就職・定着 WG での取組みのひとつで、福岡都市圏大学による大学横断型のアントレプレナーシップ教育共通プラットフォーム事業。福岡都市圏のすべての学生に対しアントレプレナーシップ教育の門戸を開き、アントレプレナーシップマインドを持った人材の輩出、福岡への多様な人材の集積を目的としています。福岡都市圏の大学がそれぞれのアントレプレナーシップ教育に関する講義を持ち寄り、福岡都市圏大学の学生が自由に講義を受講できる体制の構築を目指しております。

### (2) FD(Faculty Development)とは

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称であり、ご案内以外のプログラムも随時開催する計画です。

### (3) 今後について

バブソン大学が主催しているアントレプレナーシップ教員向けイベント SEE (Symposium for Entrepreneurship Educators) を、バブソン教員を福岡に招聘して、来年2月～3月で開催する計画です。

## 【問い合わせ】

### (1) FSE について

福岡市 経済観光文化局 創業支援課 (松尾/池谷 (いけやつ)) TEL 092-711-4455

### (2) プログラムについて

九州大学ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター (五十嵐/山田/中原)  
TEL 092-802-6060 (代表) / <mailto:info@qrec.kyushu-u.ac.jp>  
(文部科学省令和2年度補正予算「SCORE (大学推進型)」 主幹機関)

## アントレプレナーシップ教育向上のための教員向けプログラム (FD) 講師紹介

テーマ『米バブソン大学におけるアントレプレナーシップ教育の在り方』

バブソン大学 アントレプレナーシップ准教授 山川 恭弘 博士

### プログラム概要

10:00～12:00 第1部 バブソン大学におけるアントレプレナーシップ教育について  
(質疑含む)

- ・プロセス・方法論としてのアントレプレナーシップ教育概観
- ・バブソン流アントレプレナーシップ教育のDNA

14:00～15:30 第2部 アントレプレナーシップのコースデザイン (全体討議)

- ・学部新生を対象とする起業体験プログラム (FME) の概要・運用
- ・バブソン大学における新科目の開設例

15:30～16:00 Symposium for Entrepreneurship Educators に向けて (全体討議)

- ・プログラム概観、セッショントピックについて

### 山川 恭弘 (やまかわ・やすひろ)

バブソン大学アントレプレナーシップ准教授、東京大学特任教授、一橋大学特任教授、神戸大学特任教授、九州大学客員教授、ベンチャーカフェ東京代表理事、CIC JAPAN プレジデント、GRITS スポーツイノベーターズ社外取締役、WEIN 社外取締役他。慶應義塾大学法学部卒業後、エネルギー業界にて新規事業開発に携わる。ピーター・ドラッカー経営大学院にて経営学修士課程(MBA)修了、テキサス大学ダラス校にて国際経営学博士号(Ph.D.)取得。バブソン大学では、学部、MBA、エグゼクティブ向けに、起業道・失敗学・経営戦略を教える。ベンチャー数社のディレクター・アドバイザーボードも務める。起業家、経営者からは「ひとことで表すと”CHAOS (カオス)”」と回答されることが多い。スタートアップ段階、事業の天地創造段階で最も力を発揮する。教え子に限らず、起業家や起業家予備軍から助言を求める声には真摯に対応することを信条としている。

近著「全米ナンバーワンビジネススクールで教える 起業家の思考と実践術」(東洋経済新報社 2020年)

## FD 研修会参加報告

企画：アントレプレナーシップ教育向上のための教員向けプログラム (FD)

日時：令和3年8月7日(土) 10時～16時

場所：Fukuoka Growth Next 1F イベントスペース

参加者：炬口真理子(報告者)

### 〈報告〉

福岡未来創造プラットフォーム加盟大学の教員を対象として、FSE (Fukuoka School of Entrepreneurship)の目標である「アントレプレナーシップ教育に携わる教員の連携を図ることで、福岡都市圏全体のアントレプレナーシップ教育の向上を目指す」ためのプログラムに参加した。

講師の山川恭弘氏は、米国バブソン大学アントレプレナーシップ准教授、東京大学・九州大学などの特任教授であり、ベンチャー数社のディレクター・アドバイザーボードも務める。

バブソン大学は、アントレプレナーシップの分野で世界的に高い評価を得ており、「教育の質、投資価値、卒業生の年収」を元にした大学ランキングでは全米655の大学中1位とされたほか、2016年にはForbesが選ぶ「留学生が選ぶべき大学ランキング」で1位に選ばれている。

第1部では、アントレプレナーシップ教育の本質は「起業家のように考え、起業家のように行動できる人材を育成する」ことにあり、その上でバブソン大学が重視するのが

「ET&A (Entrepreneurial Thought & Action)」メソッドであり、「とにかく行動!」「失敗は必然!」「人を巻き込め!」という起業の3原則に基づいていることを説明された。

また、日本の現況の教育制度ではアントレプレナーシップ教育が根付きにくいのが、それを打破する戦略を話された。第2部では、バブソン大学の授業例として、大学が学生に起業するための資金を貸付けて、起業のプロセスを実際に学び就職に繋げるというバブソンプログラムをビデオを交えて紹介された。全体討論では、既にアントレプレナーシップ教育を実践している九州大学、九州産業大学、福岡大学などの教員が山川氏に質問、アドバイスを求める活発な討論が行われた。今回参加して、アントレプレナーシップが若者にとってとても興味深い分野であることを知り、本学においても取り入れるべき教育であると考えた。

## アントレプレナーシップ教育向上のための教員向けプログラム（FD）参加(報告)

第一薬科大学 薬学部 衛生化学分野  
講師 小武家 優子

### 【FD の背景】

地元就職・定着 WG で取り組んでいる「Fukuoka School of Entrepreneurship（以下、FSE）」事業から、福岡未来創造プラットフォーム加盟大学の教員を対象とする、アントレプレナーシップ教育向上のためのプログラム Faculty Development（以下、FD）が開催され、参加した。

事業計画書で定めた FSE の目標である「アントレプレナーシップ教育に携わる教員の連携を図ることで、福岡都市圏全体のアントレプレナーシップ教育の向上を目指す」ためのプログラムの位置づけである。

### 【アントレプレナーシップ教育向上のための教員向けプログラム（FD）の概要】

『米バブソン大学におけるアントレプレナーシップ教育の在り方』のテーマとして、「The Entrepreneurial Mindset(福岡未来創造プラットフォームに向けての起業家的思考と行動法則)」(ボブソン大学 山川泰弘准教授)について学んだ。

The Method of Entrepreneurial Thought & Action(ET & A)において、ACT、LEARN、BUILD、(AND REPEAT)やってみて、学んで、つみあげて、繰り返すことが重要である。起業家的思考×行動法則=行動を変える力となり、ボブソン大学では、プロセス・方法論としての起業教育が、位置づけられている。

【開催日時】 令和3年8月7日（土）10時～16時

【開催場所】 Fukuoka Growth Next 1F イベントスペース（福岡市中央区大名 2-6-11（旧大名小学校））

【対 象】 大学教員 ※講義科目をご自身で開設することができる教授、准教授など

【テ ー マ】 『米バブソン大学におけるアントレプレナーシップ教育の在り方』

【講 師】 バブソン大学 アントレプレナーシップ准教授 山川 恭弘 博士





**看護学部**  
**FD 講習会報告**

**令和 3 年度**



令和3年度 看護学部 第1回FD学内研修会

日時：令和3年4月5日（月）9:00-11:00

場所：薬学部 情報処理室

講師：第一薬科大学 情報処理室 井川浩史

参加者：看護学部教員 全員

研修内容

1. ZOOM 会議の設定の仕方
2. りざぶ郎（講義室等）予約管理システムの使い方
3. その他、WEB 関連について

## 令和3年度 FD 学内研修報告

### 第2回 FD 学内研修会

日時：8月31日（火）10：00～12：00

場所：2階講義室

参加者：看護学部教員29名、薬学部教員7名（3名はZoom参加）

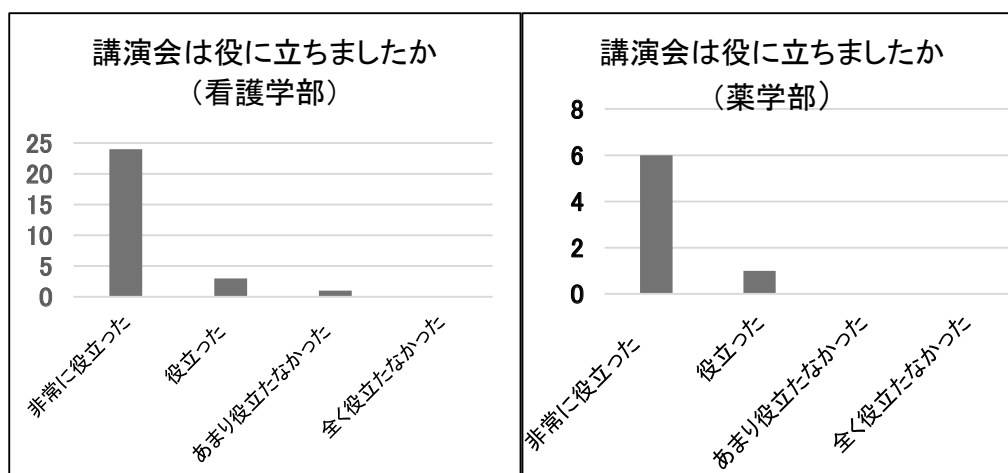
目的：研修会を行い「薬物療法に強い看護職育成のために必要な教育とは」について教員間での共通理解を得る

研修内容：講演 柳田俊彦先生（宮崎大学医学部看護学科臨床薬理学教授）

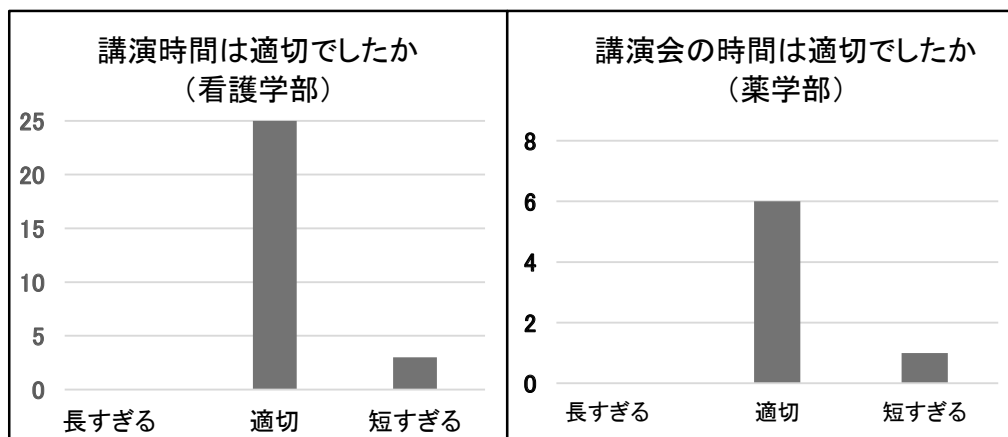
講演の学びや気づきについてグループワーク、発表

### 【FD 学内研修アンケート結果】

1. この講習会はあなたにとって役立ちましたか？



2. 講演時間は適切でしたか？



3. 今後、希望する講演

<看護学部>

- ・総合演習のための効果的事例を作るために薬看合同のロールプレイを実施したり、柳田先生にシナリオを使ったものなどを紹介していただきたい

<薬学部>

- ・多職種連携教育（IPE）

#### 4、委員会に対する要望等

##### <看護学部>

- ・今回が第一段階として、一回ではなかなか消化できない部分もあったので、単発でなくシリーズ化して学内でのディスカッションも充実させてほしい

##### <薬学部>

- ・同様の研修内容について継続研修を年1~2回
- ・薬学部の教員も多数参加されたらよかったですと思いました

#### 5、研修会についての感想

##### 1) 薬学部との連携教育

##### <看護学部>

- ・コア・カリに示されたように看護援助技術を含めた実践能力を修得するためには薬学部の教員の協働しながら教育の充実を図ることも重要。

##### <薬学部>

- ・後期の臨床薬理学の講義は、事前に看護学部の先生とコミュニケーションを取り、看護学部が求める薬理学講義に近づけていけるようアップデートをしていく必要がある。

##### 2) 教育内容・方法

##### <看護学部>

##### ①ロールプレイについて

- ・薬学に対する知識だけでなく、それを看護援助に結びつけられるような学習の方法を考えてためにロールプレイなどは必要、薬剤に対する演習などを取り入れた学習方法を考えたい。

##### <薬学部>

- ・柳田先生が行われているロープレは、チーム医療推進が叫ばれる現在において、極めて重要な実践で、さらに多くの大学で行われるべき取り組みだと実感した。

##### ②その他の教育内容・方法等

- ・薬に強い看護師を育てるためには、薬理について外部講師に丸投げではなく、教育する側も看護学教育の中で少しずつ薬物についての教授をしていく
- ・使用頻度の高い薬剤を割り出しチームで情報を共有する iDrug 教育方法があること知った、看護職は患者へ与薬する実践者であるため、薬理作用の知識だけではなく、看護の視点を大事にしたい。
- ・薬物療法に強い看護職とは、知識を詰め込むだけでなく、実際の患者さんを想定し、状況や症状などに応じてどのように説明し、学んだ知識を応用できるかが大事である。
- ・基礎教育の中で、どこまで教えるべきかを教員も明確にしておく必要がある



講習会の様子



グループディスカッションの様子

令和3年度 看護学部 第3回 FD 学内研修会

主催；看護学部シミュレーション教育ワーキンググループ

共催；看護学部 FD 委員会

日時；令和3年9月28日（火）10:00—12:00

場所；ZOOM 配信

講師；高知県立大学看護学部 教授 大川宜容先生

テーマ；シミュレーション教育の基礎的知識と実践例

**内容**；高知県立大学でのシミュレーション教育の実践をまじえて、看護学教育にどのようにシミュレーションを取り入れていくか、講演いただいた。

**講評**；COVID19の感染拡大の中でシミュレーション教育が広く導入されている中でのタイムリーな研修内容であった。アンケートの結果も好評で、今後も継続した研修があることを希望する声が多かった。

## 編集委員

### 第一薬科大学 FD 委員会

委員長 小山 進

委員 藤井清永 首藤英二 炬口眞理子

安川圭司 岡崎裕之 松延千春

梶原克彦 荒牧 治

発行人 福岡市南区玉川町 22-1 第一薬科大学内

印刷所 福岡市中央区大濠 1-6-9 エース印刷株式会社

(非売品)

令和4年8月24日印刷

令和4年8月24日印行

発行所 福岡市南区玉川町 22-1 第一薬科大学





